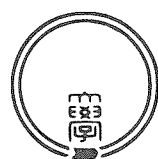


令和5年度

シラバス  
＜履修ガイド＞

介護福祉学科



松本短期大学

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				
10月	10/2 後期オリエンテーション・授業開始(2年生) 10/7 総合型選抜Ⅰ期(1日休講) 10/13~10/15 おとぎ祭					

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			
1月	1/9 授業開始(1・2年生) 1/28 介護福祉士国家試験 随時 後期期末試験及び再試験(2年) (最後1/19) 1/29~2/2 後期期末試験(1年)					

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	③	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	⑳	24	25
26	27	28	29	30		
11月	11/ 3年目ホームカミングデー 11/13~11/18 地域介護実習(1年生・6日間) 11/18 指定校推薦選抜(1日休講)					

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
⑪	⑫	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	⑳	24
25	26	27	28	29		
2月	2/3 一期一般選抜(1日休講) 2/5~2/9 ケアセラピスト特別講座 2/13~3/7 個別援助実習(1年生・17日間)					

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						
12月	12/9 総合型選抜Ⅱ期・公募推薦選抜・ 社会人選抜(1日休講) 12/26~1/5 冬季休業(1年生) 12/27~1/5 冬季休業(2年生)					

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	⑳	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						
3月	3/5 二期一般選抜(1日休講) 3/13 職業訓練生選抜・総合型選抜Ⅲ期 (1日休講) 3/15 卒業式 3/31 学年終了					

## II. 令和5年度 履修科目の区分と5本柱

### 介護福祉学科1年

領域	授業科目の区分	5つの柱	授業科目名	授業形態	単位数					時間数	令和5年度入学生(1年生)				担当教員名	備考			
					開設単位		卒業		介護福祉士		1年次		2年次						
					必修	選択	必修	選択	必修		選択	前期	後期	前期			後期		
教養科目		ひとの生活を考える	地域生活と文化	講義	2	2					30	2				合津			
			初年度教育Ⅰ	演習	1	1			1			30	1				丸山・合津・福田・齋藤・武井		
			初年度教育Ⅱ	演習	1	1			1			30		1			丸山・合津・福田・齋藤・武井		
			キャリアデザイン入門	演習	1	1			1			30		1			丸山・福田		
			キャリアデザインⅠ	演習	1		1			1		30			1		齋藤・福田		
			キャリアデザインⅡ	演習	1		1			1		30			1		福田・丸山		
			キャリアデザインⅢ	演習	1		1			30				1	福田				
小計					8	5	3	5	3	210	3	2	2	1					
人間と社会	人間の尊厳と自立	ひとの権利を考える	人間の尊厳と自立	講義	2	2			2		30				2	木内			
			人間関係とコミュニケーションⅠ	演習	1	1			1		30	1				永石			
			人間関係とコミュニケーションⅡ	演習	1	1			1		30				1	齋藤			
			現代社会と福祉	講義	2	2			2		30	2				合津			
			社会保障論Ⅰ	講義	2	2			2		30		2			合津			
			社会保障論Ⅱ	講義	2	2			2		30			2		合津			
社会の理解	ひとの権利を考える	社会保障と人間の生活	演習	1	1			1		30				1	合津				
		学修の基礎力を培う	人間の発達と心理的支援	講義	2	2			2		30				2	高下			
		ひとの生活を考える	地域交流演習	演習	1	1			1		30		1			合津・丸山・福田・齋藤・武井			
		小計					14	14		14		270	3	3	2	6			
		介護の基本	ひとの生活を考える	介護福祉論Ⅰ	講義	2	2			2		30	2				福田		
				ひとの権利を考える	介護福祉論Ⅱ	演習	1	1			1		30		1			福田	
ひとの可能性を考える	介護の基本Ⅰ			講義	2	2			2		30	2				丸山			
ひとの生活を考える	介護の基本Ⅱ			演習	1	1			1		30		1			齋藤			
ひとの可能性を考える	介護の基本Ⅲ			演習	1	1			1		30			1		齋藤			
ひとの可能性を考える	介護の基本Ⅳ			講義	2	2			2		30				2	合津			
コミュニケーション技術	ひとの生活を考える	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	1	1			1		30	1				武井				
		ひとの可能性を考える	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	1	1			1		30			1		合津			
		生活支援技術	ひとの生活を考える	生活支援技術の基本	演習	1	1			1		30	1				原田		
				ひとの可能性を考える	生活支援技術Ⅰ	演習	1	1			1		30	1				原田	
				生活支援技術Ⅱ	演習	1	1			1		30	1				原田		
				生活支援技術Ⅲ	演習	1	1			1		30		1			原田		
生活支援技術Ⅳ	演習			1	1			1		30		1			齋藤				
生活支援技術Ⅴ	演習			1	1			1		30			1		原田・武井				
ひとの命と健康を考慮	生活支援技術Ⅵ	演習	1	1			1		30				1	丸山					
介護過程	ひとの生活を考える	家政の生活支援Ⅰ	演習	1	1			1		30	1				齋藤				
		家政の生活支援Ⅱ	演習	1	1			1		30		1			中倉				
		福祉住環境と生活支援	講義	2	2			2		30			2		福田				
		介護過程総論	講義	2	2			2		30	2				福田				
		介護過程Ⅰ	演習	1	1			1		30		1			福田				
		介護過程Ⅱ	演習	1	1			1		30			1		福田				
介護総合演習	ひとの可能性を考える	介護過程Ⅲ	演習	1	1			1		30				1	福田				
		介護過程Ⅳ	演習	1	1			1		30				1	福田				
		介護総合演習Ⅰ	演習	1		1	1			30	1				齋藤	介護福祉士必修			
		介護総合演習Ⅱ	演習	1		1	1			30		1			齋藤	介護福祉士必修			
		介護総合演習Ⅲ	演習	1		1	1			30			1		合津	介護福祉士必修			
		介護総合演習Ⅳ	演習	1		1	1			30				1	合津・丸山・福田・齋藤・武井	介護福祉士必修			
介護実習	ひとの生活を考える	介護導入実習	実習	1		1	1			45	1				齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修			
		介護基礎実習	実習	1		1	1			45	1				齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修			
		地域介護実習	実習	1		1	1			45		1			齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修			
		個別援助実習	実習	3		3	3			135		3			齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修			
		介護総合実習	実習	4		4	4			180			4		合津・齋藤・丸山・福田・武井	介護福祉士必修			
		小計					42	28	14	42	0	1260	14	11	11	6			
こころとからだのしくみ	ひとの命と健康を考慮	こころとからだのしくみⅠ-1	講義	2	2			2		30	2				武井				
		こころとからだのしくみⅠ-2	講義	2	2			2		30	2				丸山				
		こころとからだのしくみⅡ-1	講義	2	2			2		30		2			武井				
		こころとからだのしくみⅡ-2	講義	2	2			2		30		2			花野				
		発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	講義	2	2			2		30	2				武井			
		発達と老化の理解Ⅱ	講義	2	2			2		30		2			花野				
障害の理解	ひとの命と健康を考慮	認知症の理解Ⅰ	講義	2	2			2		30		2			武井				
		認知症の理解Ⅱ	講義	2	2			2		30			2		武井				
		障害の理解Ⅰ	講義	2	2			2		30			2		丸山				
		障害の理解Ⅱ	講義	2	2			2		30				2	丸山				
		小計					20	20		20		300	6	8	4	2			
		医療的ケア	ひとの命と健康を考慮	医療的ケアⅠ	講義	1		1	1			15				1	武井	介護福祉士必修	
医療的ケアⅡ	講義			2		2	2			30			2		丸山・武井	介護福祉士必修			
医療的ケアⅢ	講義			2		2	2			30				2	武井・丸山	介護福祉士必修			
医療的ケアⅣ	演習			1		1	1			15				1	丸山・武井	介護福祉士必修			
小計					6		6	6		90		0	3	3					
合計					90	67	23	87	3	2130	26	24	22	18					

※介護福祉学科の卒業最低単位数 必修67単位+選択科目1単位(介護福祉士必修を除く) 計68単位

※介護福祉士国家試験受験資格取得単位数:必修67単位+選択科目1単位(介護福祉士必修を除く)+介護福祉士必修20単位 計88単位

※選択科目の履修単位数の上限 1年前期0単位 1年後期0単位 2年前期2単位 2年後期1単位(ただし介護福祉士必修を除く)

介護福祉学科2年

領域	授業科目の区分	5つの柱	授業科目名	授業形態	単位数				時間数	令和4年度入学生(2年生)				担当教員名	備考	
					開設単位	卒業		介護福祉士		1年次		2年次				
						必修	選択	必修		選択	前期	後期	前期			後期
教養科目		ひとの生活を考える 学修の基礎力を培う	地域生活と文化	講義	2	2		2		30	2				合津	
			初年度教育Ⅰ	演習	1	1		1		30	1				丸山・合津・福田・齋藤・武井	
			初年度教育Ⅱ	演習	1	1		1		30		1			丸山・合津・福田・齋藤・武井	
			キャリアデザイン入門	演習	1	1		1		30		1			丸山・福田	
			キャリアデザインⅠ	演習	1		1		1	30			1		齋藤・福田	
			キャリアデザインⅡ	演習	1		1		1	30			1		福田・丸山	
			キャリアデザインⅢ	演習	1		1		30			1		福田		
小計						8	5	3	5	3	210	3	2	2	1	
人間と社会	人間の尊厳と自立	ひとの権利を考える	人間の尊厳と自立	講義	2	2		2		30				2	木内	
			人間関係とコミュニケーションⅠ	演習	1	1		1		30	1				永石	
	人間の尊厳と自立	ひとの権利を考える	人間関係とコミュニケーションⅡ	演習	1	1		1		30				1	齋藤	
			現代社会と福祉	講義	2	2		2		30	2				合津	
	社会の理解	ひとの権利を考える	社会保障論Ⅰ	講義	2	2		2		30		2			合津	
			社会保障論Ⅱ	講義	2	2		2		30			2		合津	
			社会保障と人間の生活	演習	1	1		1		30				1	合津	
			学修の基礎力を培う	人間の発達と心理的支援	講義	2	2		2		30				2	高下
	人と社会に関する科目	ひとの生活を考える	地域交流演習	演習	1	1		1		30		1			合津・丸山・福田・齋藤・武井	
			小計					14	14		14		270	3	3	2
介護	介護の基本	ひとの生活を考える ひとの権利を考える ひとの可能性を考える	介護福祉論Ⅰ	講義	2	2		2		30	2				福田	
			介護福祉論Ⅱ	演習	1	1		1		30		1			福田	
			介護の基本Ⅰ	講義	2	2		2		30	2				丸山	
			介護の基本Ⅱ	演習	1	1		1		30		1			齋藤	
			介護の基本Ⅲ	演習	1	1		1		30			1		齋藤	
			介護の基本Ⅳ	講義	2	2		2		30				2	合津	
	コミュニケーション技術	ひとの生活を考える ひとの可能性を考える	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	1	1		1		30	1				武井	
			コミュニケーション技術Ⅱ	演習	1	1		1		30			1		合津	
	生活支援技術	ひとの生活を考える ひとの可能性を考える	生活支援技術の基本	演習	1	1		1		30	1				原田	
			生活支援技術Ⅰ	演習	1	1		1		30	1				原田	
			生活支援技術Ⅱ	演習	1	1		1		30	1				原田	
			生活支援技術Ⅲ	演習	1	1		1		30		1			原田	
			生活支援技術Ⅳ	演習	1	1		1		30		1			齋藤	
			生活支援技術Ⅴ	演習	1	1		1		30			1		原田・武井	
			生活支援技術Ⅵ	演習	1	1		1		30				1	丸山	
			家政の生活支援Ⅰ	演習	1	1		1		30	1				齋藤	
	介護過程	ひとの生活を考える ひとの可能性を考える	家政の生活支援Ⅱ	演習	1	1		1		30		1			中倉	
			福祉住環境と生活支援	講義	2	2		2		30			2		福田	
			介護過程総論	講義	2	2		2		30	2				福田	
			介護過程Ⅰ	演習	1	1		1		30		1			福田	
	介護総合演習	ひとの可能性を考える	介護過程Ⅱ	演習	1	1		1		30			1		福田	
			介護過程Ⅲ	演習	1	1		1		30				1	福田	
			介護過程Ⅳ	演習	1	1		1		30				1	福田	
			介護総合演習Ⅰ	演習	1		1	1		30	1				齋藤	介護福祉士必修
	介護実習	ひとの生活を考える ひとの可能性を考える	介護総合演習Ⅱ	演習	1		1	1		30		1			齋藤	介護福祉士必修
			介護総合演習Ⅲ	演習	1		1	1		30			1		合津	介護福祉士必修
			介護総合演習Ⅳ	演習	1		1	1		30				1	合津・丸山・福田・齋藤・武井	介護福祉士必修
			介護導入実習	実習	1		1	1		45	1				齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修
介護実習	ひとの可能性を考える	介護基礎実習	実習	1		1	1		45	1				齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修	
		地域介護実習	実習	1		1	1		45		1			齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修	
介護実習	ひとの可能性を考える	個別援助実習	実習	3		3	3		135		3			齋藤・丸山・合津・福田・武井	介護福祉士必修	
		介護総合実習	実習	4		4	4		180			4		合津・齋藤・丸山・福田・武井	介護福祉士必修	
小計					42	28	14	42	0	1260	14	11	11	6		
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	ひとの命と健康を考える	こころとからだのしくみⅠ-1	講義	2	2		2		30	2				武井	
			こころとからだのしくみⅠ-2	講義	2	2		2		30	2				丸山	
			こころとからだのしくみⅡ-1	講義	2	2		2		30		2			武井	
			こころとからだのしくみⅡ-2	講義	2	2		2		30		2			花野	
	発達と老化の理解	ひとの命と健康を考える	発達と老化の理解Ⅰ	講義	2	2		2		30	2				武井	
			発達と老化の理解Ⅱ	講義	2	2		2		30		2			花野	
	認知症の理解	ひとの可能性を考える	認知症の理解Ⅰ	講義	2	2		2		30		2			武井	
			認知症の理解Ⅱ	講義	2	2		2		30			2		武井	
	障害の理解	ひとの命と健康を考える ひとの権利を考える	障害の理解Ⅰ	講義	2	2		2		30			2		丸山	
			障害の理解Ⅱ	講義	2	2		2		30				2	丸山	
小計					20	20		20		300	6	8	4	2		
医療的ケア	医療的ケア	ひとの命と健康を考える	医療的ケアⅠ	講義	1		1	1		15			1		武井	介護福祉士必修
			医療的ケアⅡ	講義	2		2	2		30			2		丸山・武井	介護福祉士必修
			医療的ケアⅢ	講義	2		2	2		30				2	武井・丸山	介護福祉士必修
			医療的ケアⅣ	演習	1		1	1		15				1	丸山・武井	介護福祉士必修
小計					6		6	6		90		0	3	3		
合計					90	67	23	87	3	2130	26	24	22	18		

※介護福祉学科の卒業最低単位数 必修67単位+選択科目1単位(介護福祉士必修を除く) 計68単位

※介護福祉士国家試験受験資格取得単位数: 必修67単位+選択科目1単位(介護福祉士必修を除く)+介護福祉士必修20単位 計88単位

※選択科目の履修単位数の上限 1年前期0単位 1年後期0単位 2年前期2単位 2年後期1単位(ただし介護福祉士必修を除く)

### Ⅲ. カリキュラムマップ

#### 松本短期大学介護福祉学科 カリキュラムマップ

		(1)温かいこころと豊かな感性を備え、人への深い関心を持ち、個人の尊厳を守り、信頼関係を築くことができる。	(2)介護を必要とする人の自立支援と、地域におけるその人らしい生活を支えることのできる専門的知識と技術を修得している。	(3)根拠に基づいた介護過程の展開ができ、質の高い利用者本位のサービスを考えることができる。	(4)常に問題意識を持ち、介護実践の質的な向上や介護をめぐる課題について探求し、より良い介護を追求できている。	(5)多職種や地域住民との連携・協働の必要性を理解できている。	
卒業	後期	□介護総合演習Ⅳ					
		◎人間の尊厳と自立 □人間関係とコミュニケーションⅡ △人間の発達と心理的支援	△キャリアデザインⅢ □生活支援技術Ⅵ ◎障害の理解Ⅱ ○医療的ケアⅣ ○医療的ケアⅣ	□介護過程Ⅲ □介護過程Ⅳ	◎社会保障と人間の生活	◎介護の基本Ⅳ	
	前期	□介護総合実習					
		□介護総合演習Ⅲ					
		△キャリアデザインⅠ ○生活支援技術Ⅴ	△キャリアデザインⅡ ◇介護の基本Ⅲ □コミュニケーション技術Ⅱ □福祉住環境と生活支援 ○障害の理解Ⅰ ○医療的ケアⅠ	□介護過程Ⅱ □認知症の理解Ⅱ	◎社会保障論Ⅱ ○医療的ケアⅡ		
	1年次履修	後期	□個別援助実習				
			□地域介護実習				
			□介護総合演習Ⅱ				
			△初年度教育Ⅱ △キャリアデザイン入門	◇介護の基本Ⅱ □生活支援技術Ⅲ □生活支援技術Ⅳ ◇家政の生活支援Ⅱ ○発達と老化の理解Ⅱ ○認知症の理解Ⅰ ○こころとからだのしくみⅡ-1 ○こころとからだのしくみⅡ-2	□介護過程Ⅰ	◎介護福祉論Ⅱ ◎社会保障論Ⅰ	□地域介護実習 □介護総合演習Ⅱ ◇地域交流演習
		前期	◇介護導入実習				
□介護総合演習Ⅰ							
△初年度教育Ⅰ □人間関係とコミュニケーションⅠ ◇介護福祉論Ⅰ □介護の基本Ⅰ	◇コミュニケーション技術Ⅰ ◇生活支援技術の基本 □生活支援技術Ⅰ □生活支援技術Ⅱ ◇家政の生活支援Ⅰ ○発達と老化の理解Ⅰ ○こころとからだのしくみⅠ-1 ○こころとからだのしくみⅠ-2		□介護過程総論	◎現代社会と福祉	◇介護基礎実習 ◇介護導入実習 □介護総合演習Ⅰ ◇地域生活と文化		
○ひとの命と健康を考える □ひとの可能性を考える ◇ひとの生活を考える ◎ひとの権利を考える △学修の基礎力を培う							
入学受入れの方針(AP)	(1)介護福祉や社会福祉に関心を持ち学ぶ意欲をもっている。(2)人の立場になって考えることができる。(3)人の話をよく聴き、自分の考えを伝えることができる。(4)人とともに協力して活動に取り組むことができる。(5)入学後の学修に必要な基礎学力がある。						

# 目 次

I. 大学・学科暦	2
II. 履修科目	4
III. カリキュラムマップ	6
IV. 講義概要〈シラバス〉	
1. 1年生開講科目 (令和5年度入学生)	11
2. 1年次開講科目 (令和4年度入学生)	51
3. 2年生開講科目 (令和4年度入学生)	55
V. 教員担当科目一覧	87

# I. 令和5年度(2023年度)大学・学科暦(介護福祉学科)

4月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	(29)
	30						

4/4 入学式  
4/5~4/7 オリエンテーション  
4/7 前期授業開始(2年)  
4/10 前期授業開始(1年)  
4/26 フレッシュマン交流会

7月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	(17)	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

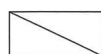
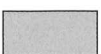


7/10~7/14 前期期末試験(2年生)  
7/18~8/9 個別援助実習(2年生・17日間)  
7/22 オープンキャンパス  
7/31~8/4 前期期末試験(1年生)

5月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	(3)	(4)	(5)	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
	5/31	実習指導者連絡会					

8月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	(11)	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
	8/9・10・17・18	再試験(1年生)					
8/10~9/25	夏季休業(1年生)※実習含む						
8/10~9/29	夏季休業(2年生)※実習含む						
8/17・18・21・22	再試験(2年生)						
8/19	オープンキャンパス						
8/21~8/26	介護基礎実習(1年生・6日間)						
8/28~9/27	介護総合実習(2年・23日間)						

6月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
	6/7	就職相談会					
6/19~6/24	介護導入実習(1年生・6日間)						
6/24	オープンキャンパス						

9月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	(18)	19	20	21	22	(23)
	24	25	26	27	28	29	30
	9/	ホームカミングデイ					
9/9	介護福祉学科特別オープンキャンパス						
9/25	後期オリエンテーション・授業開始(1年生)						

-  1年実習
-  2年実習
-  休日
-  試験期間

## IV. 講義概要<シラバス>



# 1. 介 護 福 祉 学 科

<1年生開講科目>

(令和5年度入学生)

介護福祉学科1年生

\* 印は単位認定者

授業科目の区分等		No.	授業科目		担当教員	必修 選択別	開設時期	
							前期	後期
教養科目	ひとの生活を考える	1	地域生活と文化	講義	合津千香	必修	○	
	学修の基礎力を培う	2	初年度教育Ⅰ	演習	*丸山順子・合津千香 福田明・齋藤真木 武井浩子	必修	○	
		3	初年度教育Ⅱ	演習	*丸山順子・合津千香 福田明・齋藤真木 武井浩子	必修		○
		4	キャリアデザイン入門	演習	*丸山順子・福田明	必修		○
人間と社会	人間関係と コミュニケーション	5	人間関係と コミュニケーションⅠ	演習	永石喜代子	必修	○	
	社会の理解	6	現代社会と福祉	講義	合津千香	必修	○	
		7	社会保障論Ⅰ	講義	合津千香	必修		○
人と社会に関する科目	8	地域交流演習	演習	*合津千香・丸山順子 福田明・齋藤真木 武井浩子	必修		○	
介護	介護の基本	9	介護福祉論Ⅰ	講義	福田明	必修	○	
		10	介護福祉論Ⅱ	演習	福田明	必修		○
		11	介護の基本Ⅰ	講義	丸山順子	必修	○	
		12	介護の基本Ⅱ	演習	齋藤真木	必修		○
	コミュニケーション技術	13	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	武井浩子	必修	○	
	生活支援技術	14	生活支援技術の基本	演習	原田春海	必修	○	
		15	生活支援技術Ⅰ	演習	原田春海	必修	○	
		16	生活支援技術Ⅱ	演習	原田春海	必修	○	
		17	生活支援技術Ⅲ	演習	原田春海	必修		○
		18	生活支援技術Ⅳ	演習	齋藤真木	必修		○
		19	家政の生活支援Ⅰ	演習	齋藤真木	必修	○	
	介護過程	20	家政の生活支援Ⅱ	演習	中倉典子	必修		○
		21	介護過程総論	講義	福田明	必修	○	
	介護総合演習	22	介護過程Ⅰ	演習	福田明	必修		○
		23	介護総合演習Ⅰ	演習	齋藤真木	選択	○	
	介護実習	介護実習Ⅰ	24	介護総合演習Ⅱ	演習	齋藤真木	選択	
25			介護導入実習	実習	*齋藤真木・丸山順子 合津千香・福田明 武井浩子	選択	○	
26			介護基礎実習	実習		選択	○	
27		地域介護実習	実習	選択			○	
28	個別援助実習	実習	選択			○		
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	29	こころとからだのしくみⅠ-1	講義	武井浩子	必修	○	
		30	こころとからだのしくみⅠ-2	講義	丸山順子	必修	○	
		31	こころとからだのしくみⅡ-1	講義	武井浩子	必修		○
		32	こころとからだのしくみⅡ-2	講義	花野希久美	必修		○
	発達と老化の理解	33	発達と老化の理解Ⅰ	講義	武井浩子	必修	○	
		34	発達と老化の理解Ⅱ	講義	花野希久美	必修		○
	認知症の理解	35	認知症の理解Ⅰ	講義	武井浩子	必修		○

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
1	地域生活と文化	2	30	必修	講義	1年	前期	合津 千香	
実務経験と授業科目との関連性		地域福祉活動コーディネーターの経験を活かし、高齢者が経験してきた歴史や文化が生活にどの様に影響しているのかを考える授業を行う。							
講義目的		様々な活動を通じて地域における生活や文化を学び、生活の場としての地域を多様な視点から考察する力を養う。							
到達目標		地域の気候や歴史や文化が人々の生活にどのように影響を及ぼしているのかが理解できる。							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	この授業の目的と内容を理解する。			本授業の進め方と到達目標を確認しておく。			
	2	松本短期大学と笹賀地区とのつながり	松本短期大学と笹賀地区のつながりについて学ぶ。			次の主題を確認しておく。			
	3	笹賀地区の歴史と文化	笹賀めぐりを実施し、笹賀地区の歴史と文化にふれる。			チューターごとに活動内容を確認しておく。			
	4	笹賀地区の歴史と生活	笹賀地区の歴史と生活について、学んだことをまとめる。			チューターごとに活動内容を確認しておく。			
	5	身近な高齢者の経験した暮らし	身近な高齢者が経験した歴史について理解する			次の主題を確認しておく。			
	6	身近な高齢者の文化・伝統行事等	身近な高齢者の経験した文化・伝統行事・趣味・楽しい活動等を理解し、高齢者の生活に合わせたアクティビティ活動の留意点を学ぶ。			次の主題を確認しておく。			
	7	身近な高齢者のアクティビティ				次の主題を確認しておく。			
	8	身近な高齢者のアクティビティ	身近な高齢者の経験した文化・趣味・楽しい活動等を理解し、高齢者の生活に合わせたアクティビティ活動の留意点を学び合う。			チューターごとに活動内容を確認しておく。			
	9	身近な高齢者のアクティビティ				チューターごとに活動内容を確認しておく。			
	10	信州の自然環境と生活	信州の気候と地域の生活の関わりについて学ぶ。			次の主題を確認しておく。			
	11	信州の文化	民謡や遊び、伝統行事と地域の生活の関わりについて学ぶ。			次の主題を確認しておく。			
	12	信州の文化	信州の文化と地域の生活の関わりについて学ぶ。			グループごとに活動内容を確認しておく。			
	13	信州の産業	信州の産業と地域の生活の関わりについて学ぶ。			グループごとに活動内容を確認しておく。			
	14	信州の郷土食	地域の生活の中での郷土食について学ぶ。			次の主題を確認しておく。			
	15	信州の郷土食	郷土食の材料や調理法を話し合い、郷土食の成り立ちを学ぶ。			グループごとに活動内容を確認しておく。			
	16	定期試験	筆記試験（レポート形式）			この授業で学んだことを整理しておく。			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
5	講義や調べ学習などをおして地域生活を理解する。		なし		なし		身近な地域・高齢者の生活についてを学びましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		月曜日3時限		なし	
定期試験		60		振り返りシート		受講前に学習すること			
提出物		40							
						それぞれの地域で営まれている伝統行事や遊び、郷土食などについて調べておいて下さい。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
2	初年度教育 I	1	30	必修	演習	1年	前期	丸山・合津 福田・齋藤・武井
実務経験と授業科目との関連性		担当教員が下記の勤務経験を活かし、聞く力・書く力・話す力・伝える力や自己管理等、専門知識を学ぶための基礎が身につくための講義・演習を行う。丸山：看護師（病院勤務） 合津：社会福祉士（地域福祉活動コーディネーター） 永石：看護師（病院勤務等） 福田：介護福祉士（施設勤務等） 齋藤：介護福祉士（訪問介護員等） 武井：看護師（病院勤務等）						
講義目的		学ぶことの面白さを体験し、充実した学生生活を過ごすための適切な習慣を身につけ、短期大学生活を自分でデザインできるようになることを目的とする。						
到達目標		聞く力・書く力・話す力・伝える力をつけ、短期大学での学び方の基礎が身につく。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	短期大学で学ぶということ	オリエンテーション・授業の受け方・レポート作成方法			シラバスを確認しておく		全員
	2	授業を聞く力・書く力	ノートの取り方及び資料・プリントの整理方法について学ぶ・生物の課題の解説			予習・復習の方法について考えておく		丸山
	3	生物試験・自己管理術①・チューター発表	将来の目標について考え、2年間の目標、1年間の目標、1週間のスケジュールを決める。			1週間の過ごし方についてまとめておく		丸山
	4	自己管理術②入学前課題結果返却	スケジュール管理の為に手帳活用や学内連絡ツール(オクレンジャー) オフィス 365 について学ぶ。自己の課題について考える。			スケジュール管理方法について考えておく。返却された課題の見直しを行う		全員
	5	フレッシュマン交流会	多くの学生と交流ができ、自己表現ができる。			チューターのメンバーを覚える・交流を行ってみる		全員
	6	キャリアプランを考える	就職セミナーに参加し、働くということについて考える。			自己のキャリアプランについて考えておく		全員
	7	調べる力を身につける①	図書館オリエンテーションを受け、必要な文献を探す方法を習得する。			文献検索を実際にやっておく		丸山
	8	調べる力を身につける②	図書館で本を探し、詠むことができる。			図書及び論文の探し方について確認しておく		丸山
	9	まとめる力を身につける	自分の選んだ本について要旨をまとめる。			図書及び論文の探し方について確認しておく		丸山
	10	言葉で伝える	本を他者に興味を持てるように紹介する。			発表原稿を作成しておく		全員
	11	定期試験について	定期試験オリエンテーションを受け、試験準備の方法や計画を立てる。			学生生活ガイドを読んでおく		全員
	12	思いを伝える①	介護導入実習を行った施設にお礼状を書くことができる。			お礼の内容を考えてくる		丸山
	13	思いを伝える②	飛び出すカード作りを行い、親しい人に感謝を伝える。			作成しての感想をまとめておく		丸山
	14	魅力を伝える	メッセージの効果を学び、高校生へメッセージを考えることができる。			学校の魅力について考えておく		全員
	15	感謝を伝える	高校の先生方に現在の状況と高校時代のお礼の手紙を書くことでメッセージの目的を理解する。			前期の学びを振り返っておく		全員
16	定期試験	論述試験					丸山	
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
I	配付資料等による講義と個別ワーク及びグループワーク		なし その都度講義資料を配布		その都度指示する		基本的なことを学びます。楽しみながら行いましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		なし	
課題提出		60	課題の内容 (自己管理・キャリア・本の紹介等)		受講前に学習すること		なし	
定期試験		40						

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
3	初年度教育Ⅱ	1	30	必修	演習	1年	後期	丸山・合津 福田・齋藤・武井
実務経験と授業科目との関連性		科目教員が下記の勤務経験を活かし、聞く力・書く力・話す力・伝える力や自己管理等、専門知識を学ぶための基礎が身につくための講義・演習を行う。丸山:看護師(病院勤務)合津:社会福祉士(地域福祉活動コーディネーター)永石:看護師(病院勤務等)福田:介護福祉士(施設勤務等)齋藤:介護福祉士(訪問介護員等)武井:看護師(病院勤務等)						
講義目的		情報を正しく評価し、活用する能力を養う。また、伝達する道具として情報機器を活用する能力を養う。さらに、得られた情報をつなげ、自己の意見を考える力を養う。						
到達目標		様々な種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、その情報を正しく評価でき、活用する能力が身についている。また読むこと・調べること・伝えることを通じ、考える力が身についている。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション・身体を動かす体操	オリエンテーションとエルダーシステムを使い、身体を動かすプログラムを作成する。			前期の過ごし方を振り返っておく		全員
	2	身体を動かす体操	エルダーシステムを使い、身体を動かすプログラムを作成し、実践に向けて練習する。			情報発信時大切なことについて考えておく		全員
	3	スポーツ	チーム力を発揮する。			体力をつけておく		丸山
	4	スポーツ	チーム力を発揮する。			体力をつけておく		丸山
	5	レポートの書き方①	レポート作成の書き方を学ぶ。			文献検索方法について確認しておく		丸山
	6	レポートの書き方②	レポートに必要な文献を探す。			レポート課題について確認しておく		丸山
	7	情報リテラシー	情報発信者の意図を推測し、情報を読み取ることができる。(他者の権利尊重・自己の被害防止)			情報発信時大切なことについて考えておく		丸山
	8	レポートの書き方③ 情報機器演習①	情報社会で起こっている現象を倫理的な側面から検討する。			情報受信時に大切なことについて考えておく		全員
	9	レポートの書き方④ 情報機器演習②	課題のレポート作成を通じて技術を磨く、文章作成の基礎を学ぶ。			ワードの操作について確認しておく		丸山
	10	レポートの書き方⑤ 情報機器演習③	課題のレポート作成を通じて技術を磨く、文章作成の基礎を学ぶ。			ワードの操作について確認しておく		全員
	11	プレゼンテーション① 情報機器演習④	課題のレポート作成を通じて技術を磨く、文章作成の基礎を学ぶ。			ワードの操作について確認しておく		全員
	12	定期試験について プレゼンテーション② 情報機器演習⑤	定期試験オリエンテーションを受け、前期の反省を踏まえ、試験準備の方法を考える。			学生生活ガイドを読んでおく		丸山
	13	プレゼンテーション② 情報機器演習⑥	パワーポイント作成を学び、作成する。			パワーポイントの操作について確認しておく		全員
	14	発表	パワーポイントを使用し、課題レポートの成果の発表を行う。			パワーポイントの操作について確認しておく		全員
	15	発表	パワーポイントを使用し、課題レポートの成果の発表を行う。			パワーポイントの操作について確認しておく		全員
16	定期試験	論述試験					丸山	
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	配付資料等による講義と個別ワーク及びグループワーク		なし その都度講義資料を配布		その都度指示する		多くの科目では、パソコンを用いたり、レポートが課題になることがあります。実践で基本を学びましょう。	
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること	なし	
課題レポート		60	課題の内容(テーマ構成・文献理解・考察等)					
発表		20	パワーポイントの内容と声の大きさ等			受講前に学習すること		
定期試験		20						
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
4	キャリアデザイン入門	1	30	必修	演習	1年	後期	丸山順子・福田 明
実務経験と授業科目との関連性		丸山：看護師として実務経験を活かし、こころのしくみ、身じたくに関連したこころとからだのしくみの基礎知識について講義を行う。福田：介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター等の資格を有し、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、国家試験受験における対策について講義や演習を行う。						
講義目的		働くことの意味を考え、就職等に必要な知識・技術を獲得する中で、自分自身の将来を見据えた進路選択・進路設計やそのための準備について、自発的・主体的に行動できるようになることを目的とする。						
到達目標		1. 学生と社会人の違いを理解し、働くことの意味について理解することができる。2. 就職活動に必要な知識・技術（マナー等を含む）を身につける。3. 将来を見据え、自分自身の進路選択・進路設計を考えることができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション キャリアデザインの意味と必要性	授業概要等の説明 キャリアデザインの意味と必要性について理解した上で、短期大学生としてキャリアデザインについて検討する。			シラバスを読んでおく。		丸山
	2	学内就職活動支援の理解	学生部・学生支援委員会の役割を理解し、希望する領域・職種について情報収集する。			前回の復習をしておく。		丸山
	3	職業の理解	職業分類、職業における資格・免許等について理解する。			前回の復習をしておく。		丸山
	4	就職に必要な基礎知識①	介護福祉士として働く卒業生を招き、インタビュー形式で仕事内容、仕事の魅力、研修体制、給与、福利厚生等について尋ねる。			前回の復習をしておく。		丸山
	5	就職に必要な基礎知識②	介護福祉士として働く卒業生を招き、インタビュー形式で仕事内容、仕事の魅力、研修体制、給与、福利厚生等について尋ねる。			課題シートの提出		丸山
	6	ビジネスマナー①	TPOについて理解する。ビジネスシーンにふさわしい身だしなみについて学ぶ。			前回の復習をしておく。		丸山
	7	ビジネスマナー②	電話対応、お礼状の書き方を学ぶ。			課題シートの提出		丸山
	8	自己理解	自己分析を通して、自分自身の強み（得意）と弱み（不得意）を把握する。			前回の復習をしておく。		丸山
	9	介護福祉士国家試験の概要と傾向	テキストに基づいて授業全体の流れを把握する。また、介護福祉士国家試験の概要とその出題傾向について理解する。			課題シートの提出		福田
	10	人間の尊厳と自立	前回の授業内容に関する小テストを行う。テキストの該当箇所についての傾向と対策および補足説明を行う。			前回の復習をしておく。		福田
	11	人間関係とコミュニケーション	前回の授業内容に関する小テストを行う。テキストの該当箇所についての傾向と対策および補足説明を行う。			前回の復習をしておく。		福田
	12	コミュニケーション技術	前回の授業内容に関する小テストを行う。テキストの該当箇所についての傾向と対策および補足説明を行う。			前回の復習をしておく。		福田
	13	国家試験の模擬試験の解説と分析	国家試験の模擬問題			定期試験の準備を行う。		福田
	14	国家試験の模擬問題	国家試験の模擬問題のA問題を解く。			前回の復習をしておく。		福田
	15	国家試験の模擬問題	国家試験の模擬問題のB問題を解く。			前回の復習をしておく。		丸山
16	定期試験	論述試験					丸山	
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1・2	配付資料、パワーポイント等を用いて授業を行う。また、学生の理解度を確認しながら授業を進めるため、各授業内容を振り返るための課題シートを課す。		コンデックス情報研究所『いちばん覚えやすい介護福祉士合格ブック'24年版』（成美堂出版）		その都度指定する		苦手科目を減らし、得意科目を伸ばすためにも、毎回の授業への参加はもちろん、自己学習を計画的に進めてください。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		なし
課題シート		20	ワークの振り返り（各授業）			受講前に学習すること		
定期試験		20						
模擬問題		60				授業計画（予定）に基づき、予習・復習する。		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
5	人間関係とコミュニケーションⅠ	1	30	必修	演習	1年	前期	永石 喜代子	
実務経験と授業科目との関連性	看護学教育、養護教諭養成教育の経験を活かし、人間関係を育むためのコミュニケーション力に関する基本的な講義を行う。								
講義目的	人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を教授する。								
到達目標	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。								
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修		担当教員	
	1	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 心理①	他者との関係における自分を認識する。				シラバスを読んでおく		
	2	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 心理②	発達と人間関係の形成について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	3	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 対人関係とコミュニケーション①	アサーティブ・コミュニケーションの基礎を学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	4	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 対人関係とコミュニケーション②	自他を尊重した自己主張の実際について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	5	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 対人関係とコミュニケーション③	対人関係とストレスについて学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	6	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 対人関係とコミュニケーション④	ストレスへのコーピングについて学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	7	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 コミュニケーション技法の基礎①	物理的・心理的距離や環境設定について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	8	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 コミュニケーション技法の基礎②	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションについて理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	9	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 コミュニケーション技法の基礎③	相談面接の基礎をマイクロカウンセリングの技法を通じて学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	10	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 コミュニケーション技法の基礎④	相談面接と生活場面面接について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	11	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 コミュニケーション技法の基礎①	色彩が個人の心理に及ぼす影響について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	12	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 組織におけるコミュニケーション①	組織の中におけるコミュニケーションの特徴について理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	13	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 組織におけるコミュニケーション②	組織における情報の流れとネットワーク、また意思決定について理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	14	生活支援におけるグループの活用	グループを用いた援助、グループダイナミクス、グループの発達段階について理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	15	小集団におけるコミュニケーションの実際	小集団におけるコミュニケーションについて学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
16	定期試験	筆記試験				試験に向けた準備をしてくる			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1・2	テキスト・配布資料・視覚教材を活用しての講義及び個人及びグループでのワークを組み合わせて学修する		最新介護福祉士養成講座1「人間の理解」(中央法規)		その都度指定する		自分のコミュニケーションのあり方や、人間関係について一緒に考えてみましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		80		筆記試験		受講前に学習すること			
課題レポート		20		記述内容					
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
6	現代社会と福祉	2	30	必修	講義	1年	前期	合津 千香
実務経験と授業科目との関連性		地域福祉活動コーディネーターの経験を活かして生活と地域、社会の関係性を体系的に捉え、社会保障のしくみや地域共生社会や地域包括システムの基本的な考え方を理解する。						
講義目的		個人、家庭、地域、社会のしくみと生活と社会の関係性を体系的に捉えることができる。地域を利用者の生活の場として捉え、地域共生社会や地域包括システムの基本的な考え方を理解する。						
到達目標		①個人の暮らしが家族、地域、社会との関連で成り立っていることを説明できる。②わが国の社会保障の基本的考え方、しくみについて説明できる。③地域共生社会や地域包括システムの基本的な考え方を説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	社会と生活のしくみ①	ライフコースとライフステージについて学び、ライフスタイルの変化について理解する。			シラバスを読んで学習内容を理解しておく		
	2	社会と生活のしくみ②	ジェノグラム、エコマップの作成をとおして、自分の生活と環境について考える。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	3	社会と生活のしくみ③ 家族	家族の概念、機能、役割を学び家族のあり方が多様化していることを理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	4	社会と生活のしくみ④ 地域	自分たちの生活している地域の範囲や成り立ち、地域の機能について考える。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	5	社会と生活のしくみ⑤ 地域	地域社会の機能と概念、地域社会の変化について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	6	社会と生活のしくみ⑥ 社会	地域社会における集団・組織とその役割について理解する。コミュニティの概念について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	7	社会と生活のしくみ⑦ 地域社会における生活支援	地域での暮らしを支え合う必要性と現状 地域住民活動の事例について学ぶ			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	8	社会と生活のしくみ⑧ 地域社会における生活支援	さまざまなフォーマルサービス、インフォーマルサポートについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	9	社会保障制度① 少子高齢化	少子高齢化の現状を理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	10	社会保障制度② 日本の社会保障制度の発達	戦後の日本の社会保障制度と憲法・福祉六法との関係について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	11	社会保障制度③ 日本の社会保障制度の発達	社会保障の発達と国民皆保険・皆年金について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	12	社会保障制度④ 日本の社会保障制度の発達	社会福祉基礎構造改革・社会福祉法・地域福祉、福祉サービスの理念について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	13	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	福祉サービスの利用と地域福祉の理念について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	14	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	地域共生社会と地域包括ケアシステムの基本的な考え方を理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	15	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	自助・互助・共助・公助の展開について理解する。			これまでに学習したことを整理し復習しておく		
	16	定期試験	全員が筆記試験を受験する。			これまでに学習したことを整理し復習しておく		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	テキスト、資料、プリントを使用し、問題を提示しながら講義する。		最新介護福祉士養成講座2「社会の理解」中央法規		なし		社会保障の制度を学ぶにあたって、基礎となる科目です。積極的に授業に参加し、考え、学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		月曜日3時限		なし	
定期試験		80						
小テスト		20	4回					
					受講前に学習すること			
					なし			



教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
7	社会保障論 I	2	30	必修	講義	1年	後期	合津 千香	
実務経験と授業科目との関連性		地域福祉活動コーディネーターの経験を活かし介護保険制度の基本について具体的な問題を提示しながら行う。							
講義目的		社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解し、介護保険制度の内容を理解する。							
到達目標		①社会保障制度の体系と社会保険について説明できる。 ②基本的な介護保険のしくみが説明できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	社会保障制度① 社会保障の基礎理解	社会保障の果たす役割とその意義について理解する。			シラバスを読んで学習内容を理解しておく			
	2	社会保障制度② 社会保障の基礎理解	社会保障の体系と社会保険の考え方を理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	3	高齢者福祉と介護保険制度①	介護保険制度成立までの高齢者福祉の歴史の変遷と制度の目的について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	4	高齢者福祉と介護保険制度②	介護保険の保険者と被保険者について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	5	高齢者福祉と介護保険制度③	サービス利用までの流れについて理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	6	高齢者福祉と介護保険制度④	居宅サービスの種類内容について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	7	高齢者福祉と介護保険制度⑤	施設サービスの種類内容について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	8	高齢者福祉と介護保険制度⑥	地域密着型サービスの種類内容について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	9	高齢者福祉と介護保険制度⑦	地域支援事業と地域包括支援センターの役割について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	10	高齢者福祉と介護保険制度⑧	介護保険における国、都道府県の役割について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	11	高齢者福祉と介護保険制度⑨	介護保険における市町村、団体の役割について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	12	高齢者福祉と介護保険制度⑩	最近の介護保険制度の改正について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	13	高齢者福祉と介護保険制度⑪	最近の介護保険制度の改正について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	14	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域共生社会と地域包括ケアシステムの考え方と多職種連携について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく			
	15	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	居宅介護支援、介護予防支援、施設介護支援と介護支援専門員の役割について理解する。			これまでに学習したことを整理し復習しておく			
	16	定期試験	全員が筆記試験を受ける。			これまでに学習したことを整理し復習しておく			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	テキスト、資料、プリントを使用し、問題を提示しながら講義する。		最新介護福祉士養成講座2「社会の理解」中央法規		なし		介護福祉士にとって最も重要な介護保険制度をしっかりと学びましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		火曜日3時限		なし	
定期試験		80							
小テスト		20		5回					
						受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
8	地域交流演習	1	30	必修	演習	1年	後期	合津・丸山・永石 福田・齋藤・武井	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		地域福祉活動の企画・実践を通して、地域を知り、地域福祉活動について学ぶ。							
到達目標		地域福祉活動に参加し、地域の人々の生活に触れ、地域から学ぶことができる。							
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員		
	1	授業の進め方と地域福祉活動	本授業の進め方と到達目標を確認する。 さまざまな地域福祉活動について知る。				本授業の進め方と到達目標を確認しておく。		
	2	運動と健康	介護者としての健康を守り、地域や介護現場で活かせる簡単な運動の実際を学ぶ。				次の主題を確認しておく。		
	3	運動と健康	介護者としての健康を守り、地域や介護現場で活かせる簡単な運動の実際を学ぶ。				次の主題を確認しておく。		
	4	地域福祉活動実践の準備	実践に向け、活動先の概要について理解し、訪問時のアクティビティ活動の内容を考える。				グループごとに活動内容を確認しておく。		
	5	地域福祉活動実践1 認知症高齢者グループホーム訪問	高齢者グループホームを訪問し、その利用者にあったアクティビティ活動を実施する。				グループごとに活動内容を確認しておく。		
	6	地域福祉活動実践1 認知症高齢者グループホーム訪問	高齢者グループホームを訪問し、その利用者にあったアクティビティ活動を実施する。				グループごとに活動内容を確認しておく。		
	7	地域福祉活動実践2 松本マラソン	松本マラソンの大会運営に参加する。				次の主題を確認しておく。		
	8	地域福祉活動実践2 松本マラソン	松本マラソンの大会運営に参加する。				次の主題を確認しておく。		
	9	地域福祉活動実践2 松本マラソン	松本マラソンの大会運営に参加する。				次の主題を確認しておく。		
	10	災害時避難所運営訓練	HUGカードを用いて避難所運営を体験する。				次の主題を確認しておく。		
	11	災害時避難所運営訓練	HUGカードを用いて避難所運営を体験する。				次の主題を確認しておく。		
	12	災害時避難所運営訓練	HUGカードを用いて避難所運営を体験し、学んだことを話し合いまとめる。				次の主題を確認しておく。		
	13	災害食 調理実習	全員が工夫して災害食の調理実習を実施する。				次の主題を確認しておく。		
	14	災害食 調理実習	体験を通じて地域の防災活動について学び、非常時に果たす役割について考察する。				次の主題を確認しておく。		
	15	まとめ	実践した地域福祉活動を振り返り、学んだことを話し合う。				この授業で学んだことを整理しておく。		
16	定期試験	筆記試験（レポート形式）							
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ					
5	グループや個人の主体的な実践に基づく演習形式	なし	なし						
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件		
評価項目	配分(%)	評価基準				各教員のオフィスアワーを確認すること	なし		
定期試験	60								
提出物	40	振り返りシート				受講前に学習すること			
						それぞれの地域で営まれている地域福祉活動やボランティア活動について調べておいて下さい。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
9	介護福祉論 I	2	30	必修	講義	1年	前期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、介護福祉の本質的理解、介護福祉職としての姿勢の習得ができるよう、具体的事例に基づいた講義を行う。						
講義目的		介護福祉の本質的理解及び介護を取り巻く社会状況と専門職の役割等を学ぶことにより、介護福祉職としての姿勢を習得する。						
到達目標		尊厳を保持し自立を支援するという介護福祉の基本理念を説明できる。 専門職としての倫理や使命を理解し、説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	介護福祉の基本となる理念	初回オリエンテーション 介護福祉とは何か、自立、QOL、自己決定を通じて理解する。			シラバスを読んでおく。		
	2	介護福祉の基本となる理念 ノーマライゼーション	バンクーメルセン、ニイリエ、ヴォルフエンズベルガーの考えの異同を検討し、福祉理念としてのノーマライゼーションを理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	3	介護の歴史	日本の社会福祉史における介護福祉の位置づけについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	4	現代社会における介護福祉士の役割と機能	現代社会における介護問題及び法に規定される介護福祉士の職務について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	5	介護福祉士の倫理①	日本介護福祉士会倫理基準を紐解きながら、介護福祉の専門性と職業倫理を理解する。			介護職に求められる態度について考えておく。		
	6	介護福祉士の倫理②	介護福祉における価値や理念をパーソン・セントラード・ケアを通じて理解する。			前回の授業の振り返りをしておく。		
	7	介護福祉士を支える団体の理解①	職能・学術団体の意義及び活動内容の実際を学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	8	介護福祉の基本理念・機能・役割のまとめ	中間評価を通じ、基本理念・機能・役割について整理する。			中間評価の準備をしておく。		
	9	介護が必要な人の理解 生活の場の変化	施設の変遷、在宅から地域へと、生活の場の変化について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	10	専門職としての価値(態度)	介護福祉の現場で働く卒業生の話を聴き、職業人としての態度について学ぶ。			実習における自己の目標を明確にしておく。		
	11	介護福祉士を支える団体の理解②	長野県介護福祉士会の活動内容を学びながら、職能団体の意義と役割を理解する。			長野県介護福祉士会のHPを閲覧し、活動内容をまとめておく。		
	12	介護従事者に多い労働災害とその予防	腰痛予防対策の指針と実際について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	13	ICT技術・ロボットと介護をめぐむ状況	介護現場におけるICT技術及びロボットの活用について学ぶ。			先進技術が活用できる介護場面について考えておく。		
	14	活動の場の理解と役割	介護予防、看取り、災害時等様々な活動場面を理解し、介護福祉士の役割について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	15	職業人としての成長	介護人材の中核となるリーダーとしての役割、キャリアパス、研修体制が理解できる。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
16	定期試験	筆記試験			試験に向けた準備をしていく。			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
1	講義・視覚教材の活用		最新介護福祉士養成講座3「介護の基本I」・4「介護の基本II」(中央法規)	その都度指定する。		介護福祉とは何か、介護福祉士の役割とは何か等、介護福祉士を取得する上で基本となる科目です。毎回の授業を大切にしましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日5時限	なし	
定期試験		50	筆記試験					
中間評価		50	筆記による確認テスト			受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
10	介護福祉論Ⅱ	1	30	必修	演習	1年	後期	福田 明

実務経験と授業科目との関連性	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、様々な場面における介護福祉士の役割が理解できるよう、具体的事例に基づいた講義を行う。
講義目的	生活者を取りまく環境を理解する能力及び制度やサービスなどの社会資源を活用し、支援する能力を身につける。災害時などの非常事態に対応し、支援する能力を身につける。
到達目標	地域や施設・在宅など生活の場の多様性と介護福祉士の果たす役割について説明できる。 対象となる人の生活ニーズにあわせた社会資源について説明できる。 災害時の介護福祉士の役割と機能について説明できる。

	本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
教 育 内 容	1 地域共生社会と介護福祉士の役割・機能	地域共生社会の理念を理解し、介護福祉士の果たすべき役割を学ぶ。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	2 地域でくらす高齢者の日常生活とその支援①	高齢者の日常生活の範囲・活用する社会資源について学ぶ。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	3 地域でくらす高齢者の日常生活とその支援②	身近な高齢者にインタビューを行い、活用する社会資源について理解を深める。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	4 地域で暮らす人の人権を守る	日常生活権利擁護事業、成年後見制度を通じて、権利擁護・アドボカシーについて学ぶ。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	5 介護福祉士の役割・機能と介護予防	介護予防の必要性和具体的な活動を理解し、介護福祉士の果たすべき役割を学ぶ。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	6 介護予防の実際①	地域における介護予防活動の実際について学ぶ	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	7 介護予防の実際②	介護予防のためのプログラムを立案・発表を通じて、介護福祉士の役割について学ぶ。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	8 災害時における介護福祉士の役割と機能①	災害対策基本法に規定される災害について理解し、非常時の生活について理解する。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	9 災害時における介護福祉士の役割と機能②	非常時の生活とそこで果たすべき介護福祉士の役割について理解する。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	10 生活意欲と活動	役割、趣味、レクリエーション、就労等の活動と生活意欲の関係について理解する。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	11 アクティビティ・サービスの理論と実際①	アクティビティ・サービスの定義・効果・対象について学ぶ。	実習で体験したアクティビティ・サービスについて整理しておく。	
	12 アクティビティ・サービスの理論と実際②	アクティビティ・サービスをグループ毎に計画し、発表する。	発表の準備をしておく。	
	13 協働する多職種の役割と機能 リハビリテーションの理解	リハビリテーションの主要4分野とそれにかかわる専門職を理解する。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	14 協働する多職種の役割と機能 他職種の理解と多職種連携	他の専門職の役割と専門性及び多職種連携の意義を理解する。	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	15 介護従事者の安全 介護従事者を守る法制度	労働基準法及び労働安全衛生法について学ぶ	テキストの該当箇所を読んでおく。	
	16 定期試験	筆記試験	試験に向けた準備をしてくる。	

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
4	講義 視覚教材の援用	最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」・4「介護の基本Ⅱ」(中央法規)	その都度指定する。	介護福祉士はどのように利用者への支援を展開しているのか、個別ケアやストレングス、エンパワメント等の視点を踏まえて学んでいきます。介護福祉論Ⅰと同様、介護福祉士を取得する上で基本となる科目ですので、毎回の授業を大切にしましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	火曜日5時限	なし
定期試験	50	筆記試験		
中間評価	50	筆記による確認テスト	受講前に学習すること	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
11	介護の基本 I	2	30	必修	講義	1年	前期	丸山 順子
実務経験と授業科目との関連性		看護師として実務経験を活かし、介護が必要な人の生活を様々な側面から理解出来るよう、統計・具体的事例を用いて講義を行う。						
講義目的		介護を必要とする人の生活について、生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて考え、理解することを目的とする。						
到達目標		介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりを説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	介護を必要とする人の理解 生活の個別性と多様性の理解①	学生自身の生活について、その特徴や傾向を把握する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	2	介護を必要とする人の理解 生活の個別性と多様性の理解②	様々な活動場面における生活のしづらさについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	3	介護を必要とする人の理解 高齢者とその生活の理解①	高齢者とはなにか、法における定義や統計資料、イメージ、学生自身の体験などを通じて、生活のしづらさの観点から考える。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	4	介護を必要とする人の理解 高齢者とその生活の理解②	サクセスフル・エイジングやプロダクティブ・エイジングを学び、高齢者理解の視点を獲得する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	5	介護を必要とする人の理解 高齢者とその生活の理解③	生活を支える基盤（経済・制度・健康など）について学ぶ。			課題シートの提出		
	6	介護を必要とする人の理解 高齢者とその生活の理解④	高齢者の地域との関わり、働くことなど、余暇活動や社会活動の意味と特徴について学ぶ。			課題シートの提出		
	7	介護を必要とする人の理解 高齢者理解のための聞き書き	高齢者が自分自身のことを語ること・それを聞くことの意義や方法について学ぶ。			ボイスレコーダーを準備する（携帯の録音機能でも可）		
	8	介護を必要とする人の理解 聞き書きの実施①	高齢者がどのような時代を生きてきたのか調べ、生活背景を理解する。			インタビュー対象者に了解をえておく		
	9	介護を必要とする人の理解 聞き書きの実施②	聞き書きを行い、冊子として完成させながら、その人の価値観や生活観、多様性について学ぶ。			装丁必要な物品を準備しておく		
	10	介護を必要とする人の理解 障がい者とその生活の理解①	「障がい」とはなにか、法における定義や統計資料、イメージ、学生自身の体験などを通じて、生活のしづらさの観点から考える。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	11	介護を必要とする人の理解 障がい者とその生活の理解②	生活を支える基盤（経済・制度・健康など）について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	12	介護を必要とする人の理解 障がい者とその生活の理解③	障がいのある人の就労や学習と地域生活について学ぶ。			課題シートの提出		
	13	介護を必要とする人の理解 障がい者とその生活の理解④	障がいがある人と生活環境の関係について、バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点から学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	14	介護を必要とする人の理解 家族介護者の理解と支援①	家族の機能について理解し、家族介護者を支えることの意義について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	15	介護を必要とする人の理解 家族介護者の理解と支援②	フォーマル及びインフォーマルな家族支援の在り方について学ぶ。また、家族介護者の会の活動について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
16	定期試験	筆記試験			筆記試験に向けた準備をしておく			
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
1	講義・視覚教材の活用 講義冒頭に前回授業の小テストを実施し、知識の定着をはかる。		最新介護福祉士養成講座2「社会の理解」・3「介護の基本I」・4「介護の基本II」（中央法規）	その都度指定する	介護や支援を必要とする人たちの生活を理解することで、はじめて個別援助を行うことができます。自分の生活と比較しながら学びましょう。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		金曜日5時限		なし	
定期試験		60	筆記試験					
課題シート		20	考察、日本語表現		受講前に学習すること			
聞き書き冊子		20	日本語表現・内容量・装丁					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
12	介護の基本Ⅱ	1	30	必修	演習	1年	後期	齋藤 真木	
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての勤務経験を活かし、介護が必要な人の生活とその支援を自立支援の観点から理解できるよう、具体的事例を紹介しながら、講義を行う。							
講義目的		対象者の持てる力を把握し、自立した生活を支えるための方法を理解する。							
到達目標		対象者の持てる力を把握した支援と自立への環境整備の方法が説明できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	介護福祉の基本理念①	自立・自律とはなにか、生活援助における自立支援の考え方を学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	2	介護福祉の基本理念②	存在することの価値について、グループワークを通じて理解する。			尊厳について、まとめておく			
	3	介護福祉における自立支援の意義①	人権、尊厳と自立の思想と、その歴史的経緯をまなぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	4	介護福祉における自立支援の意義②	IL運動を通じて、介護福祉における自立支援を学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	5	自立に向けた介護の実際①	生活意欲と活動を、社会参加、アクティビティサービスから考える。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	6	自立に向けた介護の実際②	利用者の意思の表出及び意思決定する支援を学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	7	自立に向けた介護の実際③	介護予防の意義及びリハビリテーションと介護予防の関係について学び、介護福祉士が果たす役割について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	8	自立に向けた介護の実際④	高齢者施設における、生活を通したリハビリテーションの理論と実際を学ぶ。			実習での体験を整理しておく			
	9	自立に向けた介護の実際⑤	地域における、生活を通じたりハビリテーションの実際を学ぶ。			実習での体験を整理しておく			
	10	自立に向けた介護の実際⑥	就労支援に関わる法制度や社会資源について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	11	自立に向けた介護の実際⑦	高齢者福祉分野での就労支援の実際について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	12	自立に向けた介護の実際⑧	障害者分野での就労支援の実際について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	13	自立に向けた介護の実際⑨	児童の権利とその支援について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	14	当事者の声を聴く①	ゲストスピーカーの講義を受け、社会参加の意義について学ぶ。			社会参加とはなにか、まとめておく			
	15	当事者の声を聴く②	ゲストスピーカーの講義を受け、自立への環境整備の方法を学ぶ。			環境とはなにか、まとめておく			
16	定期試験	筆記試験			筆記試験に向けた準備をしておく				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	講義を基本とし、特別講師の講話や演習（グループワーク）も取り入れる		最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」（中央法規）		なし		介護福祉士として仕事をする上で重要な理念を学ぶ科目になります。しっかり身につけましょう。		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日 5時限		なし	
定期試験		80	筆記試験						
課題レポート		20	日本語表現・課題内容			受講前に学習すること			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
13	コミュニケーション技術 I	1	30	必修	演習	1年	前期	武井 浩子	
実務経験と授業科目との関連性		病院、訪問看護等での看護師としての勤務経験を活かし、介護現場で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルの習得にむけ、具体的な事例を紹介しながら、講義を行う。							
講義目的		介護におけるコミュニケーションの基本的考え方・コミュニケーションの技法のほか、チームアプローチに必要なコミュニケーション技法などを学ぶ。介護実践能力のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。							
到達目標		介護を必要とする人の理解や援助関係におけるコミュニケーションについて学ぶとともに、基本的な技法を習得する。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	コミュニケーションと介護	介護におけるコミュニケーションの特徴や役割について学ぶ。			シラバスを読んでおく			
	2	介護を必要とする人とのコミュニケーションの基本	利用者の話しを聴く基本的な理論・技法を学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	3	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際①	コミュニケーションの基盤となる、傾聴、共感、支持的態度を理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	4	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際②	コミュニケーションでの基本的技法を意識的に活用することの効果学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	5	介護における記録①	記録の意義・目的、種類について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	6	介護における記録②	実際の記録をみながら、その特徴を理解し、また良い記録とはなにかを学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	7	介護における記録③	VTRを視聴し、その介護場面を記録しながら、良い記録について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	8	チームの一員としてのコミュニケーション	報告・連絡・相談について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	9	コミュニケーション場面の振り返り①	プロセスレコードの意義・目的を学ぶ。プロセスレコードの作成を通じ、支援場面の省察をする。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	10	コミュニケーション場面の振り返り②	実際にプロセスレコードを作成し、自己のコミュニケーションスタイルの傾向について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	11	家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり 助言・相談・調整、介護ストレス対応について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	12	介護における記録④	記録の管理、個人情報保護、ITの活用について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	13	介護における記録⑤	実習記録を振り返り、より良い介護と記録について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	14	相談援助の理論と実際	バイステックの7原則を通じて、相談援助におけるコミュニケーションについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
	15	小集団におけるコミュニケーション	レクリエーション場面など、スモールグループでのコミュニケーションについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく			
16	定期試験	筆記試験			定期試験に向けた準備をしておく				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2・5	テキスト・プリント・視覚教材を通じての演習を基本とする。		最新介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」(中央法規)		その都度指定する。		自分のコミュニケーションスタイルの特徴を知り、介護現場で活かしていきましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日5時限		なし	
定期試験		60	筆記試験			受講前に学習すること			
授業の参加状況		20	授業内でのミニレポート内容						
課題レポート		20	課題に対する記述・文章構成			なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
14	生活支援技術の基本	1	30	必修	演習	1年	前期	原田 春海

実務経験と授業科目との関連性	介護福祉士として、デイサービスでの勤務経験を活かして、生活支援技術の考え方や心構えについて理解できるよう講義及び演習を行う。
講義目的	介護福祉士が行う生活支援について理解し、生活支援技術の基本及び福祉用具の活用に関する知識や技術を学ぶ。
到達目標	①自立に向けた生活支援の基本となる知識や技術を修得し、利用者の寝床環境を整える技術を修得できる。②利用者の状態や環境に応じた福祉用具の意義と活用に必要な知識を修得できる。

教 育 内 容	本日の主題		授業概要	事前・事後学修	担当教員
	1	生活支援の理解 介護福祉士が行う生活支援の意義と目的	生活支援技術の基本的な考え方を理解する。	シラバスを読んでおく	
	2	生活支援の理解 生活支援の基本	生活支援技術を学ぶにあたっての心構えと実際について理解する。	前回の復習をして くる	
	3	生活支援の理解 生活支援と介護過程①	利用者の心身の状態を理解し、根拠ある生活支援について学ぶ	テキストの該当部分 を読んでくる	
	4	生活支援の理解 生活支援と介護過程②	生活支援に活かすICF、活動・参加することの意味と価値について学ぶ。	テキストの該当部分 を読んでくる	
	5	生活支援の理解 生活支援に共通する技術①	説明・同意、観察・準備、評価の意義と方法について学ぶ。	前回の復習をして くる	
	6	生活支援の理解 生活支援に共通する技術②	利用者と介助者双方に安全な介護について学ぶ。	前回の復習をして くる	
	7	生活支援の理解 利用者の寝床環境を整える技術①	ベッドメイキングの意義と目的、方法について学ぶ。	テキストの該当部分 を読んでくる	
	8	生活支援の理解 利用者の寝床環境を整える技術②	演習を通してベッドメイキングの方法について学ぶ。	前回の復習をして くる	
	9	生活支援の理解 利用者の寝床環境を整える技術③	ベッドメイキングの技術の確認	課題の練習をして くる	
	10	福祉用具の意義と活用 自立に向けた福祉用具活用の意義	福祉用具活用の意義と目的を理解する。	テキストの該当部分 を読んでくる	
	11	福祉用具の意義と活用 自立に向けた福祉用具活用の視点	福祉用具活用の視点について学ぶ。	前回の復習をして くる	
	12	福祉用具の意義と活用 適切な福祉用具の選択の知識と留意点①	福祉用具の種類と制度について学ぶ。	前回の復習をして くる	
	13	福祉用具の意義と活用 適切な福祉用具の選択の知識と留意点②	情報・コミュニケーション支援機器の活用について学ぶ。	前回の復習をして くる	
	14	福祉用具の意義と活用 適切な福祉用具の選択の知識と留意点③	様々な福祉用具・ロボットの活用について学ぶ。	前回の復習をして くる	
	15	授業のまとめ	定期試験に向けてこれまでの授業の内容を振り返る。	これまでの授業の資料を整理して くる	
	16	定期試験	筆記試験	定期試験に向けて準備して くる	

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
2・3	テキストに加え、資料等を活用して講義・演習を行う	最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」/7「生活支援技術Ⅱ」（中央法規）	なし	この科目は、生活支援技術Ⅰ～Ⅵにつながる重要な科目です。また、介護福祉に関する専門用語も次々と登場してくるため、毎回の授業の積み重ねを大切にしてください。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	授業終了後	なし
定期試験	60	筆記試験		
ベッドメイキングの技術の達成度	10	担当教員の評価		
小テスト	20			
提出物	10	ワークシート	受講前に学習すること	
			なし	



教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
15	生活支援技術 I	1	30	必修	演習	1年	前期	原田 春海
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士として、デイサービスでの勤務経験を活かして、移動に関する知識、技術の修得に向けた講義・演習を行う。						
講義目的		移動に関する知識、技術を修得し、介護福祉の視点から自立に向けた移動の介護の必要性を理解する。						
到達目標		自立に向けた移動の介護方法を修得し、生活の拡大を図る援助について考えることができる						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	自立に向けた移動の介護 移動の意味と目的	移動が生活行為の基本動作であることが理解する。			シラバスを読んでおく		
	2	自立に向けた移動の介護 移動・移乗の基本的理解	移動動作の基本理論、ボディメカニクスについてを理解する。			テキストの該当部分を読んでくる		
	3	自立に向けた移動の介護 移動・移乗の介護における視点	移動・移乗の介助における基本的な視点を理解し、起居動作のポイントを理解する。			テキストの該当部分を読んでくる		
	4	自立に向けた移動の介護 車いすの介助①	車いすの基本構造と安全な車いすの扱いについて学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	5	自立に向けた移動の介護 車いすの介助②	車いすの移動介助の留意点を理解する。			テキストの該当部分を読んでくる		
	6	自立に向けた移動の介護 歩行動作の基本	歩行動作の基本を理解し、歩行の介助の視点を理解する。			テキストの該当部分を読んでくる		
	7	自立に向けた移動の介護 歩行の介助	歩行の介助の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	8	自立に向けた移動の介護 ベッド上の移動介助	様々な体位とベッド上の移動介助について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	9	自立に向けた移動の介護 臥位から端座位への起き上がりの介助	臥位から端座位への起き上がりの介助について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	10	自立に向けた移動の介護 端座位からの移乗の介助	端座位からの移乗の介助のポイントを学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	11	自立に向けた移動の介護 姿勢の保持の介助	ポジショニング・シーティングのポイントを理解する。			テキストの該当部分を読んでくる		
	12	自立に向けた移動の介護 移動の介護技術の確認	これまで学んだ技術の確認をする。			適宜指示する		
	13	自立に向けた移動の介護 移動に関連する福祉用具	移動に関連する様々な福祉用具と環境整備について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	14	自立に向けた移動の介護 ノーリフティングポリシー	ノーリフティングポリシーについて学び、体験する。			テキストの該当部分を読んでくる		
	15	授業のまとめ	定期試験に向けてこれまでの授業の内容を振り返る			これまでの授業の資料を整理してくる		
16	定期試験	筆記試験			定期試験に向けて準備してくる			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
2	テキスト・プリントを参考にしながら学生同士で演習を行う		最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術I」(中央法規)	なし		「こころとからだのしくみI-1」と連動しています。意識して演習をしましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後	なし	
定期試験	60	筆記試験						
技術確認の達成度	20	担当教員の評価			受講前に学習すること			
小テスト	10							
提出物	10				なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
16	生活支援技術Ⅱ	1	30	必修	演習	1年	前期	原田 春海	
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士としてデイサービスでの勤務経験を活かし、身じたくに関する知識、技術の修得に向けて講義・演習を行う。							
講義目的		身じたくに関する知識、技術を修得し、介護福祉の視点から自立に向けた身じたくの介護の必要性を学ぶ。							
到達目標		自立に向けた身じたくの介護に関する知識と技術を修得できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	自立に向けた身じたくの介護身じたくの意義と目的	身じたくの意義と目的について理解する。			シラバスを読んでもくる			
	2	自立に向けた身じたくの介護の視点①	生活習慣と装いの楽しみを支える工夫について考える。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	3	自立に向けた身じたくの介護の視点②	身じたくに関する用具の活用と環境整備について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	4	自立に向けた身じたくの介護 整容①	整容（洗面、スキンケア）、化粧の介護について理論を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	5	自立に向けた身じたくの介護 整容②	整容（洗面、スキンケア）、化粧の介護について演習を通して学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	6	自立に向けた身じたくの介護 整容③	整容（整髪、ひげの手入れ）の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	7	自立に向けた身じたくの介護 整容④	整容（爪の手入れ、耳の掃除）の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	8	自立に向けた身じたくの介護 口腔の清潔①	口腔ケアについての意義と利用者の状態に合わせた介護方法について理解する。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	9	自立に向けた身じたくの介護 口腔の清潔②	ブラッシング及び口腔清拭法にて口腔ケアを行う。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	10	自立に向けた身じたくの介護 更衣①	心身の状況に応じた衣類の着脱について自力で着替える演習を通して理解を深める。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	11	自立に向けた身じたくの介護 更衣②	運動機能障害のある人の椅座位での着脱について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	12	自立に向けた身じたくの介護 更衣③	運動機能障害のある人の臥位での着脱について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	13	自立に向けた身じたくの介護 更衣④	ゆかたの着脱について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	14	自立に向けた身じたくの介護 技術の確認	修得した技術の確認を行う。			課題について練習をしてくる			
	15	自立に向けた身じたくの介護 事故への対応	身じたくに関する事故への対応について学び、授業の振り返りをする。			テキストの該当部分を読んでもくる			
	16	定期試験	筆記試験			今までの復習をしてくる			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	テキスト・プリントを参考にしながら学生同士で演習を行う。		最新介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」（中央法規）		なし		「こころとからだのしくみⅡ」と連動しています。意識して演習をしましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし	
定期試験		60	筆記試験						
技術確認の達成度		20	担当教員の評価			受講前に学習すること			
提出物		10	ワークシートや課題						
小テスト		10				なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
17	生活支援技術Ⅲ	1	30	必修	演習	1年	後期	原田 春海
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士としてデイサービスでの勤務経験を活かし、入浴・清潔保持に関する知識、技術の修得に向けて講義・演習を行う。						
講義目的		入浴・清潔保持に関する知識、技術を修得し、介護福祉の視点から自立に向けた入浴・清潔保持の介護の必要性を学ぶ。						
到達目標		自立に向けた入浴・清潔保持の介護に関する知識と技術を修得できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	自立に向けた入浴・清潔保持の意義と目的	自立に向けた入浴・清潔保持の意義と目的を理解する。			シラバスを読んでくる		
	2	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護①	気持ち良い入浴を支える介護について考える。			テキストの該当部分を読んでくる		
	3	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護②	入浴に関する用具と浴室の環境整備について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	4	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護③	シャワー浴の介護方法を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	5	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護④	運動機能障害がある人の個別浴槽での入浴介護の方法の理論を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	6	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護⑤	運動機能障害がある人の個別浴槽での入浴介護の方法を演習を通して学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	7	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護⑥	運動機能障害がある人の特殊浴槽での入浴介護の方法の理論を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	8	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護⑦	運動機能障害がある人の特殊浴槽での入浴介護の方法を演習を通して学ぶ。			今までの復習をしてくる		
	9	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護⑧	部分浴(手、足)の介護の方法の理論を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	10	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護⑨	部分浴(手、足)の介護の方法を演習を通して学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清拭の介護①	全身清拭の方法の理論を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清拭の介護②	全身清拭の方法を演習を通して学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 技術の確認	これまで学んだ技術の確認をする。			課題について練習をしてくる		
	14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 事故や感染症への対応	事故や感染症への対応について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	15	授業のまとめ	定期試験に向けてこれまでの授業の内容を振り返る。			これまでの授業の資料を整理してくる		
16	定期試験	筆記試験			今までの復習をしてくる			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	テキスト・プリントを参考にしながら学生同士で演習を行う。		最新介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」(中央法規)		なし		「こころとからだのしくみⅡ-2」と連動しています。意識して演習をしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		60	筆記試験					
技術確認の達成度		20	担当教員の評価		受講前に学習すること			
提出物		10						
課題レポート		10			なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
18	生活支援技術Ⅳ	1	30	必修	演習	1年	後期	齋藤 真木
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての経験を活かして食事と排泄に関する知識、技術の修得について講義・演習を行う。						
講義目的		自立に向けた食事と排泄に関する知識、技術を修得し、介護福祉の視点から自立に向けた食事と排泄の介護の必要性を理解する。						
到達目標		自立に向けた食事と排泄の介護に関する知識と技術を修得できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的	食事の意義と目的 おいしく食べることを支えるためのポイントについて考える。			おいしく食べるための要因について考えてくる		
	2	自立に向けた食事の介護の 視点	利き手が使えない人の食事体験を通して、用具の活用や環境整備について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	3	自立に向けた食事の介護の 基本①	運動機能障害がある人の食事の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	4	自立に向けた食事の介護の 基本②	ベッドで食事をする人の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	5	自立に向けた食事の介護の 基本③	感覚機能及び認知・知覚機能がある人の食事の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	6	自立に向けた食事の介護の 基本④	嚥下障害のある人の食事の介護、事故への対応について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	7	自立に向けた食事の介護に ついてのまとめ	食事の支援について振り返り知識を確認する。			今までの復習をしてくる		
	8	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的	排泄の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的について考える。			テキストの該当部分を読んでくる		
	9	自立に向けた排泄の介護 の視点	気持ち良く、気兼ねのない排泄を支える介護のポイントを学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	10	自立に向けた排泄の介護 の基本①	感染症・事故への対応について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	11	自立に向けた排泄の介護 の基本②	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	12	自立に向けた排泄の介護 の基本③	紙おむつでの排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	13	自立に向けた排泄の介護 の基本④	布おむつでの排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	14	自立に向けた排泄の介護 の基本⑤	尿器・便器での排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	15	自立に向けた排泄の介護 の技術の確認	修得した技術の確認を行う。			テキストの該当部分を読んでくる		
16	定期試験	筆記試験			今までの復習をしてくる			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	テキスト・プリントを参考にしながら学生同士で演習を行う。		最新介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」(中央法規)		なし		「こころとからだのしくみⅡ-1」と連動しています。意識して演習をしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		80	筆記試験					
技術確認の達成度		20	担当教員の評価					
					受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
19	家政の生活支援 I	1	30	必修	演習	1年	前期	齋藤 真木
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての経験を活かして自立に向けた家事援助の技法が修得できるよう講義・演習を行う。						
講義目的		家庭生活を円滑に営む上で必要な知識や技術を修得し、自立に向けた家事の介護の必要性を学ぶ。						
到達目標		自立に向けた家事の介護に関する知識と技術を修得できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	自立に向けた家事の介護 家事の意義と目的	家事の意義と目的、共に家事をすることを支える介護について理解する。			シラバスを読んでくる		
	2	自立に向けた家事の介護の 視点	用具の活用と環境整備、生活の変化への気づきと対応について学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	3	自立に向けた家事の介護 家庭経営と家計の管理①	生活時間の個別性と管理について学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	4	自立に向けた家事の介護 家庭経営と家計の管理②	家庭経営と家計の管理、消費者問題について学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	5	自立に向けた家事の介護 買い物の支援	買い物の支援について学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	6	自立に向けた家事の介護 衣類・寝具の衛生管理①	衣類・寝具の衛生管理について学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	7	自立に向けた家事の介護 衣類・寝具の衛生管理②	演習を通して、洗濯のしかたの留意点を学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	8	自立に向けた家事の介護 裁縫の基礎①	お手玉作りを通して、裁縫の基礎を学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	9	自立に向けた家事の介護 裁縫の基礎②	お手玉作りを通して、裁縫の基礎を学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	10	自立に向けた家事の介護 住まいの維持管理	住まいの維持管理、掃除、ゴミ捨てについて学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	11	自立に向けた家事の介護 掃除の留意点	演習を通して、掃除のしかたの留意点を学ぶ。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	12	自立に向けた家事の介護 ぞうきん作り	ぞうきん作りを通して、利用者の家事への参加について考える。			テキストの該当部分に目を通してくる		
	13	自立に向けた家事の介護 訪問介護サービス	訪問介護サービスと利用者の自立支援について考える。			適宜支持する		
	14	自立に向けた家事の介護 利用者の状態・環境に応じた家事の介護	利用者の状態・環境に応じた家事の介護の留意点について学ぶ。			適宜支持する		
	15	自立に向けた家事の介護 授業の振り返り	これまで学んだ知識を振り返り整理する。			今までの復習をしてくる		
16	定期試験	筆記試験			今までの復習をしてくる			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
2	テキストを中心とした講義と演習		最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術I」(中央法規)	なし		まず自分の家庭生活をしっかりと営めるようになることから始めましょう。土台があつてこそ、利用者様の生活支援が行えるようになります。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日5時限	なし	
定期試験		70	筆記試験			受講前に学習すること		
提出課題		30	お手玉作り等の取り組み状況					
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
20	家政の生活支援Ⅱ	1	30	必修	演習	1年	後期	中倉 典子	
実務経験と授業科目との関連性		特別養護老人ホームで管理栄養士としての勤務経験を活かし、学生に栄養の基本を伝える。また老人保健施設での調理の経験を活かし、調理実習を展開する。							
講義目的		栄養・調理についての知識と技術を身につけ、高齢者・障害者の心身の状況に応じた安全でバランスの良い食事について修得する。							
到達目標		利用者の心身の状況に応じた食品選択及び食事形態を判断できる。また、実践につながる調理技術と食事介助の留意点の説明ができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	自立に向けた家事の介護 調理の意義と目的	調理の意義と目的を理解できる。 食品衛生について学ぶ			主題の確認をしておく。			
	2	自立に向けた家事の介護 献立作成の基本	食品構成を基にバランスの良い食事の献立作成を学ぶ。 栄養素の種類と特徴を学ぶ			前日の1日分の食事を記入しておく。			
	3	自立に向けた家事の介護 調理の基本	調理器具の特徴と調理操作を学ぶ。 嚥下のしくみと演習。			調理の意義と目的の復習をしておく。			
	4	自立に向けた家事の介護 利用者の心身の状況に応じた食事①	摂食・嚥下機能が低下している人に対する調理方法を学ぶ。			主題の確認をしておく。			
	5	自立に向けた家事の介護 利用者の心身の状況に応じた食事②	摂食・嚥下機能が低下している人に対する食事介助の留意点が理解できる。			前回の復習をしておく。			
	6	自立に向けた家事の介護 利用者の心身の状況に応じた食事③	1～5回の授業の理解を深めるための復習テストと解説を行う。上肢の運動機能が低下している人に対する料理方法を学ぶ。			1～5回の復習をしておく。			
	7	自立に向けた家事の介護 高齢者・障害者の心身の状況に応じた食事	上肢の運動機能が低下している人に対する食事介助の留意点が理解できる。			前回の復習をしておく。			
	8	自立に向けた家事の介護 要望に応じた食事①	嗜好に合わせた食事づくりを通して調理法を学ぶ。			主題の確認をしておく。			
	9	自立に向けた家事の介護 要望に応じた食事②	嗜好に合わせた食事づくりを通して調理技術を学ぶ。			前回の復習をしておく。			
	10	自立に向けた家事の介護 要望に応じた食事③	嗜好に合わせたおやつ作りを通して調理法を学ぶ。			主題の確認をしておく。			
	11	自立に向けた家事の介護 生活習慣病予防の食事①	4～10回の授業の理解を深めるための復習テストと解説を行う。生活習慣病を理解し、予防するための食事の工夫が理解できる。			4～10回の復習をしておく。			
	12	自立に向けた家事の介護 生活習慣病予防の食事②	今までの授業の復習テストと解説を行う。 生活習慣病予防の食事を調理実習を通して学ぶ。			11回の復習をしておく。			
	13	自立に向けた家事の介護 生活習慣病予防の食事③	生活習慣病予防の食事を調理実習を通して学ぶ。			前回の復習をしておく。			
	14	自立に向けた家事の介護 生活状況に応じた食事計画①	ありあわせの材料で献立を考えられる。			主題の確認をしておく。			
	15	自立に向けた家事の介護 生活状況に応じた食事計画②	ありあわせの材料で考えた献立で調理を行う。			献立の準備の確認をしておく。			
16	/								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	講義及び調理実習を行う。		適宜プリント配布		なし		食べることは生きること。 安全でおいしい食事を提供するための工夫を学んでほしい。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし	
授業参加状況		40	協調性をもって積極的に取り組む						
受講態度		30	積極的(意欲的に授業に参加する)			受講前に学習すること			
テスト(3回)と課題提出(2回)		30	提出期限を守る						
						授業内で指示			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
21	介護過程総論	2	30	必修	講義	1年	前期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、介護過程を展開する上で必要となる知識や方法について教授する。						
講義目的		介護過程の意義・目的の理解を踏まえた上で、ICF（国際生活機能分類）の視点を活用し、本人の望む生活の実現に向けて、介護過程の展開方法について理解することを目的とする。						
到達目標		1. 介護過程の意義・目的を理解できる。 2. 介護過程を展開するための一連のプロセスを理解できる。 3. ICF（国際生活機能分類）と介護過程の関連を理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション 介護過程を学ぶ理由	授業の概要説明等 「介護過程」を学ぶ理由と科目の位置づけを理解する。			シラバスを読んでおく。		
	2	介護過程の意義と基本的理解①介護過程の意義・目的	介護過程の意味・目的・必要性を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	3	介護過程の意義と基本的理解②介護過程に関連する用語	本人の望む生活について考える。「ニーズ」「ダイヤモンド」「エンパワメント」「ストレングス」「アドボカシー」の意味とその活用について理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	4	介護過程の意義と基本的理解 介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点	介護過程がアセスメント→介護計画の作成→介護計画の実施→評価の順に展開されることを理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	5	介護過程の意義と基本的理解 アセスメントの理解	アセスメントが情報収集→情報の整理・統合・解釈→生活課題の抽出に沿って展開されることを理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	6	情報収集を通して考える介護過程とチームアプローチの関係性	介護福祉職チームと多職種協働を通して情報を得ること、情報は客観的情報と主観的情報に分けられることを理解する。その上で客観的情報と主観的情報はケアカンファレンス等を通して総合してアセスメントする必要性を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	7	ICF（国際生活機能分類）とアセスメントとの関係	アセスメントで活用するICFの意味を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	8	ICIDH（国際障害分類）からICF（国際生活機能分類）への移行	ICIDHからICFに移行した経緯を知る中で、総合的・全体的な視点からアセスメントする必要性を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	9	ICF（国際生活機能分類）の構成要素①	ICFを構成する「健康状態」「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「個人因子」「環境因子」の内容を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	10	ICF（国際生活機能分類）の構成要素②	ICFを構成する「健康状態」「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「個人因子」「環境因子」の内容を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	11	情報の整理・統合・解釈の方法	生活課題を見出すための情報の整理・統合・解釈の方法を学ぶ中で、課題解決の思考過程の重要性を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	12	生活課題の意味と記載方法	生活課題の意味とその記載についての方法と注意点を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	13	介護計画の意味・考え方とその内容	介護計画の意味・考え方を学んだ上で、介護計画を構成する内容（総合的な支援方針、長期目標、短期目標、具体的な支援内容・方法）を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	14	介護計画の記載方法	介護計画について、その記載方法と注意点を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
	15	評価（モニタリングを含む）の意味と必要性	評価（モニタリングを含む）の意味と必要性を理解する。			前回の復習をし、小テストに備える。		
16	定期試験	筆記試験			定期試験に備える。			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2・3	プリント・資料等を活用した授業を行う。時折、テキストを活用してアセスメントや介護計画の実際を確認する（テキスト使用時は事前に連絡する）。ほぼ毎回、授業の冒頭で、前回の授業内容を復習するための小テストを行う。		コンデックス情報研究所『いちばん覚えやすい介護福祉士合格ブック'24年版』（成美堂出版）		その都度指定する。		多様な視点・知識・技術が必要となる介護過程の基本を学びます。介護福祉士の実践を支える核となる介護過程について積極的に学んでほしいと思います。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日5時限		なし
定期試験		50	筆記試験			受講前に学習すること		
中間評価		50	筆記による確認テスト					
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
22	介護過程 I	1	30	必修	演習	1年	後期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、介護過程を展開する上で必要となる知識・方法について教授する。						
講義目的		個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開を理解することで、主としてアセスメントと介護計画の作成に関する方法を習得し、課題解決の思考過程を養うことを目的とする。なお、介護過程 I では、事例の対象を主として運動機能障害のある利用者とし、介護過程を展開する。						
到達目標		1. 介護過程の展開方法を理解できる。2. 個別の事例を通じて、介護過程とチームアプローチの関係について理解できる。3. 主として運動機能障害のある利用者の事例を通して、実際に介護過程を展開できる。						
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション 介護過程の意義・目的と基本的理解の復習	授業の概要説明等 介護過程の意義・目的と介護過程の基礎的理解（ニーズ、デマンド、ストレングス、アドボカシー等）について復習する。			シラバスを読んでおく。		
	2	介護過程の展開の理解と介護過程に関する記録	介護過程を展開する一連のプロセスについて復習する。 介護過程を展開する際に用いる介護過程に関する記録物について、過去の先輩が記載した例に基づき学ぶ。			配布した先輩の介護過程の記録については、毎回持参すること		
	3	アセスメントにおける情報収集とその記載方法①	アセスメントに関する記録のうち、「受け持ち利用者の基本情報」の内容と記載方法について理解する。			前回の復習をする。		
	4	アセスメントにおける情報収集とその記載方法②	アセスメントに関する記録のうち、家族構成図である「ジェノグラム」の内容と記載方法について理解する。			前回の復習をする。		
	5	アセスメントにおける情報収集とその記載方法③	アセスメントに関する記録のうち、「アセスメントシート No. 1～3」の内容と記載方法について理解する。			事例1を読み、事例の概要を把握する。		
	6	アセスメントにおける情報の整理・統合・解釈と生活課題	事例1に基づき、アセスメントにおける情報の整理・統合・解釈の方法と生活課題の抽出方法を演習を通して理解する。			事例2を読み、事例の概要を把握する。		
	7	介護過程とチームアプローチ	事例2に基づき、アセスメントにおけるチームアプローチの方法とその重要性を理解する。			事例2のアセスメントを行う。		
	8	生活課題の優先順位と介護計画に作成に向けて	アセスメントの記載方法について復習する。複数ある生活課題の中から介護計画につなげていく優先順位をどのように決めるか、その視点を明らかにする。			事例2のアセスメントシートの提出		
	9	介護計画の理解と作成方法	「介護計画表」を通して、生活課題を解決・緩和するための長期目標、長期目標につなげる短期目標、短期目標を達成するための具体的な支援内容・方法の記載方法について理解する。			前回の復習をする。		
	10	評価(モニタリングを含む)と理解と作成方法	評価(モニタリングを含む)の視点と内容を理解する。評価の記載方法を理解する。			前回の復習をする。		
	11	運動機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解①	事例の読み合わせを行い、「基本情報」「アセスメントシート No. 1～3」に必要な情報を書き込む。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	12	運動機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解②	「基本情報」「アセスメントシート No. 1～3」に必要な情報を書き込み、情報の整理・統合・解釈を行う。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	13	運動機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解③	情報の整理・統合・解釈を行い、生活課題を抽出する。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	14	運動機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解④	抽出した生活課題を確認し、介護計画の方向性を検討する。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	15	運動機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解⑤	介護計画における長期目標、短期目標、具体的な援助内容・方法を検討する。			事例のアセスメントを行い、介護計画を作成できるように準備しておく。		
16	定期試験	介護計画の作成			定期試験に備える。			
D P	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	プリント・資料等を活用する。学生に課題(宿題)を課し、それを教員が添削し解説するという流れで授業を行う。時折、テキストを活用してアセスメントや介護計画の実際を確認する(テキスト使用時は事前に連絡する)。		コンデックス情報研究所『いちばん覚えやすい介護福祉士合格ブック'24年版』(成美堂出版)		その都度指定する。		多様な視点・知識・技術が必要となる介護過程の基本を学びます。介護福祉士の実践を支える核となる介護過程について積極的に学んでほしいと思います。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日5時限		原則として「介護過程総論」の履修が必要です。
定期試験		50	事例に基づく介護過程の展開への取り組み状況を総合的に評価			受講前に学習すること		
アセスメントシートの提出		50						
					特に「介護過程総論」での学びを復習しておいてください。			



教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
23	介護総合演習 I	1	30	選択	演習	1年	前期	齋藤 真木
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての経験を活かして、介護実習に必要な基本的知識の習得と介護福祉士としての役割、実習での学びについて講義・演習形式で行う。						
講義目的		(1)実習に関する基礎知識を身につけると共に、実習に対する意識を高める。 (2)事前学習・事後学習を行うことで、実習での学びを深める。						
到達目標		(1)実習に関する基礎知識を身につけると共に、実習に対する意識を高めることができる。 (2)事前学習・事後学習を行うことで、実習の準備と学んだことの振り返りができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	知識と技術の統合 介護総合演習の意義と目的	介護総合演習の意義と目的を理解する。			シラバスを読んでおく		
	2	知識と技術の統合 介護実習の全体像の理解	実習要項を読みながら介護実習の枠組みと全体像を理解する。			適宜指示する		
	3	知識と技術の統合 実習先事業所の理解①	実習先の事業所の役割とそこで働く職種などについて理解する。			適宜指示する		
	4	知識と技術の統合 実習先事業所の理解②	介護導入実習の事業所の概要を調べて実習施設・事業所概要記録に記入する。			前回の授業の復習をしてくる		
	5	知識と技術の統合 介護導入実習に関する準備①	介護導入実習の目標を設定し誓約書・実習申込書を作成する。 個人情報の取り扱いについて理解する。			適宜指示する		
	6	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識①	実習記録の意義と目的、方法、留意点について学ぶ。			適宜指示する		
	7	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識②	利用者や家族とのコミュニケーションのとり方について学ぶ。			適宜指示する		
	8	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	プロセスレコードの意義と目的、書き方について確認する。			適宜指示する		
	9	実習出発式	実習出発式を通して実習に対する意識を高める。			適宜指示する		
	10	知識と技術の統合 介護導入実習の振り返り	実習記録について確認し、学びと課題について話し合う。			実習中の記録類を仕上げてくる		
	11	知識と技術の統合 介護基礎実習に関する準備①	介護基礎実習先施設の概要を調べ、実習施設・事業所概要記録に記入する。			適宜指示する		
	12	知識と技術の統合 介護基礎実習に関する準備②	介護基礎実習の目標を設定し誓約書・実習申込書を作成する。			適宜指示する		
	13	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	実習施設がある地域の理解、施設と地域との関わりについての視点を学び、介護実習エコマップへの記入方法を知る。			適宜指示する		
	14	知識と技術の統合 介護基礎実習の振り返り①	実習報告書を作成する。			実習中の記録類を仕上げてくる		
	15	知識と技術の統合 介護基礎実習の振り返り②	実習報告会を行い学びを共有する。			適宜指示する		
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1・2	実習の事前学習・準備・事後学習		実習要項		なし		準備、実習、まとめに対して自主的に取り組む姿勢を身につけましょう。実習を行う事で、現場や利用者への関心を高めると共に、自分の課題を明らかにしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
課題		100	実習に関する課題の提出・内容		受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
24	介護総合演習Ⅱ	1	30	選択	演習	1年	後期	齋藤 真木
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての経験を活かして、介護実習に必要な基本的知識の習得と介護福祉士としての役割、実習での学びについて講義・演習形式で行う。						
講義目的		(1)各領域で学んだ知識を統合し、実習に関する基礎知識を学修する。 (2)事前学習・事後学習を行うことで、実習での学びを深める。						
到達目標		(1)各領域で学んだ知識を統合し、実習に関する基礎知識を学修することができる。 (2)事前学習・事後学習を行うことで、実習での学びを深めることができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	知識と技術の統合 地域介護実習の準備①	地域介護実習の事業所の役割とそこで働く職種などについて理解する。			シラバスを読んでくる		
	2	知識と技術の統合 地域介護実習の準備②	実習先の事業所の概要を調べて実習施設・事業所概要記録に記入する。			適宜指示する		
	3	知識と技術の統合 地域介護実習の準備③	地域介護実習の目標を設定し誓約書・実習申込書を作成する。			適宜指示する		
	4	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識①	実習先の事業所がある地域の理解と、関連したさまざまな介護サービスについて学ぶ。			適宜指示する		
	5	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識②	利用者の生活と地域との関わりや、利用者の生活を支える事業所の役割を地域介護実習記録に記入する方法を学ぶ。			適宜指示する		
	6	知識と技術の統合 地域介護実習の振り返り①	実習記録について確認し、実習報告書を作成する。			実習記録を仕上げ てくる		
	7	知識と技術の統合 地域介護実習の振り返り②	実習報告会を行い学びを共有する。			実習報告書を仕上げ てくる		
	8	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	ゲストスピーカーの講義を受け、地域における社会資源としての施設の役割を理解する。			適宜指示する		
	9	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	介護過程の展開における個人情報の取り扱いなどについて理解する。			適宜指示する		
	10	知識と技術の統合 個別援助実習の準備①	個別援助実習の目標を設定し誓約書・実習申込書を作成する。実習計画を立て実習計画書に記入する。			適宜指示する		
	11	知識と技術の統合 個別援助実習の準備②	個別援助実習における介護過程の展開の意義と方法について学ぶ。			適宜指示する		
	12	知識と技術の統合 個別援助実習の準備③	介護過程の展開方法と記録の書き方について確認する。			適宜指示する		
	13	知識と技術の統合 個別援助実習の準備④	事例報告作成の意義と目的及び方法について学ぶ。			適宜指示する		
	14	知識と技術の統合 個別援助実習進捗状況の確認	実習中に設定された登校日 実習の進捗状況について担当教員に報告し、学習方法の確認をする。			適宜指示する		
	15	知識と技術の統合 個別援助実習の振り返り	実習記録について確認し、実習報告書を作成する。			実習記録を仕上げ てくる		
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2・3	実習の事前学習・準備・事後学習 グループワーク		実習要項		なし		事前学習、実習、事後学習など自主的に取り組みましょう。介護の現場・利用者の方々への関心を高めるとともに、自分の課題を明らかにしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日5時限		なし
課題		100	実習に関する課題の提出・内容			受講前に学習すること		
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
25	介護導入実習	1	45	選択	実習	1年	前期	齋藤・丸山・合津 福田・武井
実務経験と授業科目との関連性		科目担当教員が下記の勤務経験を活かし、介護現場と利用者理解について実習指導を行う。 齋藤：介護福祉士（訪問介護員等） 丸山：看護師（病院勤務） 合津：社会福祉士（地域福祉活動コーディネーター） 福田：介護福祉士（施設勤務等） 武井：看護師（病院勤務等）						
講義目的		(1)様々な介護現場において利用者や家族とコミュニケーションを行い、地域における利用者の生活を理解する。 (2)多職種協働の実践の中で介護福祉士の役割を理解する。						
到達目標		(1)様々な介護現場において利用者や家族とコミュニケーションを行い、地域における利用者の生活を理解できる。 (2)多職種協働の実践の中で介護福祉士の役割を理解できる。						
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	<p>&lt;本日の主題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護福祉現場に触れ、多職種協働の実践の中で介護福祉士の役割を理解できる。</li> <li>2) 温かいところと関心をもって利用者とコミュニケーションを行うことができる。</li> <li>3) 事業所においてそれぞれの利用者がどのような過ごし方をしているか知ることができる。</li> <li>4) 利用者や家族とコミュニケーションをとることによって、在宅での生活環境や生活に対する思いを学ぶ。</li> </ol> <p>&lt;授業（実習）概要&gt;</p> <p>実習期間 2023年6月19日～6月24日 6日間  実習場所 実習施設・事業等(I)  通所介護事業所・通所リハビリテーション事業所・生活介護事業所のいずれか1事業所</p> <p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の概要を調べて、実習施設・事業所概要記録に記入する。</li> <li>・行なわれている介護の内容を見学し、介護福祉士の役割を理解する。</li> <li>・利用者とコミュニケーションをとって、プロセスレコードで振り返る。</li> <li>・事業所内で利用者がどのように過ごしているのかを観察し、記録する。</li> </ul> <p>&lt;事前・事後学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の日の目標を立てる。</li> <li>・行動記録を毎日書き、提出する。</li> <li>・1人の利用者との関わりを振り返りプロセスレコードに記入する。</li> <li>・実習終了後自己評価を行い、実習記録を完成させ提出する。</li> </ul> <p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>巡回担当教員が、実習中に1回巡回指導を行う。</p>							
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
1・2 5	・実習目標を意識して、実習指導者の指導のもとで学ぶ。 ・行動記録を書き、毎日提出する。	実習要項	なし	初めての实習で緊張すると思いますが、自分から積極的に利用者や職員に声をかけましょう。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		介護総合演習Ⅰに出席していること		
実習目標	75	介護導入実習評価表による		受講前に学習すること				
基本的態度	25	記録・積極性・責任感・実習態度						
						介護総合演習Ⅰの課題に沿って実習の準備を進めておく		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
26	介護基礎実習	1	45	選択	実習	1年	前期	齋藤・丸山・合津 福田・武井
実務経験と授業科目との関連性		科目担当教員が下記の勤務経験を活かし、介護現場と利用者理解について実習指導を行う。 齋藤：介護福祉士（訪問介護員等） 丸山：看護師（病院勤務） 合津：社会福祉士（地域福祉活動コーディネーター） 福田：介護福祉士（施設勤務等） 武井：看護師（病院勤務等）						
講義目的		(1)生活支援を行うための基礎的な知識と技術を学ぶ。 (2)施設と地域の関わりについて学ぶ。 (3)多職種協働の実践の中で介護福祉士の役割を理解する。						
到達目標		(1)生活支援を行うための基礎的な知識と技術を学ぶことができる。 (2)施設と地域の関わりについて学ぶことができる。 (3)多職種協働の実践の中で介護福祉士の役割を理解できる。						
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	<p>&lt;本日の主題&gt;</p> <p>1) 利用者に合わせた生活支援を行うための基礎的な知識と技術を学ぶことができる。 2) 施設で暮らす利用者との関わりを知ることで、地域における生活支援の実践について考えることができる。 3) 利用者主体の生活支援が、多職種協働の実践の中で行われていることを学ぶことができる。</p> <p>&lt;授業（実習）概要&gt;</p> <p>実習期間 2023年8月21日～8月26日 6日間 実習場所 実習施設・事業等(1) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか1施設 実習内容 ・事業所の概要を調べて、実習施設・事業所概要記録に記入する。 ・指導のもとで、利用者の状態に合わせた生活支援を行うための基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・施設と地域との関わりを調べ、施設と地域の関わりマップに記録する。 ・施設の中で、利用者の生活支援が多職種協働で行われていることを学び、介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>&lt;事前・事後学修&gt;</p> <p>・次の日の目標を立てる。 ・行動記録を毎日書き、提出する。 ・施設と地域との関わりを整理して、介護実習エコマップに記入する。 ・実習終了後自己評価を行い、実習記録を完成させ提出する。</p> <p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>巡回担当教員が、実習中に1回巡回指導を行う。</p>							
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1・2 5	・実習目標を意識して、実習指導者の指導のもとで学ぶ。 ・行動記録を書き、毎日提出する。	実習要項		なし		この実習内容が、個別援助実習につながっていきます。積極的に学びましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること	介護総合演習Ⅰに出席していること	
実習目標		70	介護基礎実習評価表による					
基本的態度		30	記録・積極性・責任感・実習態度			受講前に学習すること		
						介護総合演習Ⅰの課題にそって実習の準備を進めておく		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
27	地域介護実習	1	45	選択	実習	1年	後期	齋藤・丸山・合津 福田・武井
実務経験と授業科目との関連性	科目担当教員が下記の勤務経験を活かし、介護現場と利用者理解について実習指導を行う。 齋藤：介護福祉士（訪問介護員等） 丸山：看護師（病院勤務） 合津：社会福祉士（地域福祉活動コーディネーター） 福田：介護福祉士（施設勤務等） 武井：看護師（病院勤務等）							
講義目的	(1)利用者の地域での暮らしにふれ、地域での生活を支える事業所の役割を理解する。 (2)利用者の生活環境や個性を理解し、その人らしいより良い生活について考える。 (3)地域における利用者の生活を支えるための多職種協働やチームケアを体験的に学ぶ。							
到達目標	(1)利用者の地域での暮らしにふれ、地域での生活を支える事業所の役割を理解できる。 (2)利用者の生活環境や個性を理解し、その人らしいより良い生活について考えることができる。 (3)地域における利用者の生活を支えるための多職種協働やチームケアを体験的に学び、その重要性が理解できる。							
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	<p>&lt;本日の主題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>利用者とのコミュニケーションや生活支援を行い、地域での利用者の生活を理解できる。</li> <li>多職種協働の実践の中で、介護福祉士としての役割を理解できる。</li> <li>さまざまな介護サービスや地域との関わりによって利用者のその人らしい生活が支えられていることを理解できる。</li> <li>地域社会における施設・事業所の役割を理解できる。</li> </ol> <p>&lt;授業（実習）概要&gt;</p> <p>実習期間 2023年11月13日～11月18日 6日間</p> <p>実習場所 実習施設・事業等(1) 訪問介護事業所・認知症対応型共同生活介護事業所・障害者関連施設のいずれか1事業所</p> <p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション等をもとに、事業所の概要を調べて、実習施設・事業所概要記録に記入する。</li> <li>・利用者と積極的にコミュニケーションや生活支援に関わり、地域における利用者の生活や思いを理解する。</li> <li>・可能であればサービス担当者会議やケースカンファレンスに参加し、多職種が協働して利用者の地域での生活を支えていることを学ぶ。</li> <li>・利用者の「その人らしい生活」の実現に向けて、介護福祉士の役割について考える。</li> </ul> <p>&lt;事前・事後学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の日の目標を立てる。</li> <li>・行動記録を毎日書き、提出する。</li> <li>・1ケースを選び、学んだ内容を地域実習記録に記入する。</li> <li>・実習終了後自己評価を行い、実習記録を完成させ提出する。</li> </ul> <p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>巡回担当教員が実習中1回巡回指導を行う。</p>							
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
1・2 5	実習指導者の指導のもと、実習目的・目標に掲げた内容が到達できるように、利用者に関わり実習する。実習記録を書き、毎日提出する。	実習要項	なし	介護を必要とする人の地域での生活を理解する実習になります。さまざまなサービスの内容や介護福祉士の役割が理解できるように積極的に取り組みましょう。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		介護総合演習Ⅱに出席していること	
実習目標		80	地域介護実習評価表による		受講前に学習すること		介護総合演習Ⅱの課題にそって実習の準備を進めておく	
基本的態度		20	記録・積極性・責任感・実習態度					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
28	個別援助実習	3	135	選択	実習	1年	後期	齋藤・丸山・合津 福田・武井
実務経験と授業科目との関連性		科目担当教員が下記の勤務経験を活かし、介護現場と利用者理解について実習指導を行う。 齋藤：介護福祉士（訪問介護員等） 丸山：看護師（病院勤務） 合津：社会福祉士（地域福祉活動コーディネーター） 福田：介護福祉士（施設勤務等） 武井：看護師（病院勤務等）						
講義目的		(1)介護過程を展開し、利用者の望む生活支援を総合的に考える。(2)利用者の個別理解を深め、適切な生活支援を実施する。(3)利用者本位のサービスを提供するため多職種とのチームケアの必要性を理解する。(4)利用者の生活を地域との関わりから考え、地域で生活するという視点を理解する。(5)地域社会における施設の役割を理解する。						
到達目標		(1)介護過程を展開し、利用者の望む生活支援を総合的に考えることができる。(2)利用者の個別理解を深め、適切な生活支援を実施することができる。(3)利用者本位のサービスを提供するため多職種とのチームケアの必要性を理解できる。(4)利用者の生活を地域との関わりから考え、地域で生活するという視点を理解できる。(5)地域社会における施設の役割を理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	<p>&lt;本日の主題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施設の理解をし、事前に実習計画を立てて主体的に実習ができる。</li> <li>2) 利用者と良好な人間関係を形成することができる。</li> <li>3) 受け持ち利用者の介護過程の実践的展開から、利用者主体の生活と自立支援を考えることができる。</li> <li>4) 安全で身体状況に合わせた生活支援を指導者の見守りの下で、1人以上でできる。</li> <li>5) 個別援助はチームケアであることを理解し、多職種協働の実践であることを理解できる。</li> <li>6) 利用者との関わりの中からは、地域で生活するという視点で地域における生活支援の実践を理解できる。</li> <li>7) 地域における社会資源としての施設の役割を理解できる。</li> </ol> <p>&lt;授業（実習）概要&gt;</p> <p>実習期間 2024年2月 17日間</p> <p>実習場所 実習施設・事業等(II) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか1施設</p> <p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習計画のもと、毎日の目標を立てて実習を行う。</li> <li>・指導のもと、生活支援技術を実践する。</li> <li>・1人の利用者を受け持ち、利用者の望む生活に向けて介護過程を展開し、介護計画を立案する。</li> </ul> <p>&lt;事前・事後学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の日の目標を立てる。</li> <li>・行動記録を毎日書き、提出する。</li> <li>・実習終了後、自己評価を行い、実習記録を完成させ提出する。</li> </ul> <p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>巡回担当教員が、週に1回巡回指導を行う。</p>							
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
1・2 3・4 5	実習指導者の指導のもと、実習目的・目標に掲げた内容が到達できるように、利用者に関わり実習する。実習記録を書き、毎日提出する。	実習要項	なし	今までの学びが統合できるように積極的に取り組みましょう。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること	介護実習Ⅰをすべて単位取得していること	
実習目標		75	個別援助実習評価表による					
基本的態度		25	記録、積極性、計画性、責任感、実習態度			受講前に学習すること		
						介護総合演習Ⅱの課題にそって実習の準備を進めておく		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
29	こころとからだのしくみ I-1	2	30	必修	講義	1年	前期	武井 浩子	
実務経験と授業科目との関連性	看護師として実務経験を活かし、人体の構造と機能、移動に関連したこころとからだのしくみの基礎知識について講義を行う。								
講義目的	1. 介護実践に必要な根拠となる、人体の構造や機能について理解する。 2. 生活に関連する移動動作における基礎知識を学ぶとともに、機能低下や障害が及ぼす心身への影響について理解できる。								
到達目標	1. 人体の構造と機能について理解できる。 2. 移動に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。 3. 移動に関連した機能低下や障害が身体に及ぼす影響について理解できる。								
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員		
	1	からだのしくみの理解① からだのつくりを理解する	1. からだのつくりを理解する。(細胞・組織・器官・器官系) 2. 身体各部の名称を理解する。				シラバスを読んでおく		
	2	からだのしくみの理解② 脳・神経系	脳・神経系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	3	からだのしくみの理解③ 骨格系・筋系	骨格系・筋系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	4	からだのしくみの理解④ 皮膚・感覚器	皮膚・感覚器の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	5	からだのしくみの理解⑤ 血液・循環器系	血液・循環器系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	6	からだのしくみの理解⑥ 呼吸器系	呼吸器系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	7	からだのしくみの理解⑦ 消化器系	消化器系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	8	からだのしくみの理解⑧ 腎・泌尿器系	腎・泌尿器系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	9	からだのしくみの理解⑨ 生殖器系・免疫系	生殖器系・免疫系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	10	からだのしくみの理解⑩ 内分泌・代謝系	内分泌・代謝系の構造と機能について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	11	からだのしくみの理解⑪ 生命を維持するしくみ	生命を維持するしくみについて理解できる(恒常性・自律神経系・バイタルサイン)				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	12	移動に関連したこころとからだのしくみ① 移動の意味	移動の意味、基本的な姿勢について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	13	移動に関連したこころとからだのしくみ② 身体が動くしくみの理解	体位保持のしくみ・体位変換・重心移動、バランス(ボディメカニクス)について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	14	移動に関連したこころとからだのしくみ③ 機能の低下・障がい移動に及ぼす影響	機能の低下・障がい移動に及ぼす影響について理解できる(廃用症候群・骨折・褥瘡等)				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	15	移動に関連したこころとからだのしくみ④ 生活場面における移動に関するこころとからだに変化の気づきと医療職などとの連携	移動に関する観察のポイント、緊急対応の方法・多職種との連携について理解できる				事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
16	定期試験	筆記試験				試験に向けた準備をしてくる			
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ			
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。	最新介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」(中央法規)		「解剖生理をひとつひとつわかりやすく」影山博之(学研メディカル秀潤社)		生活支援に必要な、こころとからだのしくみについて、一緒に学びましょう。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日5時限		なし	
定期試験		80				受講前に学習すること			
小テスト		20							
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
30	こころとからだのしくみ I-2	2	30	必修	講義	1年	前期	丸山 順子
実務経験と授業科目との関連性		看護師として実務経験を活かし、こころのしくみ、身じたくに関連したこころとからだのしくみの基礎知識について講義を行う。						
講義目的		1. 介護実践に必要な根拠となる、こころの動きや状態について理解する。2. 生活に関連する移動動作における基礎知識を学ぶとともに、機能低下や障害が及ぼす心身への影響について理解できる。						
到達目標		1. こころのしくみについて理解できる。2. こころについて考え、こころと行動のつながりについて理解できる。3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみについて理解できる。4. 身じたくに関連した機能低下や障害が身体に及ぼす影響について理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①身じたくの意味	身じたくの意味について、生理的・心理的・社会的側面から理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	2	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②身じたくに関連する身体の構造と機能	身じたくに関連する身体（顔・毛髪・皮膚・爪等）の構造と機能について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	3	身じたくに関連したこころとからだのしくみ③身じたくに関連する身体を清潔に保つしくみ	身じたくに関連する身体（顔・毛髪・皮膚・爪等）を清潔に保つしくみについて理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ④身じたくに関連する身体を清潔に保つしくみ	身じたくに関連する身体（顔・毛髪・皮膚・爪等）を清潔に保つしくみについて理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑤機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響	機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響について理解できる（清潔整容への影響・精神的影響等）			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	6	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑥身じたくに関連する身体を清潔に保つしくみ	身じたくに関連する身体（口腔等）を清潔に保つしくみについて理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	7	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑦機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響	機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響について理解できる（口腔内疾患等）			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑧生活場面における身じたくに関するこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	身じたくに関する観察のポイント、緊急対応の方法・多職種との連携について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、中間試験に備える		
	9	こころのしくみの理解①健康、自己概念と尊厳・人間の欲求の基本的理解	基本的欲求と社会的欲求、自己実現・生きがいの関係性、自己概念・尊厳について考えることが出来る			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、中間テストに備える		
	10	身じたく（中間試験） こころのしくみの理解②脳とこころ	中間試験を行う。脳とこころのしくみについて理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	11	こころのしくみの理解③ 脳とこころのしくみの理解	脳とこころのしくみについて理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	12	こころのしくみの理解④ 学習・記憶・思考	学習・記憶・思考のしくみについて理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	13	こころのしくみの理解⑤ 感覚と運動、認知	感覚と運動、認知のしくみについて理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	14	こころのしくみの理解⑥ 意欲・動機付け、感情	意欲・動機付け、感情のしくみについて理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	15	こころのしくみの理解⑦ 適応と適応機制、欲求不満とストレス	適応と適応機制のしくみ、欲求不満とストレスについて理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
16	定期試験	筆記試験			試験に向けた準備をしてくる			
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。		最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」（中央法規）	「解剖生理をひとつひとつわかりやすく」影山博之（学研メディカル秀潤社）	生活支援に必要な、こころとからだのしくみについて、一緒に学びましょう。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準			金曜日 5 時限	なし	
定期試験		40						
中間試験		40						
小テスト		20	受講前に学習すること					
						なし		



教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
31	こころとからだのしくみ II-1	2	30	必修	講義	1年	後期	武井 浩子
実務経験と授業科目との関連性		看護師として実務経験を活かし、食事・排泄に関連したこころとからだのしくみの基礎知識について講義を行う。						
講義目的		1. 生活に関連する食事動作における基礎知識を学ぶとともに、機能低下や障害が及ぼす心身への影響について理解できる。 2. 生活に関連する排泄動作における基礎知識を学ぶとともに、機能低下や障害が及ぼす心身への影響について理解できる。						
到達目標		1. 食事・排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。 2. 食事・排泄に関連した機能低下や障害が身体に及ぼす影響について理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	食事に関連したこころとからだのしくみ①食事に関連したこころとからだのしくみ	食事における、身体的・心理的・社会的意味を理解することが出来る			シラバスを読んでおく		
	2	食事に関連したこころとからだのしくみ②食欲・美味しさを感ずるしくみ	食欲・美味しさを感ずるしくみについて理解する(空腹・満腹・食欲に影響する因子、視覚・味覚・嗅覚など)			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	3	食事に関連したこころとからだのしくみ③栄養・水分摂取について	1日に必要な栄養素・栄養量・水分摂取量について理解できる(バランスガイド等)			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	4	食事に関連したこころとからだのしくみ④摂食から排泄、咀嚼と嚥下のしくみ	摂食から排泄までの流れと、食事に関するからだのしくみを理解する。姿勢、摂食動作、咀嚼と嚥下のしくみを理解する。			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	5	食事に関連したこころとからだのしくみ⑤消化と吸収のしくみ	消化と吸収のしくみについて理解する			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	6	食事に関連したこころとからだのしくみ⑥機能の低下・障害が食事に及ぼす影響	食事に関する機能低下、障害の原因について理解できる			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	7	食事に関連したこころとからだのしくみ⑦機能の低下・障害が食事に及ぼす影響	機能低下・障害が及ぼす食事への影響について理解できる			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	8	食事に関連したこころとからだのしくみ⑧生活場面における食事に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	食事に関する観察ポイント、多職種連携、緊急対応(窒息・誤嚥・脱水等)の方法について理解できる			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	9	排泄に関連したこころとからだのしくみ①排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄における、身体的・心理的・社会的意味を理解することが出来る			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	10	排泄に関連したこころとからだのしくみ②尿生成と排尿のしくみ	尿が生成されるしくみと、排尿のしくみについて理解できる			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	11	排泄に関連したこころとからだのしくみ③便生成と排便のしくみ	便が生成されるしくみと、排便のしくみについて理解できる			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	12	排泄に関連したこころとからだのしくみ④機能低下、障害の原因	排泄に関する機能低下、障害の原因について理解できる			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	13	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑤機能低下、障害が排尿に及ぼす影響	機能低下・障害が排尿に及ぼす影響について理解できる(尿失禁や頻尿)			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	14	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑥機能低下、障害が排便に及ぼす影響	機能低下・障害が排便に及ぼす影響について理解できる(下痢・便秘・便失禁等)			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
	15	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑦生活場面における排泄に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	排泄に関する観察ポイント、多職種連携、緊急対応方法について理解できる			事前:テキストを読んでおく 事後:授業の復習をし、小テストに備える		
16	定期試験	筆記試験			試験に向けた準備をしていく			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。		最新介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」(中央法規)		なし		食事・排泄の生活支援に必要な、こころとからだのしくみについて、一緒に学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		80						
小テスト		20					受講前に学習すること	
							なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
32	こころとからだのしくみ II -2	2	30	必修	講義	1年	後期	花野 希久美
実務経験と授業科目との関連性		看護師としての実務経験を活かし、入浴・清潔保持、休息・睡眠の関連したこころとからだのしくみの基礎知識について講義を行う。終末期の心身の変化と、生活支援を行うために必要な基礎知識について講義を行う。						
講義目的		1. 生活に関連する入浴・清潔保持における基礎知識を学ぶと共に、機能低下や障害が及ぼす心身への影響について理解できる。2. 生活に関連する休息・睡眠における基礎知識を学ぶとともに、機能低下や障害が及ぼす心身への影響について理解できる。3. 終末期の心身の変化、生活に及ぼす影響、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識が理解できる。						
到達目標		1. 入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。 2. 入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連した機能低下や障害が身体に及ぼす影響について理解できる。 3. 人生の最終段階におけるこころとからだのしくみと、生活支援を行う上で必要となる基礎的な知識を理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴・清潔保持における、身体的・心理的・社会的意味、必要性を理解することが出来る。			シラバスを読んでおく		
	2	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②入浴・清潔保持に関連した身体構造と機能	入浴・清潔保持に関連した身体の構造と機能について理解できる。(皮膚・爪・頭皮の汚れのしくみ・発汗のしくみ)			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	3	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ③入浴の効果と作用	入浴の効果と作用について理解できる。リラックス・爽快感・交感神経・副交感神経のしくみについて理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	4	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ④入浴・清潔保持に関する機能低下、障害の原因	入浴・清潔保持に関する機能低下、障害の原因について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	5	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ⑤機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響	機能低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解できる。(血圧の変動・ヒートショック・呼吸困難)			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	6	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ⑥生活場面における入浴・清潔保持に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	入浴・清潔保持に関する観察ポイント、多職種連携、緊急対応方法について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	7	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①休息・睡眠の意味	休息・睡眠の意味、必要性を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	8	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②休息・睡眠のしくみ	休息・睡眠のしくみについて理解できる。(睡眠の種類、体温・ホルモンの関係、生活習慣との関係)			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	9	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響	休息・睡眠を阻害する要因と、身体機能の低下・障害が、休息・睡眠に及ぼす影響について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	10	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ④生活場面における休息・睡眠に関するこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	休息・睡眠に関する観察ポイント、多職種連携、緊急対応方法について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	11	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	死のとらえ方(生物学的・法律的・臨床的な死)について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	12	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②脳死・尊厳死・安楽死	脳死と臓器移植、尊厳死と安楽死について考えることが出来る。リビングウィル、アドバンスケアプランニングについて、その概要が理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③「死」に対するこころの理解	死に対するこころの変化について理解できる。死の受容段階、家族の死を受容する段階について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	14	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④終末期から危篤状態、死後のからだの理解	終末期から危篤時の身体機能の特徴、死後の身体の変化について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	15	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤終末期における医療職との連携	終末期から危篤時、臨終期の観察ポイント、多職種連携について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
16	定期試験	筆記試験			試験に向けた準備をしてくる			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。小テストで知識の習得の確認を行う。		最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」(中央法規)	なし		入浴・清潔保持、休息・睡眠の生活支援に必要な、こころとからだのしくみについて、一緒に学びましょう。生と死について、一緒に考えましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし
定期試験		70						
小テスト・課題		30						
						受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
33	発達と老化の理解 I	2	30	必修	講義	1年	前期	武井 浩子
実務経験と授業科目との関連性		看護師として病院勤務で実際に実践していた経験を活かし、人間の成長・発達過程における、こころとからだの変化とともに、生活支援に必要な基礎知識について講義を行う。						
講義目的		人間の成長と発達のプロセスにおける身体的な変化及び老化に伴うからだの変化を理解し、ライフサイクルに応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。						
到達目標		1. 人間の成長と発達の基礎的な理解ができる。 2. 老化に伴うからだの変化と生活について理解ができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	老化に伴うこころとからだの変化と生活① 高齢者の症状・疾患の特徴	高齢者の症状・疾患の特徴、老年症候群について理解できる。			テキストを読んでおく		
	2	老化に伴うこころとからだの変化と生活② 脳・神経系	老化に伴う脳・神経系の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	3	老化に伴うこころとからだの変化と生活③ 骨格・筋肉系	老化に伴う骨格・筋肉系の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	4	老化に伴うこころとからだの変化と生活④ 皮膚・感覚器	老化に伴う皮膚・感覚器の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	5	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑤ 血液・循環器系	老化に伴う血液・循環器系の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	6	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑥ 呼吸器系	老化に伴う呼吸器系の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	7	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑦ 消化器系	老化に伴う消化器系の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	8	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑧ 腎・泌尿器系	老化に伴う腎・泌尿器系の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	9	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑨ 内分泌・代謝系	老化に伴う内分泌・代謝系の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	10	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑩ 腎・泌尿器系	老化に伴う歯・口腔内の変化と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	11	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑪ 悪性新生物	高齢者の悪性新生物と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	12	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑫ 感染症	高齢者の感染症と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	13	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑬ 熱中症・脱水	高齢者の熱中症・脱水と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	14	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑭ 精神疾患	高齢者の精神疾患と日常生活への影響、代表的な疾患と生活上の留意点について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	15	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑮ 保健医療職との連携	保健医療職との連携の必要性について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
16	定期試験	筆記試験			まとめ			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。		最新介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」(中央法規)		なし		身体的な発達と老化について一緒に学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日 5時限		なし	
定期試験		80						
小テスト		20			受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
34	発達と老化の理解Ⅱ	2	30	必修	講義	1年	後期	花野 希久美
実務経験と授業科目との関連性		看護師としての病院勤務の実務経験を活かし、人間の成長・発達過程における、こころとからだの変化とともに、生活支援に必要な基礎知識について講義を行う。						
講義目的		人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的な変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。						
到達目標		1. 人間の成長と発達の基礎的な理解ができる。2. ライフサイクルの各期における心理的・社会的な特徴と発達課題について理解ができる。3. 老化に伴うこころの変化と生活について理解ができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	人間の成長と発達の基礎的理解① ライフサイクルと発達課題	成長と発達の考え方と原則を踏まえた、ライフサイクルと発達課題について理解する。			テキストを読んでおく		
	2	人間の成長と発達の基礎的理解② 成長・発達に影響する要因	成長・発達に影響する因子について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	3	人間の成長と発達の基礎的理解①胎児期	胎児期の身体的・心理的・社会的特徴と、発達段階・発達課題、特徴的な疾病や障害について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	4	人間の成長と発達の基礎的理解②乳幼児期	乳幼児期の身体的・心理的・社会的特徴と、発達段階・発達課題、特徴的な疾病や障害について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	5	人間の成長と発達の基礎的理解③学童期	学童期の身体的・心理的・社会的特徴と、発達段階・発達課題、特徴的な疾病や障害について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	6	人間の成長と発達の基礎的理解④青年期	青年期の身体的・心理的・社会的特徴と、発達段階・発達課題、特徴的な疾病や障害について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	7	人間の成長と発達の基礎的理解⑤成人期	成人期の身体的・心理的・社会的特徴と、発達段階・発達課題、特徴的な疾病や障害について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	8	人間の成長と発達の基礎的理解⑥老年期	老年期の身体的・心理的・社会的特徴と、発達段階・発達課題、特徴的な疾病や障害について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	9	人間の成長と発達の基礎的理解①老年期の定義・老化とは	老年期の定義、老化（特徴、加齢と老化、老化学説）について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	10	人間の成長と発達の基礎的理解②老年期の人格と価値、老いの価値	老年期の人格と価値、老いの価値について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	11	人間の成長と発達の基礎的理解③喪失体験、セクシュアリティ	老年期の発達課題について理解する。②喪失体験、セクシュアリティ、老年期を巡る今日的課題			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	12	老化に伴うこころとからだの変化と生活①に老化に伴う心身の変化の特徴	老化に伴う心身の変化の特徴について理解する。（恒常性、フレイルなど）			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	13	老化に伴うこころとからだの変化と生活②健康とは	健康長寿に向けての健康について考える。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	14	老化に伴うこころとからだの変化と生活③健康長寿の変遷と取り組み	健康長寿に向けての変遷と取り組みについて理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
	15	老化に伴うこころとからだの変化と生活④健康長寿を目指す取り組み	サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジングについて理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習		
16	定期試験	筆記試験			まとめ			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。小テストで知識の習得の確認を行う。		最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」（中央法規）		なし		こころの発達と、老化について一緒に学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		70			受講前に学習すること			
小テスト・課題		30						
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
35	認知症の理解 I	2	30	必修	講義	1年	後期	武井 浩子
実務経験と授業科目との関連性		看護師としての経験から認知症の人の医学的・心理的・社会的側面に関する基礎知識と、認知症を取り巻く状況等について講義を行う						
講義目的		認知症の人の医学的・心理的・社会的側面に関する基礎知識を学ぶとともに、認知症を取り巻く状況を理解する						
到達目標		1. 認知症の取り巻く状況として、認知症の歴史や理念、行政の方針と施策を含む社会的環境等について理解できる。 2. 認知症の医学的・心理的な基礎的な理解ができる。 3. 認知症のある人の心理や医学的・社会的側面に関する基礎的な知識が理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	認知症を取り巻く状況① 認知症のケアの理念	認知症のある人の生活や思いより、認知症ケアの理念を理解することができる。			テキストを読んでおく		
	2	認知症を取り巻く状況② 認知症のケアの歴史、現状と今後	認知症のケアの歴史、認知症のある高齢者の現状を学ぶと共に、現在の行政の方針の概要を理解することができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	3	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解① 認知症の定義 脳のしくみ	認知症の定義・診断基準等脳のしくみと老化、認知症との関係について理解することができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解② 中核症状	中核症状と脳の病変部位との関係と中核症状の内容を理解することができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解③ BPSD	BPSDの定義、背景要因と発生機序とBPSDの内容を理解することができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解④ 生活障害	中核症状・BPSDにより、認知症のある人に起こりうる生活障害について理解することができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑤ 検査・診断	認知症の検査・診断、認知機能の重症度と評価方法（FAST等）について理解ができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑥ アルツハイマー型認知症	認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症）の病態や症状の特徴について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	9	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑦ 血管性認知症	認知症の原因疾患（脳血管性認知症）の病態や症状の特徴、うつ病とせん妄等状態について理解し、認知症との違いについて理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	10	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑧ レビー小体型認知症・ピック病他	認知症の原因疾患（レビー小体型認知症・ピック症・その他の認知症）の病態や症状の特徴について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑨ 若年性認知症	若年性認知症について定義や現状等や生活課題と支援方法について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑩ 認知症の治療	認知症に対する薬物療法を中心とする治療について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑪ 認知症の予防	認知症を予防する活動と方法・軽度認知機能障害について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	14	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑫ 認知症の人の心理	認知症の人の心理について理解を深める。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	15	認知症を取り巻く状況・認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解総まとめ	今まで学んだ内容より、認知症のある人の生活や思いを支援するための課題を考えることができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	16	定期試験	筆記試験			まとめ		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	テキストを参考に、最新情報の加味する。小テストで知識の習得の確かめを行う		最新介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」（中央法規）		その都度紹介する。		認知症の方が感じている生活のしづらさも含めて理解を深めましょう	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準		木曜日 5時限		なし	
定期試験		80			受講前に学習すること			
小テスト		20						
					なし			

## 2. 介 護 福 祉 学 科

### 1 年次開講科目

(令和4年度入学生)

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
18	生活支援技術IV	1	30	必修	演習	1年	後期	齋藤 真木
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての経験を活かして食事と排泄に関する知識、技術の修得について講義・演習を行う。						
講義目的		自立に向けた食事と排泄に関する知識、技術を修得し、介護福祉の視点から自立に向けた食事と排泄の介護の必要性を理解する。						
到達目標		自立に向けた食事と排泄の介護に関する知識と技術を修得できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的	食事の意義と目的 おいしく食べることを支えるためのポイントについて考える。			おいしく食べるための要因について考えてくる		
	2	自立に向けた食事の介護の 視点	利き手が使えない人の食事体験を通して、用具の活用や環境整備について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	3	自立に向けた食事の介護の 基本①	運動機能障害がある人の食事の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	4	自立に向けた食事の介護の 基本②	ベッドで食事をする人の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	5	自立に向けた食事の介護の 基本③	感覚機能及び認知・知覚機能がある人の食事の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	6	自立に向けた食事の介護の 基本④	嚥下障害のある人の食事の介護、事故への対応について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	7	自立に向けた食事の介護に ついてのまとめ	食事の支援について振り返り知識を確認する。			今までの復習をしてくる		
	8	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的	排泄の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的について考える。			テキストの該当部分を読んでくる		
	9	自立に向けた排泄の介護 の視点	気持ち良く、気兼ねのない排泄を支える介護のポイントを学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	10	自立に向けた排泄の介護 の基本①	感染症・事故への対応について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	11	自立に向けた排泄の介護 の基本②	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	12	自立に向けた排泄の介護 の基本③	紙おむつでの排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	13	自立に向けた排泄の介護 の基本④	布おむつでの排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	14	自立に向けた排泄の介護 の基本⑤	尿器・便器での排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	15	自立に向けた排泄の介護 の技術の確認	修得した技術の確認を行う。			テキストの該当部分を読んでくる		
16	定期試験	筆記試験			今までの復習をしてくる			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	テキスト・プリントを参考にしながら学生同士で演習を行う。		最新介護福祉士養成講座7「生活支援技術II」(中央法規)		なし		「こころとからだのしくみII-1」と連動しています。意識して演習をしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		80	筆記試験		受講前に学習すること			
技術確認の達成度		20	担当教員の評価					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
29	こころとからだのしくみ I-1	2	30	必修	講義	1年	前期	武井 浩子
実務経験と授業科目との関連性	看護師として実務経験を活かし、人体の構造と機能、移動に関連したこころとからだのしくみの基礎知識について講義を行う。							
講義目的	1. 介護実践に必要な根拠となる、人体の構造や機能について理解する。 2. 生活に関連する移動動作における基礎知識を学ぶとともに、機能低下や障害が及ぼす心身への影響について理解できる。							
到達目標	1. 人体の構造と機能について理解できる。 2. 移動に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。 3. 移動に関連した機能低下や障害が身体に及ぼす影響について理解できる。							
教 育 内 容	本日の主題	授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	からだのしくみの理解① からだのつくりを理解する	1. からだのつくりを理解する。(細胞・組織・器官・器官系) 2. 身体各部の名称を理解する。			シラバスを読んでおく		
	2	からだのしくみの理解② 脳・神経系	脳・神経系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	3	からだのしくみの理解③ 骨格系・筋系	骨格系・筋系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	4	からだのしくみの理解④ 皮膚・感覚器	皮膚・感覚器の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	5	からだのしくみの理解⑤ 血液・循環器系	血液・循環器系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	6	からだのしくみの理解⑥ 呼吸器系	呼吸器系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	7	からだのしくみの理解⑦ 消化器系	消化器系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	8	からだのしくみの理解⑧ 腎・泌尿器系	腎・泌尿器系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	9	からだのしくみの理解⑨ 生殖器系・免疫系	生殖器系・免疫系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	10	からだのしくみの理解⑩ 内分泌・代謝系	内分泌・代謝系の構造と機能について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	11	からだのしくみの理解⑪ 生命を維持するしくみ	生命を維持するしくみについて理解できる(恒常性・自律神経系・バイタルサイン)			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	12	移動に関連したこころとからだのしくみ① 移動の意味	移動の意味、基本的な姿勢について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	13	移動に関連したこころとからだのしくみ② 身体が動くしくみの理解	体位保持のしくみ・体位変換・重心移動、バランス(ボディメカニクス)について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	14	移動に関連したこころとからだのしくみ③ 機能の低下・障がいや移動に及ぼす影響	機能の低下・障がいや移動に及ぼす影響について理解できる(廃用症候群・骨折・褥瘡等)			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
	15	移動に関連したこころとからだのしくみ④ 生活場面における移動に関するこころとからだに変化の気づきと医療職などの連携	移動に関する観察のポイント、緊急対応の方法・多職種との連携について理解できる			事前：テキストを読んでおく 事後：授業の復習をし、小テストに備える		
16	定期試験	筆記試験			試験に向けた準備をしてくる			
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。	最新介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」(中央法規)		「解剖生理をひとつひとつわかりやすく」影山博之(学研メディカル秀潤社)		生活支援に必要な、こころとからだのしくみについて、一緒に学びましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし		
定期試験	80							
小テスト	20					受講前に学習すること		
						なし		



### 3. 介 護 福 祉 学 科

<2年生開講科目>

(令和4年度入学生)

介護福祉学科 2 年生

\* 印は単位認定者

授業科目の区分等		No.	授業科目		担当教員	必修 選択別	開設時期	
							前期	後期
教養科目	学修の基礎力を培う	1	キャリアデザインⅠ	演習	* 齋藤真木・福田明	選択	○	
		2	キャリアデザインⅡ	演習	* 福田明・丸山順子	選択	○	
		3	キャリアデザインⅢ	演習	福田明	選択		○
人間と社会	人間の尊厳と自立	4	人間の尊厳と自立	講義	木内義勝	必修		○
	人間関係とコミュニケーション	5	人間関係とコミュニケーションⅡ	演習	齋藤真木	必修		○
	社会の理解	6	社会保障論Ⅱ	講義	合津千香	必修	○	
		7	社会保障と人間の生活	演習	合津千香	必修		○
人と社会に関する科目	8	人間の発達と心理的支援	講義	高下梓	必修		○	
介護	介護の基本	9	介護の基本Ⅲ	演習	齋藤真木	必修	○	
		10	介護の基本Ⅳ	講義	合津千香	必修		○
	コミュニケーション技術	11	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	合津千香	必修	○	
	生活支援技術	12	生活支援技術Ⅴ	演習	* 原田春海・武井浩子	必修	○	
		13	生活支援技術Ⅵ	演習	丸山順子	必修		○
		14	福祉住環境と生活支援	講義	福田明	必修	○	
	介護過程	15	介護過程Ⅱ	演習	福田明	必修	○	
		16	介護過程Ⅲ	演習	福田明	必修		○
		17	介護過程Ⅳ	演習	福田明	必修		○
	介護総合演習	18	介護総合演習Ⅲ	演習	合津千香	選択	○	
19		介護総合演習Ⅳ	演習	* 合津千香・丸山順子 福田明・齋藤真木 武井浩子	選択		○	
実介護 実習	介護実習Ⅱ	20	介護総合実習	実習	* 合津千香・丸山順子 福田明・齋藤真木 武井浩子	選択	○	
こころとからだのしくみ	認知症の理解	21	認知症の理解Ⅱ	講義	武井浩子	必修	○	
	障害の理解	22	障害の理解Ⅰ	講義	丸山順子	必修	○	
		23	障害の理解Ⅱ	講義	丸山順子	必修		○
医療的ケア	医療的ケア	24	医療的ケアⅠ	講義	武井浩子	選択	○	
		25	医療的ケアⅡ	講義	* 丸山順子・武井浩子	選択	○	
		26	医療的ケアⅢ	講義	* 武井浩子・丸山順子	選択		○
		27	医療的ケアⅣ	演習	* 丸山順子・武井浩子	選択		○

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
1	キャリアデザイン I	1	30	選択	演習	2年	前期	齋藤真木・福田明
実務経験と授業科目との関連性		科目担当教員が下記の勤務経験を活かし、キャリアデザインにおいて必要となる知識や方法について教授する。 齋藤：介護福祉士（訪問介護員等） 福田：介護福祉士（施設勤務等）						
講義目的		「キャリアデザイン入門」での学びを踏まえた上で、介護福祉士等を目指す学生一人ひとりの社会的・職業的な自立に向けて必要となる態度・知識・技術の育成を図ることを目的とする。						
到達目標		1. 社会的・職業的な自立に向けて必要となる就職に関するスキル（雇用・面接等の知識・技術）を身につける。 2. 社会的・職業的な自立に向けて必要となるコミュニケーションの知識・技術を理解し、深めることができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション 進路ガイダンス	授業概要等の説明 学生部担当者から本学の就職・進学実績および就職活動等の心構えについて学ぶ。			シラバスを読んでおく、課題シート①の提出		齋藤
	2	社会人・専門職としての心構え	キャリア支援専門員による講演を聞き、社会人・専門職としての仕事への向き合い方・姿勢を理解する。			課題シート②の提出		齋藤
	3	雇用契約の理解	実際の求人票を参考とし、求人票の見方を理解する。			前回の復習		齋藤
	4	履歴書の目的・内容と作成①	履歴書の目的・内容を理解する。			前回の復習		齋藤
	5	履歴書の目的・内容と作成②	実際に履歴書を書く中で、履歴書の作成方法を学ぶ。			課題シート③の提出		齋藤
	6	履歴書の目的・内容と作成③	作成した履歴書の添削指導を受け、履歴書の精度を高める。			前回の復習		齋藤
	7	面接対策①	入退室の立ち居振る舞い、質疑応答について学ぶ。			課題シート④の提出		齋藤
	8	面接対策②	想定問答を作成した上で、面接試験本番を想定した模擬面接を受け、面接試験のイメージをつかむ。			前回の復習		齋藤
	9	学内就職活動①	学内の就職セミナーに参加し、就職先の検討に役立てる。			前回の復習		齋藤
	10	学内就職活動②	学内の就職セミナーに参加し、就職先の検討に役立てる。			課題シート⑤の提出		齋藤
	11	人間関係とコミュニケーション①	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		福田
	12	人間関係とコミュニケーション②	チームマネジメントについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		福田
	13	コミュニケーション技術①	介護を必要とする人・家族とのコミュニケーションについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		福田
	14	コミュニケーション技術②	障害の特性に応じたコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーションについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		福田
	15	コミュニケーション技術③	記録、報告・連絡・相談に関する知識・技術について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		福田
	16	定期試験	筆記試験			定期試験に備えた学習をしておく。		福田
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1・2	配付資料、パワーポイント等を用いて授業を行う。また、学生の理解度を確認しながら授業を進めるため、各授業内容を振り返るための課題シートを課したり、小テストを行ったりする。		介護福祉士国家試験受験対策研究会『わかる！受かる！合格テキスト2023』（中央法規）※1年次に使用したテキスト		なし		社会的・職業的な自立に向けて、一緒に学び、得意分野を伸ばしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		原則として「キャリアデザイン入門」の履修が必要となる。
定期試験		100				受講前に学習すること		
					授業計画（予定）に基づき、各授業日の内容についてテキスト等を用いて予習・復習する。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
2	キャリアデザインⅡ	1	30	選択	演習	2年	前期	福田 明・丸山順子
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、キャリアデザインにおいて必要となる知識や方法について教授する。						
講義目的		将来を見据え、総合的な視点で対象者を支援することができる介護福祉士の基盤形成を図るため、介護福祉士にとって必要となる知識・技術を複合的に学び、それらの知識の定着と理解を深めることを目的とする。なお、キャリアデザインⅡでは領域「介護」「人間と社会」に関する科目を中心に学ぶ。						
到達目標		1. 介護福祉士にとって必要となる知識・技術の全体像を理解することができる。 2. 介護福祉士にとって必要となる知識・技術の定着と理解を深めることができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	オリエンテーション 介護福祉士に必要な知識・技術	授業概要等の説明 「求められる介護福祉士像」や介護福祉士国家試験の出題科目に基づきながら、介護福祉士にとって必要となる知識・技術を確認する。			シラバスを読んでおく。	福田	
	2	介護福祉士の魅力と求められるスキル①	介護福祉士として働く卒業生の声を通して、介護福祉士の魅力と求められるスキルについて知る。に必要ななるために今、学ばなければならないことを知る。			前回の復習	丸山	
	3	介護福祉士の魅力と求められるスキル②	介護福祉士として働く卒業生の声を通して、介護福祉士の魅力と求められるスキルについて知る。に必要ななるために今、学ばなければならないことを知る。			前回の復習	丸山	
	4	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と人権・福祉理念、自立の概念について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	丸山	
	5	介護の基本①	介護福祉の基本となる理念、介護福祉士の役割と機能、介護福祉士の倫理について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	丸山	
	6	介護の基本②	介護を必要とする人の理解、多職種協働の役割と機能、介護における安全確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	丸山	
	7	生活支援技術①	生活支援の理解、自立に向けた居住環境・移動の介護・身支度・食事の介護について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	丸山	
	8	生活支援技術②	自立に向けた入浴・清潔保持・排泄・家事・休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	丸山	
	9	介護過程	介護過程の意義と基本的事項、介護過程とチームアプローチ、介護過程の展開について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	福田	
	10	社会の理解①	社会と生活のしくみ、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	福田	
	11	社会の理解②	介護保険制度について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	福田	
	12	社会の理解③	障害者総合支援法について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。	福田	
	13	領域「介護」に関する知識・技術①	介護福祉士国家試験の模擬問題の解説を行う中で、領域「介護」に関する知識・技術の定着と理解の促進を図る。			小テストに備えた学習をしておく。	福田	
	14	領域「介護」に関する知識・技術②	介護福祉士国家試験の模擬問題の解説を行う中で、領域「介護」に関する知識・技術の定着と理解の促進を図る。			小テストに備えた学習をしておく。	福田	
	15	領域「人間と社会」に関する知識・技術	介護福祉士国家試験の模擬問題の解説を行う中で、領域「人間と社会」に関する知識・技術の定着と理解の促進を図る。			小テストに備えた学習をしておく。	丸山	
16	定期試験	筆記試験			定期試験に備えた学習をしておく。	福田		
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
2	テキストに基づき、傾向と対策および補足説明を中心に講義する。また、内容確認のための問題を解き、それについて解説もする。		・『わかる！受かる！合格テキスト2023』(中央法規)※1年次に使用したテキスト ・『介護福祉士過去5年問題集'24年版』(成美堂出版)	授業時等に適宜紹介する。	苦手科目を減らし、得意科目を伸ばすためにも、毎回の授業への参加はもちろん、自己学習を計画的に進めてください。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		原則として「キャリアデザイン入門」の履修が必要となる。	
中間評価	40	筆記による確認テスト			受講前に学習すること			
定期試験	60	筆記試験					授業計画(予定)に基づき、各授業日の内容についてテキスト等を用いて予習・復習する。	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
3	キャリアデザインⅢ	1	30	選択	演習	2年	後期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、キャリアデザインにおいて必要となる知識や方法について教授する。						
講義目的		将来を見据え、総合的な視点で対象者を支援することができる介護福祉士の基盤形成を図るため、介護福祉士にとって必要となる知識・技術を複合的に学び、それらの知識の定着と理解を深めることを目的とする。なお、キャリアデザインⅡでは領域「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」に関する科目を中心に学ぶ。						
到達目標		1. 介護福祉士にとって必要となる知識・技術の全体像を理解することができる。 2. 介護福祉士にとって必要となる知識・技術の定着と理解を深めることができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	オリエンテーション 介護福祉士に必要な知識・技術	授業概要等の説明「求められる介護福祉士像」や介護福祉士国家試験の出題科目に基づきながら、介護福祉士にとって必要となる知識・技術を確認する。			シラバスを読んでおく。		
	2	介護福祉士のキャリアアップ①	介護福祉士として働く卒業生の声を通して、介護福祉士がどのように成長していくのか、キャリアアップの道筋とそのイメージをつかむ。			前回の復習		
	3	介護福祉士のキャリアアップ②	介護福祉士として働く卒業生の声を通して、介護福祉士がどのように成長していくのか、キャリアアップの道筋とそのイメージをつかむ。			前回の復習		
	4	発達と老化の理解①	人間の成長と発達の基礎的理解 からだのしくみについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	5	発達と老化の理解②	老化に伴うこころとからだの変化と生活について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	6	認知症の理解①	認知症を取り巻く状況、認知症の医学的・心理的側面の基礎的事項について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	7	認知症の理解②	認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	8	障害の理解①	障害の基礎的事項、障害の医学的・心理的側面の基礎的事項について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	9	障害の理解②	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	10	こころとからだのしくみ①	こころのしくみとからだのしくみについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	11	こころとからだのしくみ②	移動・身支度・食事・排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	12	こころとからだのしくみ③	入浴・休息・睡眠・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	13	医療的ケア	医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引、経管栄養について理解する。			小テストに備えた学習をしておく。		
	14	領域「こころとからだのしくみ」に関する知識・技術①	介護福祉士国家試験の模擬問題の解説を行う中で、領域「こころとからだ」に関する知識・技術の定着と理解の促進を図る。			小テストに備えた学習をしておく。		
	15	領域「こころとからだのしくみ」に関する知識・技術②	介護福祉士国家試験の模擬問題の解説を行う中で、領域「こころとからだ」に関する知識・技術の定着と理解の促進を図る。			小テストに備えた学習をしておく。		
16	定期試験	筆記試験			定期試験に備えた学習をしておく。			
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
2	テキストに基づき、傾向と対策および補足説明を中心に講義する。また、内容確認のための問題を解き、それについて解説もする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>『わかる！受かる！合格テキスト2023』（中央法規）※1年次に使用したテキスト</li> <li>『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2024』（中央法規）</li> <li>『介護福祉士過去5年問題集'24年版』（成美堂出版）</li> </ul>	授業時等に適宜紹介する。	苦手科目を減らし、得意科目を伸ばすためにも、毎回の授業への参加はもちろん、自己学習を計画的に進めてください。			
成績評価方法					オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準		火曜日5時限	原則として「キャリアデザイン入門」の履修が必要となる。		
知識定着度の確認①	20	筆記による確認テスト		受講前に学習すること				
知識定着度の確認②	20	筆記による確認テスト						
知識定着度の確認③	20	筆記による確認テスト						
知識定着度の確認④	20	筆記による確認テスト		授業計画（予定）に基づき、各授業日の内容についてテキスト等を用いて予習・復習する。				
定期試験	20	筆記試験						

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
4	人間の尊厳と自立	2	30	必修	講義	2年	後期	木内 義勝
実務経験と授業科目との関連性		人間としての尊厳の保持と自立支援の必要性、倫理的場面の対応について、具体的な問題を講義に取り入れている。介護福祉施設（2施設）の経営に関わる立場からの知見を講義に生かす。						
講義目的		人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。						
到達目標		①人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を説明できる。 ②人間にとっての自立の意味と本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	人間の尊厳と自立の意義	人間の尊厳と自立の意義について理解する。			シラバスを読んで学習内容を理解しておく		
	2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と自立をめぐる歴史としくみを理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と自立をめぐる歴史としくみを理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	4	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と自立が生活支援においてどのように活かされているか理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	5	介護における権利擁護と人権尊重①	介護を必要とする人の人権と生活について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	6	介護における権利擁護と人権尊重②	介護を必要とする人の権利侵害が起こる状況について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	7	介護における権利擁護と人権尊重③	介護福祉における権利侵害の背景とアドボカシー・エンパワメントについて考える。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	8	自立の概念	IL運動と自己決定・自己選択について理解する。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	9	認知症の人の尊厳	事例をとおして人間の尊厳と自立について考える。			自分の考えをまとめておく		
	10	認知症の人の尊厳	事例をとおして人間の尊厳と自立について考える。			自分の考えをまとめておく		
	11	障害のある人の尊厳	相模原障害者施設殺傷事件の概要についての講義を受け、課題にそったレポートを作成する。			課題の内容について調べておく		
	12	障害のある人の尊厳	旧優生保護法共生不妊手術の概要についての講義を受け、課題にそったレポートを作成する。			課題の内容について調べておく		
	13	死後における人間の尊厳	DVDを見て、人間の尊厳について考える。			自分の考えをまとめておく		
	14	生活の中の権利侵害	DV防止法、ハラスメントなどの権利侵害について考える。			自分の考えをまとめておく		
	15	介護職の権利と職業倫理	専門職の倫理綱領から職業倫理について考える。			これまでに学習したことを整理し復習しておく		
16	定期試験	全員が期末試験を受験する。			これまでに学習したことを整理し復習しておく			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	テキスト、資料、プリント、DVDを使用し、問題を提示しながら講義する。		最新介護福祉士養成講座1「人間の理解」（中央法規）		なし		介護福祉士として利用者の尊厳を保持して自立支援することの意味を考えましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		60						
課題レポート		20			受講前に学習すること			
授業参加状況		20	振り返りシート					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
5	人間関係とコミュニケーションII	1	30	必修	演習	2年	後期	齋藤 真木
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての勤務経験を活かして、チームで働くためのコミュニケーション力に関する基本的な講義を行う。						
講義目的		介護実践をマネジメントするための組織の運営管理や人材管理等、チーム運営の基本を教授する。						
到達目標		介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1 チームマネジメント 介護サービスの特徴	ヒューマンサービスの特徴・特性を学び、他サービスとの相違点を理解する。				シラバスを読んでおく		
	2 求められるチームマネジメント	チームをマネジメントするとはどういうことか、組織運営・経営・サービス管理等の概略を学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	3 チームマネジメント 福祉サービスの組織や団体	法人（社会福祉法人、特定非営利活動法人等）、その他の組織や団体について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	4 チームマネジメント 福祉サービスの組織の機能と役割	組織の意義、また、法人理念や経営理念の重要性について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	5 チームマネジメント 組織の管理運営	企業の社会的責任やPDCA、品質マネジメントシステムなどを学び、管理運営の基礎を理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	6 チームマネジメント 組織と運営管理におけるコンプライアンス	コンプライアンスの遵守について学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	7 チームマネジメント 集 団の力学に関する基礎理論	個人・集団・組織の関係及び集団とモチベーションの関係性について理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	8 チームマネジメント リー ダーシップに関する基礎理論	様々なリーダーシップ理論を学び、福祉サービス組織におけるリーダーシップの在り方について考える。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	9 チームマネジメント 福祉サービスにおけるサービス管理①	サービス向上のための委員会活動、サービスの質の評価として、第三者評価制度、自己評価について学ぶ				テキストの該当箇所を読んでおく		
	10 チームマネジメント 福祉サービスにおけるサービス管理②	苦情対応とリスクマネジメントについて学ぶ				テキストの該当箇所を読んでおく		
	11 チームマネジメント 福祉サービスにおける労務管理	勤怠や賃金、安全衛生面でのマネジメントについて学ぶ。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	12 チームマネジメント 人材の育成と管理①	職場研修の方法として、OJT、Off-JT、SDSの在り方を理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	13 チームマネジメント 人材の育成と管理②	指導・教育の方法として、ティーチング・コーチングの方法を理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	14 チームマネジメント 人材の育成と管理③	スーパービジョンの理論を学び、過去の実習における体験を整理する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	15 チームマネジメント 人材の育成と管理④	モチベーションマネジメントについて理解する。				テキストの該当箇所を読んでおく		
	16 定期試験	筆記試験				試験に向けた準備をしてくる		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1・2	テキスト・配布資料・視覚教材を活用しての講義及び個人及びグループでのワークを組み合わせ学修する		最新介護福祉士養成講座1「人間の理解」（中央法規）		その都度指定する		人間関係やコミュニケーションについて、一緒に学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		80	筆記試験		受講前に学習すること			
課題レポート		20	記述内容、ワークへの取り組み					
					チーム及び組織としてのコミュニケーションを実習体験から振り返っておきましょう。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
6	社会保障論Ⅱ	2	30	必修	講義	2年	前期	合津 千香

実務経験と授業科目との関連性 地域福祉活動コーディネーターの経験を活かし社会保険制度・障害者福祉制度について具体的な問題を提示しながら行う。

講義目的 社会保険制度の基本的な考え方としくみを理解し、社会保険制度・障害者福祉制度について目的としくみを理解する。

到達目標 ①医療保険、年金保険、労働保険のしくみについて説明できる。  
②障害者福祉制度について目的としくみについて説明できる。

		本日の主題	授業概要	事前・事後学修	担当教員
教 育 内 容	1	社会保障制度① 社会保険の特徴と種類	社会保険の種類およびその機能と構造について理解する。	シラバスを読んで学習内容を理解しておく	
	2	社会保障制度② 医療保険のしくみ	医療保険のしくみについて理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	3	社会保障制度③ 医療保険のしくみ	医療保険のしくみについて理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	4	社会保障制度④ 年金保険のしくみ	年金保険のしくみについて理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	5	社会保障制度⑤ 年金保険のしくみ	年金保険のしくみについて理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	6	社会保障制度⑥ 労働保険のしくみ	労働保険のしくみについて理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	7	障害者福祉と障害者保健福祉制度①	障害者福祉施策の変遷について理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	8	障害者福祉と障害者保健福祉制度②	障害者総合支援法の目的としくみについて理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	9	障害者福祉と障害者保健福祉制度③	障害者総合支援法のサービス内容について理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	10	障害者福祉と障害者保健福祉制度④	障害者総合支援法のサービス内容について理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	11	障害者福祉と障害者保健福祉制度⑤	障害者支援における組織・団体の役割とケアマネジメントについて理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	12	障害者福祉と障害者保健福祉制度⑥	障害児に対する支援制度について学ぶ。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	13	障害者福祉と障害者保健福祉制度⑦	障害者雇用促進法・障害者差別解消法について学ぶ。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	14	社会保障制度 社会保障の財源	社会保障の行政組織と財源について理解する。	テキストの該当箇所を読んで理解しておく	
	15	社会保障制度 社会保障制度の課題	少子高齢社会における社会保障制度の課題について理解する。	これまでに学習したことを整理し復習しておく	
	16	定期試験	筆記試験	これまでに学習したことを整理し復習しておく	

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
4	テキスト、資料、プリントを使用し、問題を提示しながら講義する。	最新介護福祉士養成講座2「社会の理解」(中央法規)	なし	介護福祉士にとって最も重要な制度をしっかりと学びましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	月曜日 3時限	なし
定期試験	80	5回		
小テスト	20			
			社会保障論Ⅰの内容を理解しておくこと	



教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
7	社会保障と人間の生活	1	30	必修	演習	2年	後期	合津 千香
実務経験と授業科目との関連性		地域福祉活動コーディネーターの経験を活かして介護実践に関連する諸制度について具体的な問題を提示しながら行う。						
講義目的		高齢者・障害者等の権利擁護の視点から、介護実践に関連する諸制度の基本的な考え方としくみを理解する。						
到達目標		高齢者・障害者等の権利擁護の視点から、介護実践に関連する制度の目的としくみについて説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	介護実践に関連する諸制度①	生活保護法の概要について学ぶ。			シラバスを読んで学習内容を理解しておく		
	2	介護実践に関連する諸制度②	生活困窮者自立支援制度について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	3	介護実践に関連する諸制度③	高齢者虐待防止に関する制度と実践について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	4	介護実践に関連する諸制度④	障害者虐待防止に関する制度と実践について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	5	介護実践に関連する諸制度⑤	児童虐待防止・配偶者暴力防止に関する制度と実践について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	6	介護実践に関連する諸制度⑥	成年後見制度について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	7	介護実践に関連する諸制度⑦	日常生活自立支援事業について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	8	介護実践に関連する諸制度⑧	個人情報保護・消費者保護に関する制度と実践について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	9	介護実践に関連する諸制度⑨	身体拘束の現状とその防止について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	10	介護実践に関連する諸制度⑩	苦情解決・不服申し立てに関する制度について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	11	介護実践に関連する諸制度⑪	就労支援・雇用促進に関する制度について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	12	介護実践に関連する諸制度⑫	保健医療に関する制度について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	13	介護実践に関連する諸制度⑬	住生活を支援する制度・施策について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	14	介護実践に関連する諸制度⑭	行政計画と市町村の役割について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んで理解しておく		
	15	まとめ	課題にそって学んだことをまとめることができる。			これまでに学習したことを整理し復習しておく		
16	定期試験	筆記試験						
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	講義や調べ学習、発表、グループワークを交えた学習とする。		最新介護福祉士養成講座2「社会の理解」(中央法規)		なし		介護福祉士にとって重要なさまざまな制度をしっかりと学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		火曜日3時限		なし	
定期試験		80						
小テスト		20	5回					
					受講前に学習すること			
					社会保障論Ⅰ・Ⅱの内容を理解しておくこと			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
8	人間の発達と心理的支援	2	30	必修	講義	2年	後期	高下 梓
実務経験と授業科目との関連性		心理臨床の現場で面接や検査を行った経験を活かし、対人援助職として把握しておきたい基礎知識の習得にむけて実践的な授業を展開する。						
講義目的		1. 生涯発達の視点から人の発達の基礎を理解する。 2. こころの機能の理解をするため様々な視点を学び、自己理解や他者理解に役立てる。 3. さまざまな心理的支援の方法を学ぶ。						
到達目標		1. 生涯発達の視点から人の発達の基礎を理解できる。 2. こころの機能を様々な視点から理解し、自己理解や他者理解に役立てることができる。 3. さまざまな心理的支援方法について理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	生涯発達の考え方	生涯発達の考え方を理解し、授業の概要の理解をする。			事前：シラバスを読んでおく 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	2	脳・感覚器官の発達	胎児期から幼少期にかけて脳・感覚器官の発達について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	3	運動の発達	粗大運動・微細運動の発達について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	4	ピアジェの発達理論	ピアジェが提唱した理論について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	5	エリクソンの発達理論	エリクソンが提唱した理論について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	6	ハヴィガーストの発達理論	ハヴィガーストが提唱した理論について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	7	発達段階ごとに気をつけた心身の不調	幼少期より青年期にかけて各段階で生じやすい心身の不調について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	8	心理検査概論	心理検査の種類と代表的な心理検査、倫理について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	9	質問紙法、投映法	心理検査のうち質問紙、投映法の特徴を学ぶ。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	10	認知機能検査	代表的な認知機能検査の特徴と実施法を学ぶ。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	11	心理的支援① 精神分析	精神分析の考え方と適応機制について理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	12	心理的支援② 行動療法と認知行動療法	学習心理学の知見等に基づく心理療法や生活技能訓練を理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	13	心理的支援③ グループワークとセルフケア	ストレス解消やグループワークなどに用いることのできる技法を理解する。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	14	感情の発達と心理的支援	感情の発達の特徴と生じる心理的問題への心理的支援について学ぶ。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
	15	パーソナリティの発達と心理的支援	パーソナリティの発達と生じる心理的問題への心理的支援について学ぶ。			事前：前回の授業の復習をする 事後：次の主題の予習学修に取り組む		
16	定期試験	筆記試験			まとめ			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1・2	配布資料、スライドを用います。テーマに応じて、体験学習などを行い、課題は授業回ごとに出します。		なし		なし		ひとの発達や心理の視点から、ひとの理解や支援について考えましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日 5時限		なし	
定期試験		50	筆記試験					
課題提出		40	テーマに沿った考察、日本語表記		受講前に学習すること			
授業への積極的参加		10	体験学習、発表					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
9	介護の基本Ⅲ	1	30	必修	演習	2年	前期	齋藤 真木
実務経験と授業科目との関連性		訪問介護員、デイサービス相談員としての勤務経験を活かし、介護が必要な人の生活を、安全の確保及びリスクマネジメントの観点から理解できるよう、具体的事例を紹介しながら、講義を行う。						
講義目的		介護における安全の確保とリスクマネジメント及び介護従事者の安全について理解する。						
到達目標		リスクマネジメントの必要性を説明できる。 介護実践の場において、危険予知及び危険回避がわかる。 介護従事者の安全を守る方策や、求められる健康管理について説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	介護における安全性の確保とリスクマネジメント①	リスクマネジメント及びセーフティマネジメント・クオリティコントロールの意義・目的について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	2	介護における安全性の確保とリスクマネジメント②	介護における様々なリスクについて、種類、発生状況や要因に分け理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	3	介護における安全性の確保とリスクマネジメント③	危険予知と危険回避（観察・正確な技術、予測、分析、対策など）について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	4	介護における安全性の確保とリスクマネジメント④	介護事故と法的責任について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	5	介護における安全性の確保とリスクマネジメント⑤	防火・防災・減災対策及び緊急連絡システムについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	6	介護における安全性の確保とリスクマネジメント 感染対策①	感染予防の意義と目的について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	7	介護における安全性の確保とリスクマネジメント 感染対策②	地域において、日常・非日常を含め、様々な場で発生リスクの高い感染症とその対策について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	8	介護における安全性の確保とリスクマネジメント 薬剤の取り扱い	薬剤の取り扱いに関する基礎知識と連携として安全な薬物療法を支える視点を理解し、薬剤の取り扱い及びそのための多職種との連携について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	9	介護従事者の安全を守る環境の整備①	労働安全と環境整備について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	10	介護従事者の安全を守る環境の整備②	労働者災害について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	11	介護従事者の安全 介護従事者の心身の健康管理①	ストレス、燃えつき症候群、感情労働の理解を通じて、心の健康管理について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	12	介護従事者の安全 介護従事者の心身の健康管理②	感染予防対策、腰痛予防対策、作業環境の整備等の理解を通じて、身体の健康管理について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	13	介護従事者の安全 介護従事者の心身の健康管理③	労働者を支える組織としての労働組合の在り方について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	14	危険予知訓練①	課題について、グループ毎に、危険性と対策について考える。			発表準備をしておく		
	15	危険予知訓練②	課題について、グループ毎に危険性と対策について考え、発表する。			発表準備をしておく		
16	定期試験	筆記試験						
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義を基本とし、演習（グループワーク）も取り入れる		最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」・4「介護の基本Ⅱ」（中央法規）		なし		感染症の知識とその対応・薬剤の取り扱いについては、領域「ここことからだのしくみ」と深く連携しています。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
課題レポート		20	課題内容・日本語表現					
定期試験		80			受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
10	介護の基本IV	2	30	必修	講義	2年	後期	合津 千香
実務経験と授業科目との関連性		地域福祉活動コーディネーターの経験を活かし、介護が必要な人の地域に根差した生活という観点から理解できるよう、具体的事例を紹介しながら、講義を行う。						
講義目的		介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて、地域生活を支えるという視点で講義を行う						
到達目標		対象となる人のニーズにあわせた社会資源について説明できる。 介護を必要とする人の地域を基盤とした生活を支えるしくみがわかる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	地域を基盤とした生活	地域を基盤とした生活とはなにか、地域のとらえ方とその多様性、福祉圏域について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	2	社会資源の特徴の理解	社会資源について、フォーマル、インフォーマルな支援のそれぞれの特性をしる。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	3	インフォーマルな社会資源の実際	自分の居住する地域におけるインフォーマルな社会資源について調べ、発表する。			発表準備をしておく		
	4	介護を必要とする生活を支えるしくみ 高齢者①	介護を必要とする高齢者の生活の場と、フォーマル・インフォーマルな支援の活用についてまなぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	5	介護を必要とする生活を支えるしくみ 高齢者②	介護を必要とする高齢者の生活の場と、フォーマル・インフォーマルな支援の活用についてまなぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	6	介護を必要とする生活を支えるしくみ 障がい者①	介護を必要とする障害者の生活の場と、フォーマル・インフォーマルな支援の活用についてまなぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	7	介護を必要とする生活を支えるしくみ 障がい者②	介護を必要とする障害者の生活の場と、フォーマル・インフォーマルな支援の活用についてまなぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	8	介護を必要とする生活を支えるしくみ 障がい児①	介護を必要とする障害児の生活の場と、フォーマル・インフォーマルな支援の活用についてまなぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	9	介護を必要とする生活を支えるしくみ 障がい児②	介護を必要とする障害児の生活の場と、フォーマル・インフォーマルな支援の活用についてまなぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	10	介護を必要とする生活を支えるしくみ 医療的ケア児	医療ニーズの高い乳幼児を支えるしくみを学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	11	地域における福祉ニーズの把握方法と実際①	地域におけるアウトリーチの意義を学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	12	地域における福祉ニーズの把握方法と実際②	地域において見えづらい生活のしづらさについて、事例を通じて理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	13	地域における福祉ニーズの把握方法と実際③	地域において介護福祉士が福祉ニーズを把握する方法を事例を通じて理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	14	地域における福祉サービスの評価方法と実際①	福祉サービスの評価を必要とする背景について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	15	地域における福祉サービスの評価方法と実際②	評価の考え方と、福祉サービスの評価の方法と実際、プログラム評価について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	16	定期試験	筆記試験			前回までの復習をしてくる		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
5	テキスト、資料、プリントを使用し、問題を提示しながら講義する。		最新介護福祉士養成講座3「介護の基本I」・4「介護の基本II」(中央法規)		なし		地域での生活について学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		火曜日3時限		なし	
定期試験		80	5回		受講前に学習すること			
小テスト		20						
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
11	コミュニケーション技術Ⅱ	1	30	必修	演習	2年	前期	合津 千香
実務経験と授業科目との関連性		地域福祉活動コーディネーターの経験を活かし、様々な障害特性に応じたコミュニケーションスキルの習得にむけ、具体的事例を紹介しながら、講義を行う。						
講義目的		介護を必要とする人とその家族、またチームでのコミュニケーションの方法、また障害の特性に応じたコミュニケーション方法を身につける。						
到達目標		障害の特性に応じたコミュニケーション方法がわかる。また、家族やチームにおけるコミュニケーションの特性を理解し、適切な対応ができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	介護における記録①	様々な記録の特徴、管理、共有化について理解する。			シラバスを読んでおく		
	2	介護における記録②	個別援助実習の記録の反省を踏まえ、DVDの視聴、介護場面を記録しながら、良い記録について学ぶ。			実習記録で難しかったところをまとめておく		
	3	介護におけるチームのコミュニケーション①	情報共有の意義と活用方法について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	4	介護におけるチームのコミュニケーション②	カンファレンス(会議)におけるコミュニケーションについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	5	チームマネジメント①	チームの機能と構成、リーダーシップ、フォローアップについて学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	6	チームマネジメント②	人材育成の方法、モチベーションマネジメントについて理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	7	介護における家族とのコミュニケーション①	介護者としての家族の気持ちの理解と意向の確認について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	8	介護における家族とのコミュニケーション②	情報共有の仕方、本人と家族の意向を調整する技法について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	9	コミュニケーション障害の理解	コミュニケーション障害について理解し、介護福祉士に求められるコミュニケーション技術を考える。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	10	障害の特性に応じたコミュニケーション①	失語症のある人のコミュニケーションの特徴と方法について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	11	障害の特性に応じたコミュニケーション②	知的障害のある人のコミュニケーションの特徴と方法について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	12	障害の特性に応じたコミュニケーション③	視覚障害のある人とのコミュニケーションの方法として点字を理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	13	障害の特性に応じたコミュニケーション④	聴覚障害のある人とのコミュニケーションの特徴と方法について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	14	障害の特性に応じたコミュニケーション⑤	視覚、聴覚重複障害者とのコミュニケーションの特徴と方法について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	15	障害の特性に応じたコミュニケーション⑥	精神障害のある人とのコミュニケーションの特徴と方法について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
	16	定期試験	筆記試験					
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2・5	テキスト・プリント・DVD 視聴を通じての演習を基本とする。		最新介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」(中央法規)		なし		介護におけるコミュニケーションとは何か、考えていきましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			月曜日3時限		なし
定期試験		60	振り返りシート、提出物			受講前に学習すること		
演習への参加状況		40						
					コミュニケーション技術Ⅰ及び障害の理解の内容を理解しておくこと			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
13	生活支援技術VI	1	30	必修	演習	2年	後期	丸山 順子
実務経験と授業科目との関連性		看護師としての経験を活かして疾患・障害のある人の生活における介護に関する知識、技術の修得について講義・演習を行う。						
講義目的		利用者の疾病、障害に応じた介護の知識、技術を修得し、介護福祉の視点から自立に向けた介護の必要性を学ぶ。						
到達目標		利用者の疾病、障害に応じた介護の知識、技術を修得し、介護福祉の視点から自立に向けた介護の必要性を学ぶ。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	自立に向けた移動の介護①	疾患・内部障害のある人の移動介護の留意点について学ぶ。			シラバスを読んでくる		
	2	自立に向けた移動の介護②	演習を通して疾患・内部障害のある人の移動介護の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	3	自立に向けた身支度の介護①	疾患・内部障害のある人の身支度の介護の留意点について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	4	自立に向けた身支度の介護②	演習を通して疾患・内部障害のある人の身支度の介護の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	5	自立に向けた食事の介護①	疾患・内部障害のある人の食事介護の留意点について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	6	自立に向けた食事の介護②	演習を通して疾患・内部障害のある人の食事介護の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	7	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	疾患・内部障害のある人の入浴・清潔保持の介護の留意点について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	8	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	演習を通して疾患・内部障害のある人の入浴・清潔保持の介護の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	9	自立に向けた排泄の介護①	疾患・内部障害のある人の排泄介護の留意点について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	10	自立に向けた排泄の介護②	演習を通して疾患・内部障害のある人の排泄介護の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	11	自立に向けた家事の介護①	疾患・内部障害のある人の家事の介護の留意点について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	12	自立に向けた家事の介護②	演習を通して疾患・内部障害のある人の家事の介護の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	13	自立に向けた休息・睡眠の介護①	疾患・内部障害のある人の休息・睡眠の介護の留意点について学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	14	自立に向けた休息・睡眠の介護②	演習を通して疾患・内部障害のある人の休息・睡眠の介護の留意点を学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくる		
	15	技術の確認	グループで取り組んだ課題を発表する。			これまでの授業の資料の整理をしてくる		
16	定期試験	筆記試験			今までの復習をしてくる			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
2	テキスト・プリントを参考にしながら学習する		最新介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)	その都度指定する。		「障害の理解Ⅰ・Ⅱ」と連動しています。意識して演習をしましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			金曜日 5 時限	なし	
定期試験		50	筆記試験					
技術の達成度		50	グループ発表の評価と個人の実施・振り返りシート			受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
14	福祉住環境と生活支援	2	30	必修	講義	2年	前期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーターの資格を活かし、高齢者や障害者等の生活支援につながる福祉住環境コーディネーターの資格取得を目指して講義を行う。						
講義目的		高齢者・障害者等の自立した生活に寄与する福祉住環境の重要性とそれを実現する方法について理解することを目的とする。なお、本授業を通して、受講生が福祉住環境コーディネーター検定試験2級または3級の取得を目指すことを期待したい。						
到達目標		1. 高齢者や障害者等に配慮した居住環境や生活環境について理解できる。 2. 事例を通じて、福祉住環境整備の実際を理解できる。 3. 福祉用具や自助具の意義と活用について理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション 居住環境の整備の意義・目的①	授業の概要説明等 住まいの役割を理解した上で、高齢者・障害者等に適した居住環境について検討する。			シラバスを確認しておく。		
	2	居住環境の整備の意義・目的②	授業の概要説明等 福祉住環境整備が必要となる社会的背景を理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	3	居住環境整備の基本となる知識①	バリアフリーとユニバーサルデザインの意味について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	4	居住環境整備の基本となる知識②	シックハウス対策について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	5	居住環境整備の基本となる知識③	段差解消、スロープの取り付けの方法と留意点について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	6	居住環境整備の基本となる知識④	手すりの種類と手すりの取り付けの方法・留意点について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	7	自立に向けた居住環境整備の視点①	事例を通して、アプローチ・外構・玄関の福祉住環境整備について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	8	自立に向けた居住環境整備の視点②	事例を通して、廊下・階段の福祉住環境整備について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	9	自立に向けた居住環境整備の視点③	事例を通して、洗面・脱衣室・浴室の福祉住環境整備について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	10	福祉住環境整備における対象者の状態・状況に応じた留意点①	事例を通して、運動機能障害のある人への福祉住環境整備とその留意点について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	11	福祉住環境整備における対象者の状態・状況に応じた留意点②	事例を通して、疾患・内部障害のある人への福祉住環境整備とその留意点について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	12	福祉住環境整備における対象者の状態・状況に応じた留意点③	事例を通して、感覚機能障害のある人への福祉住環境整備とその留意点について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	13	福祉住環境整備における対象者の状態・状況に応じた留意点④	事例を通して、認知症の人への福祉住環境整備とその留意点について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	14	福祉住環境整備に関連する諸制度	バリアフリー新法と高齢者住まい法について理解する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
	15	福祉住環境整備による自立と生活支援	福祉住環境整備を通して、高齢者や障害者等の自立と生活支援について検討する。			テキストの該当箇所を読んでおく。		
16	定期試験	筆記試験			定期試験に備えて準備しておく。			
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
2・5	テキスト、パワーポイント、プリント・資料等を用いた授業を中心にを行う。		『福祉住環境コーディネーター2級速習テキスト(公式テキスト改訂6版対応)』(ユーキャン)	参考書については授業時に紹介する。	福祉住環境コーディネーター検定試験について、必要な情報を随時提供していきます。ぜひ、福祉住環境コーディネーター検定試験2級または3級にチャレンジしてほしいと思います。			
成績評価方法					オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準		火曜日5時限	なし		
定期試験		50						
中間評価		50			受講前に学習すること			
					各自で福祉住環境コーディネーター試験対策テキストを購入し、自主的な学習を行うことをすすめる。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
15	介護過程Ⅱ	1	30	必修	演習	2年	前期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、介護過程を展開する上で必要となる知識や方法について教授する。						
講義目的		個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開を理解することで、主としてアセスメントと介護計画の作成に関する方法を習得し、課題解決の思考過程を養うことを目的とする。なお、介護過程Ⅱでは、事例の対象を主として感覚機能障害のある利用者とし、介護過程を展開する。						
到達目標		1. 介護過程の展開方法について説明できる。 2. 個別の事例を通じて、介護過程とチームアプローチの関係について理解できる。 3. 主として感覚機能障害のある利用者の事例を通して、実際に介護過程を展開できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	オリエンテーション 介護過程の意義（・目的）と 基本的理解の復習	授業の概要説明等 介護過程の意義・目的と介護過程の基礎的理解（ニーズ、ディマンド、ストレングス、アドボカシー等）について復習する。			シラバスを読んでおく。		
	2	介護過程の展開の理解と介護過程に関する記録	介護過程を展開する一連のプロセスについて復習する。介護過程を展開する際に用いる介護過程に関する記録物について、過去の先輩が記載した例に基づき学ぶ。			事例1を読み、事例の概要を把握する。		
	3	感覚機能障害とアセスメント①（味覚・嗅覚・触覚障害）	感覚機能障害のうち味覚・嗅覚・触覚障害について、その疾病や症状、そこから派生する生活のしづらさを中心にアセスメントする。			事例2を読み、事例の概要を把握する。		
	4	感覚機能障害とアセスメント②（聴覚・言語障害）	感覚機能障害のうち聴覚・言語障害について、その疾病や症状、そこから派生する生活のしづらさを中心にアセスメントする。			事例3を読み、事例の概要を把握する。		
	5	感覚機能障害とアセスメント③（視覚障害）	感覚機能障害のうち視覚障害について、その疾病や症状、そこから派生する生活のしづらさを中心にアセスメントする。			事例1～3のアセスメントを行う。		
	6	アセスメントにおける情報の整理・統合・解釈と生活課題	事例1～3に基づき、アセスメントにおける情報の整理・統合・解釈の方法と生活課題の抽出方法を演習を通して理解する。			事例1～3のアセスメントを行う。		
	7	介護過程とチームアプローチ	事例1～3に基づき、アセスメントにおけるチームアプローチの方法とその重要性を理解する。			事例1～3のアセスメントシートの提出		
	8	生活課題の優先順位と介護計画に作成に向けて	アセスメントの記載方法について復習する。複数ある生活課題の中から介護計画につなげていく優先順位をどのように決めるか、その視点を明らかにする。			前回の復習をする。		
	9	介護計画の理解と作成方法	介護計画の視点と内容・記載方法を復習する。			前回の復習をする。		
	10	評価（モニタリングを含む）と理解と作成方法	評価（モニタリングを含む）の視点と内容と記載方法を復習する。			前回の復習をする。		
	11	感覚機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	事例の読み合わせを行い、「基本情報」「アセスメントシート No.1～3」に必要な情報を書き込む。			前回の授業の復習（場合によっては課題に取り組む）		
	12	感覚機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	「基本情報」「アセスメントシート No.1～3」に必要な情報を書き込み、情報の整理・統合・解釈を行う。			前回の授業の復習（場合によっては課題に取り組む）		
	13	感覚機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	情報の整理・統合・解釈を行い、生活課題を抽出する。			前回の授業の復習（場合によっては課題に取り組む）		
	14	感覚機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	抽出した生活課題を確認し、介護計画の方向性を検討する。			前回の授業の復習（場合によっては課題に取り組む）		
	15	感覚機能障害のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	介護計画における長期目標、短期目標、具体的な援助内容・方法を検討する。			事例のアセスメントを行い、介護計画を作成できるよう準備しておく。		
16	定期試験	介護計画の作成			定期試験に備える。			
DP	学修方法		テキスト		参考書	教員からのメッセージ		
3	プリント・資料等を活用する。学生に課題（宿題）を課し、それを教員が添削し解説するという流れで授業を行う。		なし		その都度指定する。	多様な視点・知識・技術が必要となる介護過程の基本を学びます。介護福祉士の実践を支える核となる介護過程について積極的に学んでほしいと思います。		
成績評価方法					オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分 (%)	評価基準		火曜日 5 時限	原則として「介護過程総論」の履修が必要となる。		
定期試験	50	事例に基づく介護過程の展開への取り組み状況を総合的に評価						
アセスメントシートの提出	50			受講前に学習すること				
					特に「介護過程総論」での学びを復習しておいてください。			



教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
16	介護過程Ⅲ	1	30	必修	演習	2年	後期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性		介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、介護過程を展開する上で必要となる知識や方法について教授する。						
講義目的		個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開を理解することで、主としてアセスメントと介護計画の作成に関する方法を習得し、課題解決の思考過程を養うことを目的とする。なお、介護過程Ⅲでは、事例の対象を主として認知症のある利用者とし、介護過程を展開する。						
到達目標		1. 介護過程の展開方法について説明できる。 2. 個別の事例を通じて、介護過程とチームアプローチの関係について理解できる。 3. 主として認知症のある利用者の事例を通して、実際に介護過程を展開できる。						
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション 介護過程の意義（・目的）と基本的理解の復習	授業の概要説明等 介護過程の意義・目的と介護過程の基礎的理解（ニーズ、デマンド、ストレングス、アドボカシー等）について復習する。			シラバスを読んでおく。		
	2	介護過程の展開の理解と介護過程に関する記録	介護過程を展開する一連のプロセスについて復習する。 介護過程を展開する際に用いる介護過程に関する記録物について、過去先輩が記載した例に基づき学ぶ。			事例1を読み、事例の概要を把握する。		
	3	認知症とアセスメント① (アルツハイマー型認知症)	認知症のうちアルツハイマー型認知症について、その特徴や症状、そこから派生する生活のしづらさを中心にアセスメントする。			事例2を読み、事例の概要を把握する。		
	4	認知症とアセスメント② (血管性認知症)	認知症のうち血管性認知症について、その特徴や症状、そこから派生する生活のしづらさを中心にアセスメントする。			事例3を読み、事例の概要を把握する。		
	5	認知症とアセスメント③ (レビー小体型認知症)	認知症のうちレビー小体型認知症について、その特徴や症状、そこから派生する生活のしづらさを中心にアセスメントする。			事例4を読み、事例の概要を把握する。		
	6	認知症とアセスメント④ (前頭側頭型認知症)	認知症のうち前頭側頭型について、その特徴や症状、そこから派生する生活のしづらさを中心にアセスメントする。			事例1～4のアセスメントを行う。		
	7	介護過程とチームアプローチ	事例1～4に基づき、アセスメントにおけるチームアプローチの方法とその重要性を理解する。			事例1～4のアセスメントシートの提出		
	8	生活課題の優先順位と介護計画に作成に向けて	アセスメントの記載方法について復習する。 複数ある生活課題の中から介護計画につなげていく優先順位をどのように決めるか、その視点を明らかにする。			前回の復習をする。		
	9	介護計画の理解と作成方法	介護計画の視点と内容・記載方法を復習する。			前回の復習をする。		
	10	評価(モニタリングを含む)と理解と作成方法	評価(モニタリングを含む)の視点と内容と記載方法を復習する。			前回の復習をする。		
	11	認知症のある利用者の事例に基づく介護過程の展開	事例の読み合わせを行い、「基本情報」「アセスメントシート No.1～3」に必要な情報を書き込む。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	12	認知症のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	「基本情報」「アセスメントシート No.1～3」に必要な情報を書き込み、情報の整理・統合・解釈を行う。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	13	認知症のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	情報の整理・統合・解釈を行い、生活課題を抽出する。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	14	認知症のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	抽出した生活課題を確認し、介護計画の方向性を検討する。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
	15	認知症のある利用者の事例に基づく介護過程の展開の理解	介護計画における長期目標、短期目標、具体的な援助内容・方法を検討する。			前回の授業の復習(場合によっては課題に取り組む)		
16	定期試験	筆記試験			定期試験に備える。			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	プリント・資料等を活用する。学生に課題(宿題)を課し、それを教員が添削し解説するという流れで授業を行う。		なし		その都度指定する。		多様な視点・知識・技術が必要となる介護過程の基本を学びます。介護福祉士の実践を支える核となる介護過程について積極的に学んでほしいと思います。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日5時限	原則として「介護過程総論」の履修が必要となる。	
課題シート		40	課題シートへの取り組み状況および					
定期試験		60	定期試験の結果を総合的に評価			受講前に学習すること		
					特に「介護過程総論」での学びを復習しておいてください。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
17	介護過程IV	1	30	必修	演習	2年	後期	福田 明
実務経験と授業科目との関連性	介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級の資格を所持している。これらの資格に加え、介護老人保健施設での勤務経験を活かし、介護過程とチームアプローチ、介護過程とケアマネジメント、介護過程と地域連携について学べるよう演習方式で授業を行う。							
講義目的	介護過程とケアマネジメントの関係性を理解した上で、介護計画と介護サービス計画（ケアプラン）の連携、チームアプローチとして介護過程を展開することの意義・方法、地域との連携方法を理解することを目的とする。							
到達目標	1. 介護過程とケアマネジメントの相違と関係性を理解できる。 2. 介護福祉職チームと多職種連携・協働について理解できる。 3. 地域連携の事例を通じて、介護過程とチームアプローチ、地域の社会資源の活用方法について理解できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション 介護過程の意義（・目的）と 基本的理解の復習	授業の概要説明等 介護過程の意義・目的と介護過程の基礎的理解（ニーズ、 ダイヤモンド、ストレングス、アドボカシー等）について復習する。			シラバスを読んで おく。		
	2	介護過程の展開の理解	介護過程を展開する一連のプロセスについて復習 する。			前回の復習をす る。		
	3	サービス担当責任者と訪問 介護計画	サービス担当責任者の役割と訪問介護計画の内 容・特徴について理解する。			前回の復習をす る。		
	4	ケアマネジメントの展開	介護支援専門員によるケアマネジメントの一連の プロセスについて理解する。			前回の復習をす る。		
	5	介護過程とケアマネジメン トの関係性	居宅で生活する利用者の事例を通して、介護過程と ケアマネジメントの違いと連携の必要性を理解する。			事例1を読み、事例 の概要を把握する。		
	6	介護計画と介護サービス計 画（ケアプラン）の関係性	居宅で生活する利用者の事例を通して、介護計画と ケアプラン（この場合、居宅サービス計画）の違い や連携の必要性を理解する。			事例1を読み、事例 の概要を把握する。		
	7	介護計画とサービス等利用 計画の関係性	事例を通して、介護計画とサービス等利用計画の 違いや連携の必要性を理解する。			前回の復習をす る。		
	8	介護福祉職チームと多職種 連携・協働の理解	介護老人保健施設で生活する利用者の事例を通して、 介護福祉職チームと多職種連携・協働の意味につい て理解する。			事例2を読み、事例 の概要を把握する。		
	9	介護過程とチームアプロ ーチ①	介護老人保健施設で生活する利用者の事例を通して、 介護福祉職チームによる介護過程の展開とその意義 について理解する。			事例2を読み、事例 の概要を把握する。		
	10	介護過程とチームアプロ ーチ②	介護老人保健施設で生活する利用者の事例を通して、 多職種連携・協働による介護過程の展開とその意義 について理解する。			事例3を読み、事例 の概要を把握する。		
	11	カンファレンスの意義・目 的	ケアカンファレンスとサービス担当者会議の相違 と意義・目的について理解する。			前回の復習をす る。		
	12	カンファレンスでの介護福 祉職の役割①	事例に基づき、ケアカンファレンスでの介護福祉 士の役割について理解する。			前回の復習をす る。		
	13	カンファレンスでの介護福 祉職の役割②	事例に基づき、サービス担当者会議での介護福祉 士の役割について理解する。			前回の復習をす る。		
	14	地域連携と介護福祉実践	フォーマルサービスとインフォーマルサポートの機 能・役割を知り、介護福祉士がそれらとどう連携し ていくかを検討する。			前回の復習をす る。		
	15	地域包括ケアと介護福祉士	地域包括ケアの推進における介護福祉士の役割に ついて考えることができる。			前回の復習をす る。		
16	定期試験	筆記試験			定期試験に備え る。			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3・5	プリント・資料等を活用する。時折、 テキストを活用して専門用語等の 確認を行う（テキスト使用時は事 前に連絡する）。		『見て覚える！介 護福祉士国試ナビ 2024』（中央法規）		その都度指定する。		介護福祉士がチームとして介護 過程をどのように展開していけ ばよいか、多職種連携・協働 を踏まえて検討していきます。 また、地域包括ケアの推進にお ける介護福祉士の役割について も考えます。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		火曜日5時限		原則として「介護過程総 論」の履修が必要です。	
中間評価		50	居宅サービス計画における介護報酬の算定等					
定期試験		50	筆記試験					
					受講前に学習すること			
					特に「介護過程総論」での学びを復習してお いてください。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
18	介護総合演習Ⅲ	1	30	選択	演習	2年	前期	合津 千香	
実務経験と授業科目との関連性	地域福祉活動コーディネーターの経験を活かして、実践に必要な基本的な知識の習得と介護福祉士としての役割、実習での学びについて講義・演習形式で行う。								
講義目的	介護総合実習の目的・内容を理解し、実習に臨む準備をする。また、研究課題を明確にして介護福祉研究につなぎ学びを深める。								
到達目標	①介護総合実習の目的・内容を理解し、実習に臨む準備ができる。 ②実習後の問題意識を介護研究につなげることができる。 ③これまでの実習等から自分の介護観をもつことができる。								
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修		担当教員	
	1	前期オリエンテーション事例報告について	1年間の授業内容を理解し、実習と研究の心構えができる。事例報告提出。				個別援助計画の事例報告を仕上げ持参		
	2	知識と技術の統合①事例報告の修正	事例報告の修正を行い、完成したものを提出する。				実習担当教員の指導を受けて、事例報告を修正しておく。		
	3	知識と技術の統合②事例報告発表会	事例報告をグループ内で発表する。				発表原稿を作成し、時間内に発表できるようにしておく。		
	4	知識と技術の統合③事例報告発表会	事例報告をグループ内で発表する。				発表原稿を作成し、時間内に発表できるようにしておく。		
	5	介護実践の科学的探究①事例研究の進め方	事例研究とは何か講義を聴いて理解する。				自分の研究課題を明らかにしておく。		
	6	介護実践の科学的探究②事例研究の進め方	事例研究の書き方、文献検索の方法について理解する。				自分の研究課題を明らかにしておく。		
	7	介護実践の科学的探究③事例研究の進め方	事例研究論文の査読を行い、全体像を理解する。				自分の研究課題を明らかにしておく。		
	8	知識と技術の統合④介護総合実習の計画	介護総合実習の計画書と誓約書を作成する。				自分の実習での目標と行動について考えてくる。		
	9	知識と技術の統合⑤地域での生活と多職種協働	利用者の地域での生活と利用者理解の重要性、チームケアの実際について学ぶ。				適宜指示する		
	10	知識と技術の統合⑥地域社会における施設の役割	地域社会での施設の役割について理解する。				適宜指示する		
	11	実習準備 アクティビティ・サービスの立案	アクティビティ・サービスの考え方と実践方法を理解する。アクティビティ・サービス計画を立てる。				アクティビティ・サービスにはどのようなものがあるか調べてくる。		
	12	実習準備 アクティビティ・サービスの発表	立案したアクティビティ・サービスを発表する。				アクティビティ・サービスを進行できるように練習してくる。		
	13	実習準備 アクティビティ・サービスの発表	立案したアクティビティ・サービスを発表する。				アクティビティ・サービスを進行できるように練習してくる。		
	14	実習準備 実習記録の確認	実習に臨む態度と課題を明確にする。実習記録の書き方と諸注意				実習記録一式を確認しておく。		
	15	まとめ	情報を整理統合し、生活課題を導き、介護計画を立案することができる。				アセスメントシートの作成、介護計画の立案		
16									
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2・4	講義、演習、発表などを行う。		実習要項		なし		介護総合実習の実習課題を明らかにして、充実した実習になるようにしよう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			月曜日3時限		なし	
発表		80	事例報告発表・アクティビティ発表						
提出物		20				受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員		
19	介護総合演習Ⅳ	1	30	選択	演習	2年	後期	合津・丸山 福田・齋藤・武井		
実務経験と授業科目との関連性	科目担当教員が下記の勤務経験を活かし、介護現場と利用者理解について実習指導を行う。合津：社会福祉士（地域福祉活動コーディネーター）丸山：看護師（病院勤務）福田：介護福祉士（施設勤務等）齋藤：介護福祉士（訪問介護員等）武井：看護師（病院勤務等）									
講義目的	介護総合実習の学びをもとに課題を追求し、介護福祉・事例研究を行い、研究能力を養い、自分の介護観を育む。成果を発表することにより、プレゼンテーション力をつける。									
到達目標	①介護総合実習での学びから課題を追求し介護福祉・事例研究のまとめを行うことができる。 ②実習の成果を発表することができる。③これまでの実習等から自分の介護観をもつことができる。									
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員			
	1 後期オリエンテーション	介護総合演習の全体を理解し、研究への心構えが出来る。論文提出日までの計画を立てる。				指導教員と打合せ				
	2 介護実践の科学的探究①	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	3 介護実践の科学的探究②	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	4 介護実践の科学的探究③	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	5 介護実践の科学的探究④	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	6 介護実践の科学的探究⑤	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	7 介護実践の科学的探究⑥	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	8 介護実践の科学的探究⑦	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	9 介護実践の科学的探究⑧	介護福祉・事例研究のまとめ方について理解し、研究をすすめることができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	10 介護実践の科学的探究⑨	介護福祉・事例研究提出 抄録提出を提出することができる。				指導教員の指導を受けて研究を進める。				
	11 介護実践の科学的探究⑩	抄録集作成と発表会のオリエンテーション				指導教員の指導を受けてパワーポイントを作成しておく。				
	12 介護実践の科学的探究⑪	作成したパワーポイントを点検し、発表原稿を作成する。				指導教員の指導を受けてパワーポイントを作成しておく。				
	13 介護実践の科学的探究⑫	研究発表会発表練習において、時間内に発表ができ、他学生からも学ぶことができる。				時間内で発表できるように練習しておく				
	14 15 16	介護福祉・事例研究発表会で発表ができ、他学生からも学ぶことができる。				時間内で発表できるように練習しておく				
	DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2・4	介護福祉・事例研究のまとめ方について、適宜講義・演習を行う。		なし		なし		2年間の集大成となる研究に全力で取り組みましょう。			
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件			
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		なし		
授業への取り組み		20	提出物			受講前に学習すること		介護総合実習で担当事例に真摯に向き合うこと。		
研究の成果		80	介護福祉・事例研究評価表による							

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
20	介護総合実習	3	180	選択	実習	2年	前期	合津・齋藤・丸山・福田・武井
実務経験と授業科目との関連性		科目担当教員が下記の勤務経験を活かし、介護現場と利用者理解について実習指導を行う。 合津：社会福祉士（地域福祉活動コーディネーター） 齋藤：介護福祉士（訪問介護員等） 丸山：看護師（病院勤務） 福田：介護福祉士（施設勤務等） 武井：看護師（病院勤務等）						
講義目的		(1)利用者の個別理解を深め、利用者の望む生活の実現に向けて介護過程を実践する。(2)利用者や生活の場に応じた生活支援を各領域で学んだ知識と技術を統合して実践する。(3)利用者本位のサービスを提供するため介護福祉士の役割を理解した上で多職種との協働を実践的に学ぶ。(4)利用者の生活を地域との関わりから考え、地域における生活支援という視点で援助する。(5)地域社会における施設の役割を理解する。						
到達目標		(1)利用者の個別理解を深め、利用者の望む生活の実現に向けて介護過程を実践できる。(2)利用者や生活の場に応じた生活支援を各領域で学んだ知識と技術を統合して実践できる。(3)利用者本位のサービスを提供するため介護福祉士の役割を理解した上で多職種との協働を実践的に学ぶことができる。(4)利用者の生活を地域との関わりから考え、地域における生活支援という視点で援助できる。(5)地域社会における施設の役割を理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	<p>&lt;本日の主題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施設の理解をし、事前に実習計画を立てて主体的に実習ができる。</li> <li>2) 利用者と良好な人間関係を形成することができる。</li> <li>3) 介護過程の実践的展開をとおして、利用者の望む生活の理解と自立支援の実践を行うことができる。</li> <li>4) 安全で身体状況に合わせた生活支援を指導者の見守りの下で、2人以上できる。</li> <li>5) 生活の活性化や維持拡大のためのアクティビティ・サービスを考えることができる。</li> <li>6) 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働の実践を理解できる。</li> <li>7) 利用者の生活と地域との関わりを理解し、利用者の地域における生活支援の実践をするという視点で援助できる。</li> <li>8) 施設と地域との関わりから、社会資源としての施設の役割を理解できる。</li> </ol> <p>&lt;授業（実習）概要&gt;</p> <p>実習期間 2023年8月28日～9月27日 23日間</p> <p>実習場所 実習施設・事業等（Ⅱ） 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか1施設</p> <p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習計画のもと、毎日の目標を立てて実習を行う。</li> <li>・指導者の指導・見守りのもと、生活支援技術を実践する。</li> <li>・1人の利用者を受け持ち、利用者の望む生活にむけて介護過程に基づいて介護計画を立案し、実施・評価する。</li> <li>・利用者に合ったアクティビティ・サービス計画の立案・実施・評価を行う。</li> <li>・申し送りやケースカンファレンスに参加し、多職種を含めたチームケアの実践を理解する。</li> <li>・利用者の生活と地域との関わりを知り、地域で生活する人という視点で利用者を理解する。</li> <li>・地域における施設の事業や交流について知り、地域拠点としての施設の役割を考える。</li> </ul> <p>&lt;事前・事後学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の日の目標を立てる。</li> <li>・行動記録を毎日書き、提出する。</li> <li>・実習終了後、自己評価を行い、実習記録を完成させ提出する。</li> </ul> <p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>巡回担当教員が、週に1回巡回指導を行う。</p>							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1・2 3・4 5	実習指導者の指導のもと、実習目的・目標に掲げた内容が到達できるように、利用者に関わり実習する。実習記録を書き、毎日提出する。		実習要項		なし		今までの学びが統合できるように積極的に取り組みましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		個別援助実習の単位を取得していること	
実習目標		75	介護総合実習評価表による					
基本的態度		25	記録、積極性、計画性、責任感、実習態度		受講前に学習すること			
					介護総合演習Ⅲの課題にそって実習の準備を進めておく			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
21	認知症の理解Ⅱ	2	30	必修	講義	2年	前期	武井 浩子
実務経験と授業科目との関連性		看護師としての経験から認知症の人の医学的・心理的・社会的側面に関する基礎知識と認知症の人が尊厳をもって自立した生活を営むために必要な知識・技術について講義を行う。						
講義目的		認知症の医学的、心理学的、社会学的側面を理解した上で、認知症の人が尊厳をもって自立した生活が営めるよう、本人・家族・地域の力を活かした支援するために <b>必基礎的な知識</b> を習得する。						
到達目標		1. 認知症に伴うことからの変化と日常生活への影響を理解できる。2. 認知症の人の生活・家族・地域や社会への関わりへの影響より、その人の認知症ケアを考え理解することができる。3. 認知症の人や家族に対する地域でのサポート体制や多職種連携と協働について学ぶことができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①認知症に伴う生活への影響	認知症のある人の生活・コミュニケーション・社会とのかかわりにおける障害について理解を深める。			認知症の理解Ⅰの内容を見直しておく		
	2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②本人主体のケア	パーソンセンタード・ケアに基づいた実践より、本人主体のケア(意思決定支援)やパーソンセンタード・ケアへの理解を深める。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③認知症の特性を踏まえたアセスメント	認知症ケアの実際として、認知症の特性を踏まえたアセスメントの必要性和ツールとしてのセンター方式の理解をする。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④認知症の特性を踏まえたアセスメント	認知症ケアの実際として、認知症の特性を踏まえたアセスメントの必要性和ツールとしてのセンター方式の理解をする。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑤認知症の特性を踏まえたアセスメント	認知症ケアの実際として、認知症の特性を踏まえたアセスメントの必要性和ひもときシートの思考の転換や展開を通して理解をする。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑥認知症の特性を踏まえたアセスメント	認知症ケアの実際として、認知症の特性を踏まえたアセスメントの必要性和ひもときシートの思考の転換や展開を通して理解をする。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	7	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑦コミュニケーション	認知症ケアの実際として、認知症の特性を踏まえたコミュニケーション方法より、生活が円滑に行われ、精神安定が図れることを理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑧生活支援・環境への配慮	認知症ケアの実際として、認知症の特性を踏まえた生活支援・環境への配慮により、生活が円滑に行われ、精神安定が図れることを理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	9	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑨人生最終段階のケア	認知症ケアの実際として、認知症のある人の人生最終段階のケアを学び、かかえる課題についても理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	10	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑩回想法他	認知症の人への様々な関わりとして実際として、リアリティオリエンテーション、回想法、バリデーションを理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	11	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑪ユマニチュード他	認知症の人への様々な関わりとして実際として、ユマニチュード、聞き書き、音楽療法などを理解する			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	12	連携と協働①地域におけるサポート体制	地域包括支援センター、コミュニティ地域連携、ボランティア、認知症サポーターの役割・機能等を考えることができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	13	連携と協働②多職種連携と協働	チームアプローチ(多職種連携協働)のケアについて学び、それぞれ専門職の果たす役割について理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	14	家族への支援①家族の状況と家族への支援	認知症の家族の身体的・心理的・社会的影響や受容等家族が直面している実態を学ぶ。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	15	家族への支援 家族の介護力の評価、家族のレスパイト	認知症の本人・家族の状況、介護力等より、地域における家族の支援や体制について学ぶ。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
16	定期試験	筆記試験			まとめ			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3・5	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。		最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解」(中央法規)		なし		認知症の方々に対して、さまざまな要因からアセスメントできるように学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		70	根拠性、一貫性、適切なケア		受講前に学習すること			
課題レポート		30						
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
22	障害の理解 I	2	30	必修	講義	2年	前期	丸山 順子

実務経験と授業科目との関連性	看護師としての経験から障害のある人の心理や身体機能・社会的側面に関する基礎的知識、技術について講義を行う。
講義目的	障害のある人の心理や身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、多職種連携と協働のもと、生活と障害の特徴に応じた支援について理解する。
到達目標	1. 障害者福祉の基本理解ができる。2. 身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、内部障害）のある人の医学的・心理的・社会的状況など基礎的な理解と生活と障害の特性に応じた支援が理解できる。

本日の主題		授業概要	事前・事後学修	担当教員
教 育 内 容	1 障害の基礎的理解① 概念・基本的理念と及び関係法規	障害の定義、基本的理念、関係法規、ICFへの変遷を踏まえた障害の概念を理解できる。	事前：テキストを読んでおく	
	2 障害の基礎的理解② 就労、状況と施策	障害者の生活（就労）の状況とサービス及び関係法規（障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法）を理解できる。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	3 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援①（生活への影響）	ライフステージに沿って、障がいのある人の特性を踏まえたアセスメント、生活課題、支援等の必要性を考慮することができる。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	4 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援②（環境、自立支援）	障害者がより良く生活するための手帳制度の理解と自立支援・環境について考えることができる。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	5 障害の心理的側面の基礎的理解	障害が及ぼす心理的理解、受容過程、適応と適応規制・障害のある子どもの心理などが理解できる。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	6 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解①聴覚障害	聴覚障害・言語機能障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	7 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解②視覚障害	視覚障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	8 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解③(肢体不自由①)	肢体不自由（脊髄損傷）の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	9 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解④(肢体不自由②)中間試験	肢体不自由（運動機能障害）の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。中間試験を行う。	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	10 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援③（肢体不自由他）	QOLを高める支援のための理解 身体障害による機能の変化が及ぼす影響、障害のある人の障害の特性に応じた支援の内容（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害、言語機能障害）	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	11 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑤（内部障害①）	内部障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	12 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑥内部障害②	内部障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	13 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援④（内部障害①）	QOLを高める支援のための理解 内部障害による機能の変化が及ぼす影響 内部障害の特性に応じた支援の内容(心臓・腎臓・呼吸器・膀胱または直腸、小腸、免疫機能、肝機能)	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	14 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援⑤（内部障害②）	QOLを高める支援のための理解 内部障害による機能の変化が及ぼす影響 内部障害の特性に応じた支援の内容(心臓・腎臓・呼吸器・膀胱または直腸、小腸、免疫機能、肝機能)	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	15 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑦障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援⑥高次脳機能障害	高次脳機能障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。QOLを高める支援のための理解 内部障害による機能の変化が及ぼす影響 内部障害の特性に応じた支援の内容	事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	16 定期試験	筆記試験	これまでの復習	

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
2	講義を中心として、視覚教材等を用い、理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う	最新介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」(中央法規)	最新介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)	障害を負った当事者の思いや生活実態を踏まえながら、障害者の「より良い人生」に向けた支援方法を一緒に学びましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	金曜日 5時限	なし
定期試験	40			
中間試験	40			
小テスト	20			
			受講前に学習すること	
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
23	障害の理解 II	2	30	必修	講義	2年	後期	丸山 順子
実務経験と授業科目との関連性		看護師としての経験から精神、発達、知的等に障害のある人の医学的・心理的・社会的側面に関する基礎的な知識や支援、多職種連携と協働について講義を行う。						
講義目的		発達、知的、精神等に障害のある人の医学的・心理的・社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、多職種連携と協働のもと、生活と障害の特徴に応じた支援・家族への支援について理解する。						
到達目標		1. 精神障害、発達障害、知的障害、難病等がある人の医学的・心理的・社会的状況など基礎的な理解と生活と障害の特性に応じた支援が理解できる。 2. 障害者の生活支援のための多職種連携と協働の重要性について理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	連携と協働 ①地域におけるサポート体制 ②地域自立支援協議会との連携	地域におけるサポート体制—行政、関係機関・地域自立支援協議会との連携について考えることができる。			事前：テキストを読んでおく		
	2	連携と協働 ③チームアプローチ—他の福祉職種との連携 ④保健医療職種との連携	チームアプローチ—他の福祉職種・医療職種との連携について考えることができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	3	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解①（精神障害①）	精神障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	4	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解②（精神障害②）	精神障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	5	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援①（精神障害①）	QOLを高める支援のための理解 身体障害による機能の変化が及ぼす影響、障害のある人の障害の特性に応じた支援の内容を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	6	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援②（精神障害②）	QOLを高める支援のための理解 精神障害による機能の変化が及ぼす影響、障害のある人の障害の特性に応じた支援の内容を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	7	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解③（発達障害）	発達障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	8	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援③（発達障害） 中間試験	QOLを高める支援のための理解 発達障害による機能の変化が及ぼす影響、障害のある人の障害の特性に応じた支援の内容を理解できる。中間試験を行う。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	9	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解④（知的障害）	知的障害の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	10	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援④（知的障害）	QOLを高める支援のための理解 知的障害による機能の変化が及ぼす影響、障害のある人の障害の特性に応じた支援の内容を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	11	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑤（難病①）	難病の定義・関係法規・原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	12	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解⑥（難病障害②）	難病の原因と特性、日常生活への影響とアセスメント、特性に応じた支援を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	13	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援⑤（難病）	QOLを高める支援のための理解 難病による機能の変化が及ぼす影響、障害のある人の障害の特性に応じた支援の内容を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	14	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援⑥（難病）	QOLを高める支援のための理解 難病による機能の変化が及ぼす影響、障害のある人の障害の特性に応じた支援の内容を理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
	15	家族への支援 ①家族の障害の受容の過程での援助 ②家族の介護力の評価 ③家族のレスパイト	家族の障害の受容の過程での支援、家族の介護力の評価、レスパイト等について理解することができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		
16	定期試験	筆記試験			まとめ			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義を中心として、視覚教材、グループワーク等を用い、理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う		最新介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」（中央法規）		最新介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」（中央法規）		「より良い人生」に向けた支援を障害の理解を深めることで学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			金曜日 5 時限		なし
定期試験		40				受講前に学習すること		
中間試験		40						
小テスト		20						
					なし			



教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
24	医療的ケア I	1	15	選択	講義	2年	前期	武井 浩子

実務経験と授業科目との関連性	看護師としての経験を活かし、医療的ケアの感染予防や呼吸及び栄養管理について実践的な授業を展開する。
講義目的	医療的ケア実施の基礎として、制度の概要及び個人の尊厳と自立、関連する感染予防、安全と管理体制等を理解する。
到達目標	1. 介護職の医療的ケア実施の導入の経緯、制度等を理解できる。 2. 安全な療養生活ができるように、個人の尊厳を守り感染予防等の医療的ケアの基礎知識を理解できる。

教育内容	本日の主題		授業概要		事前・事後学修	担当教員
	1	1) 医療的ケア実施の基礎 (1)人間と社会	なぜ医療的ケアを学ぶのかを個人の尊厳と自立支援のもと、医療の倫理、介護職の専門的役割・医療的ケアの制度とその導入過程を理解する。		テキストを読んでおく	
	2	1) 医療的ケア実施の基礎 (2)保険医療制度とチーム医療	保健医療制度、介護保険制度等を理解し、医療的行為の法的理解と医療的行為の危険性を理解する。(保健医療に関する法律・諸制度)また、医療チームとの連携の重要性が理解できる。		事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	3	1) 医療的ケア実施の基礎 (3)安全な療養生活①	痰の吸引や経管栄養(医療的ケア)の安全な実施について概要を理解する。また、リスクマネジメントの必要性とヒヤリハットとの報告が予防につながる事が理解できる。		事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	4	1) 医療的ケア実施の基礎 (3)安全な療養生活②	医療的ケアの安全管理と救急蘇生等について理解できる		事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	5	1) 医療的ケア実施の基礎 (4)清潔保持と感染予防①	感染の機序と原因、感染管理と予防(スタンダードプリコーション)について学び、手洗いや感染予防方法(ガウンテクニック)を理解できる		事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	6	1) 医療的ケア実施の基礎 (4)清潔保持と感染予防②	療養環境の清潔保持方法が理解できる。消毒や滅菌の方法と使用上の留意点が理解できる。また、職員の感染予防について理解できる		事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	7	1) 医療的ケア実施の基礎 (5)健康状態の把握①	こころとからだの健康を理解し、健康状態の把握の必要性が理解できる。また、健康状態の把握(観察)に必要なバイタルサインの測定方法が理解できる。		事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
	8	1) 医療的ケア実施の基礎 (5)健康状態の把握②	急変時の観察と対応について理解する。		事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習	
9	定期試験	筆記試験		試験に向けた準備をしてくる		

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
2・4	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。	最新介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」(中央法規)	必要時指示する	医療的ケアの経緯を理解し、医療職との連携について考えていきましょう。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	木曜日 5時限	介護福祉士国家試験受験対象者
定期試験	70	筆記試験		
小テスト	30	各節ごとに実施		
			なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
25	医療的ケアⅡ	2	30	選択	講義	2年	前期	丸山順子・武井浩子
実務経験と授業科目との関連性		看護師の経験を活かし、医療的ケアの感染予防等の安全や喀痰吸引に伴う呼吸管理等について実践的な授業を展開する。						
講義目的		医療的ケアにおいて、喀痰吸引の知識を深め、予防的ケアや喀痰吸引の適切なケアの必要性を学習する。						
到達目標		1. 喀痰吸引の根拠に基づく知識を深め、予防的ケアや適切なケア方法が理解できる。 2. 喀痰吸引の根拠のある知識を基に、安全な実施手順が理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ①呼吸の仕組みと働き	喀痰吸引に関する呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸等について			テキストを読んでおく		丸山
	2	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ②喀痰吸引とは	喀痰吸引とは、痰を生じて排出するしくみ。痰の貯留を示す状態と観察のポイントについて			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	3	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ③喀痰吸引の必要性	喀痰吸引とは、喀痰吸引が必要な状態について			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	4	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ④こどもの吸引	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応（説明と同意）			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	5	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ⑤喀痰吸引の感染と予防	呼吸器系（喀痰吸引に伴う）の感染と予防について			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	6	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ⑥人工呼吸器の仕組み	人工呼吸が必要な状態、人工呼吸のしくみ			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	7	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ⑦喀痰吸引の危険と安全	痰の吸引により生じる危険・安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策・連携			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	8	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ⑧急変時の対応	子どもの吸引について理解できる。			テキストを読んでおく		丸山
	9	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ⑨記録と報告	痰の吸引に伴うケア 報告及び記録について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	10	2) 喀痰吸引(1)基礎的知識 ⑩家族支援	家族支援について理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	11	2) 喀痰吸引(2)実施手順① 必要物品と清潔管理	痰吸引で用いる器具・機材とその仕組み、清潔操作と清潔の保持			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	12	2) 喀痰吸引(2)実施手順② 喀痰吸引時の留意点	喀痰吸引実施における留意点を理解し技術を理解する。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	13	2) 喀痰吸引(2)実施手順③ 実施時の報告と記録	喀痰吸引実施における報告及び記録の必要性を理解することができる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		丸山
	14	2) 喀痰吸引(2)実施手順④ 口腔、鼻腔吸引の技術	喀痰吸引実施手順を根拠も含めて、口と鼻からの吸引方法が理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		武井
	15	2) 喀痰吸引(2)実施手順⑤ 気管カニューレ内部吸引の技術	喀痰吸引実施手順を根拠も含めて、気管カニューレ内の吸引方法が理解できる。			事前：テキストを読んでおく 事後：前回の授業の復習		武井
16	定期試験	筆記試験			試験に向けた準備をしてくる		丸山	
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。		・最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」（中央法規） ・長野県喀痰吸引等研修演習マニュアル		その都度指定する		医療的ケアの必要な知識の習得と、利用者の気持ちを考えることで、予防的ケアにも目を向けて学習できるようにしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		医療的ケアⅠが履修できていること	
定期試験		70						
小テスト		30			受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
26	医療的ケアⅢ	2	30	選択	講義	2年	後期	丸山順子・武井浩子
実務経験と授業科目との関連性		看護師の経験を活かし、医療的ケアの感染予防等の安全や経管栄養による栄養管理について授業を展開する。						
講義目的		医療的ケアにおいて、経管栄養の根拠ある知識を深め、経管栄養の適切なケアの必要性を学習する。						
到達目標		1. 経管栄養の根拠に基づく知識を深め、適切なケア方法が理解できる。 2. 経管栄養の根拠のある知識を基に、安全な実施手順が理解できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ①消化器系の仕組み	経管栄養に関する人体のしくみとはたらき、消化器症状等について			テキストを読んでおく		武井
	2	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ②経管栄養とは	経管栄養とは、経管栄養が必要な状態と観察のポイントについて			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	3	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ③経管栄養剤とは	経管栄養に関する経管栄養剤とは、注入内容について			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	4	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ④感染と予防	経管栄養に関する感染と予防について			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	5	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ⑤説明と同意	経管栄養に関する利用者の気持ちと家族の対応等について、説明と同意			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	6	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ⑥危険と安全確認	経管栄養に関する生じる危険と安全確認について			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	7	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ⑦急変時の対応	経管栄養に関する急変・事故発生時の対応等について			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	8	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ⑧こどもの経管栄養	子どもの経管栄養に必要なケアについて			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	9	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ⑨報告と記録	経管栄養に伴うケアについて (ならないための予防ケア) 報告及び記録のポイント			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	10	3) 経管栄養(1)基礎的知識 ⑩家族支援	家族支援について、家族の思いを理解する。			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	11	3) 経管栄養(2)実施手順① 必要物品と清潔管理	経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持について			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	12	3) 経管栄養(2)実施手順② 経管栄養の留意点	経管栄養実施における留意点を理解し技術を理解する。			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	13	3) 経管栄養(2)実施手順③ 実施時の報告と記録	経管栄養実施における報告及び記録の必要性を理解し実施できる。			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		武井
	14	3) 経管栄養(2)実施手順④ 胃ろう経管法	経管栄養実施手順を根拠も含めて、胃ろう注入方法について理解できる。			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		丸山
	15	3) 経管栄養(2)実施手順⑤ 経鼻経管栄養法	経管栄養実施手順を根拠も含めて、経鼻経管栄養の注入方法について理解できる。			事前: テキストを読んでおく 事後: 前回の授業の復習		丸山
16	定期試験	筆記試験			試験に向けた準備をしてくる		武井	
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。毎回の小テストで知識の習得の確認を行う。		・最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」(中央法規) ・長野県喀痰吸引等研修演習マニュアル		なし		医療的ケアを必要とする利用者の気持ちになって、適切な技術を習得しましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		医療的ケアⅠ・Ⅱが修得していること	
定期試験		70						
小テスト		30			受講前に学習すること			
					医療的ケアⅠ・Ⅱの復習			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
27	医療的ケアIV	1	15	選択	演習	2年	後期	丸山順子 武井浩子
実務経験と授業科目との関連性		看護師の経験を生かし、医療的ケアの感染予防や呼吸及び栄養管理について実践的な授業を展開する。						
講義目的		喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ内部の吸引）、経管栄養（胃ろう・経鼻経管）栄養の演習評価基準に達し、適切な援助ができる。						
到達目標		1. 喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ内部の吸引）の演習評価基準に達し適切な援助ができる。 2. 経管栄養（胃ろう・経鼻経管）栄養の演習評価基準に達し、適切な援助ができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	演習（評価） 喀痰吸引 口腔吸引 5回以上 鼻腔吸引 5回以上 気管カニューレ吸引 5回以上  演習（評価） 経管栄養 胃ろう 5回以上 経管栄養 5回以上  演習 救急蘇生法	喀痰吸引 口腔吸引 5回以上 鼻腔吸引 5回以上 気管カニューレ吸引 5回以上  経管栄養 胃ろう 5回以上 経管栄養 5回以上 行い、実技試験として、最終評価（5回目からの）全項目がすべてできている。			喀痰吸引の適切な手順を復習してくる  経管栄養の適切な手順を復習してくる		丸山順子  武井浩子
	2							
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
9	定期試験							
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
2	モデル人形を用いて実技試験を実施する。		長野県喀痰吸引等研修演習マニュアル	最新・介護福祉士養成講座「医療的ケア」（中央法規）	自己学習を行い、評価項目が全てできる状態で臨みましょう。			
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分（%）	評価基準		各教員のオフィスアワーを確認すること		医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲが履修できていること。	
実技試験		70	評価内容を各行為5回目には全てできる		受講前に学習すること			
定期試験		30			医療的ケアⅡ・Ⅲの実施手順内容を復習しておくこと			

## V. 教員担当科目一覧

## 令和5年度 介護福祉学科 専任教員担当科目一覧

氏名	担当科目
木内 義勝	人間の尊厳と自立
丸山 順子	初年度教育Ⅰ・Ⅱ    キャリアデザイン入門    ころとからだのしくみⅠ-2 地域交流演習    介護の基本Ⅰ    障害の理解Ⅰ・Ⅱ    キャリアデザインⅡ 医療的ケアⅡ・Ⅲ・Ⅳ    生活支援技術Ⅵ    介護導入実習    介護基礎実習 地域介護実習    個別援助実習    介護総合実習    介護総合演習Ⅳ
合津 千香	地域生活と文化    現代社会と福祉    社会保障論Ⅰ・Ⅱ    地域交流演習    初年度教育Ⅰ・Ⅱ 社会保障と人間の生活    介護の基本Ⅳ    コミュニケーション技術Ⅱ 介護総合演習Ⅲ・Ⅳ    介護導入実習    介護基礎実習    地域介護実習    個別援助実習 介護総合実習
福田 明	介護福祉論Ⅰ・Ⅱ    介護過程総論    介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ    初年度教育Ⅰ・Ⅱ 地域交流演習    キャリアデザイン入門    キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ 福祉住環境と生活支援    介護導入実習    介護基礎実習    地域介護実習 個別援助実習    介護総合実習    介護総合演習Ⅳ
齋藤 真木	介護の基本Ⅱ・Ⅲ    生活支援技術Ⅳ    家政の生活支援Ⅰ    介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ 初年度教育Ⅰ・Ⅱ    地域交流演習    キャリアデザインⅠ    人間関係とコミュニケーションⅡ 介護導入実習    介護基礎実習    地域介護実習    個別援助実習    介護総合実習
武井 浩子	ころとからだのしくみⅠ-1・Ⅱ-1    発達と老化の理解Ⅰ    認知症の理解Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション技術Ⅰ    生活支援技術Ⅴ    初年度教育Ⅰ・Ⅱ    地域交流演習 医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ    介護導入実習    介護基礎実習    地域介護実習 個別援助実習    介護総合実習    介護総合演習Ⅳ

## 令和5年度 介護福祉学科 兼任講師担当科目一覧

氏 名	担 当 科 目
永石 喜代子	人間関係とコミュニケーションⅠ
高下 梓	人間の発達と心理的支援

## 令和5年度 介護福祉学科 兼任講師担当科目一覧

氏 名	担 当 科 目
中倉 典子	家政の生活支援Ⅱ
原田 春海	生活支援技術の基本 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ
花野 希久美	こころとからだのしくみⅡ-2 発達と老化の理解Ⅱ

## 学校所在地

松本短期大学	〒399-0033 松本市笹賀3118	0263-58-4417
--------	------------------------	--------------

### 令和5年度 シラバス〈履修ガイド〉 介護福祉学科

発行 令和5年4月1日  
松 本 短 期 大 学  
〒399-0033  
松本市笹賀3118  
電話 0263-58-4417

印刷所 アサカワ印刷株式会社  
〒399-0005  
松本市野溝木工1丁目6番34号  
電話 0263-25-5600